（第一號書式）

煙草耕作許可申請書

煙草許可番號第　號

年　月　日

葉煙草收納所長宛

町村	大字	字	地番	段別	畦間	株間	本數	事由
合計	何箇所							

一種類　何千（何々葉ハ何千何葉ハ同千）
一乾燥區分　何千（何々葉ハ何千何葉ハ同千）
一耕床所在地及坪數　町（村）大字、字、地番　何坪
一貯藏場何々　（居宅構内又ハ町（村）大字、字、地番（何雜所有）何建物）
一乾燥場何々　（居宅構内又ハ町（村）大字、字、地番（何雜所有）何建物）

要例

一　一筆ノ土地ニシテ煙草ノ耕作二箇所以上ニ分ルルモノハ地番ノ下ニ（ノ内イ、ロ符）竝ノ符號ヲ附シ仍段別以下各欄共區別記載シ又數筆ノ土地ニシテ其ノ耕作一箇所トナル場合ニ於テモ其ノ地番ヲ列記シ本數、段別ハ合計シテ記載スヘシ

二　耕作ノ場所ニ依リ種類ノ異ルモノハ種類ノ項ヲ除キ地番ノ下ニ（種類ノ一欄ヲ增設シ之カ區分ヲ爲スヘシ

三　耕作ノ場所ニ依リ乾燥法ノ異ルモノハ其ノ旨事由欄ニ記載スヘシ

四　田ニ耕作セントスルモノハ段別ノ上ニ「地目ノ一欄ヲ增設シ「田」ト記載スヘシ

五　實檢ノ上ニテハ苗床所在地及坪數ノ項ヲ除キ其ニ實檢ニ記載スヘシ

六　二種類ノ收穫ヲ爲サントスルモノハ事由欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

（第二號書式）

（表面）

明治　年　煙草耕作許可證　第　號

住所
氏名

許可事項									査定葉	事由
町村	大字	字	地番	段別	畦間	株間	本數	數（畝目）		
計										

（第二面）

一種類　何千（何々葉ハ何千、何葉ハ何千）
一乾燥區分　何千（何々葉ハ何千、何葉ハ何千）
一耕床所在地及坪數　町（村）大字、字、地番　何坪
一貯藏場何々　（居宅構内又ハ町（村）大字、字、地番（何雜所有）何建物）
一乾燥場何々　（居宅構内又ハ町（村）大字、字、地番（何雜所有）何建物）

要例

一　一筆ノ土地ニシテ煙草ノ耕作二箇所以上ニ分ルルモノハ地番ノ下ニ（ノ内イ、ロ符）竝ノ符號ヲ附シ之カ區分ヲ爲スヘシ

七　會社ノ出願ニ付テハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ニ署名捺印スヘシ

八　未成年者、禁治產者ニ在リテハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

爲シ又ハ數筆ノ土地ニシテ其ノ耕作一箇所トナルモノハ其ノ地番ハ列記シ坪數、段別ハ合計シテ記載スヘシ

二　耕作ノ場所ニ依リ種類ノ異ルモノハ地番ノ下ニ「種類」ノ一欄ヲ增設シ之カ區分ヲ爲スヘシ地目欄ヲ增設シタルトキハ其ノ下ニ本欄ヲ增設スヘシ

三　耕作ノ場所ニ依リ乾燥法ノ異ルモノハ段別ノ上ニ「乾燥法」ノ一欄ヲ增設シ其ノ區分ヲ爲スヘシ

四　田ニ耕作ヲ許可シタルトキハ地番ノ下ニ「地目」ノ一欄ヲ增設シ之カ區分ヲ爲スヘシ

五　賣渡ヲ許可シタルトキハ消費所在地及坪數ノ下ニ更ニ賣渡ト記載スヘシ

六　二番耕ノ收穫ヲ許可シタルトキハ其ノ旨ヲ事由欄ニ記載シ其ノ段別、坪數、査定數量ハ當該欄ノ左側ニ傍記スヘシ

七　耕作許可條件ノ變更ヲ許可シタルトキ又ハ査定數量ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ旨ヲ事由欄ニ記載スヘシ

（第三面）

領收月日	包數	葉數	斤目	賠償金
月　日㊞	五	八,〇〇〇枚	三,五〇〇貫	八,七五〇圓
〃　〃㊞	〃	…………	…………	…………

（第四面）

注意

一　耕作許可條件ノ變更ヲ申請スル場合ニハ其ノ申請書ニ本證ヲ添付スヘシ

二　査定ノ際ハ本證ヲ當該官吏ニ提出シ其ノ査定數量ノ記入ヲ受クヘシ若シ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ更ニ其決定額ノ記入ヲ受クヘシ

三　納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ本證ヲ携帶スヘシ

四　葉煙草納付ノ際ハ實印ヲ携帶シ仍本證ヲ提出シ其ノ月日、包數、葉數、斤目、賠償金ノ記入ヲ受クヘシ

五　本證ハ官ヨリ返付ノ際何時ニテモ提出シ得ル樣保管シ置クヘシ

六　[illegible]

（第三號書式）

煙草耕作承繼許可申請書

一事由　何々

年　月　日　　住所　耕作者　氏　名㊞

住所　承繼者　氏　名㊞　生年月

葉煙草收納所長宛

許可番號

町村	大字	字	地番	段別	本數
計			何箇所		

一耕作場所何々　（居宅構內又ハ町（村）大字、字、地番（何箇所）何建物）

一乾燥場何々　（居宅構內又ハ町（村）大字、字、地番（何箇所）何建物）

要項

一　耕作場所及乾燥場ハ承繼者ノ分ヲ記載スヘシ

二　承繼者會社ナルトキハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ヲ署名捺印スヘシ

三　未成年者、禁治產者ニ在リテハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

（第四號書式）

煙草耕作承繼申告書

一事由　耕作者何ノ隱居者（逝去）相續

年　月　日　　住所　承繼者　氏　名㊞　生年月

葉煙草收納所長宛

許可番號

町村	大字	字	地番	段別	本数
計					

何前所

一貯藏場何々
一乾燥場何々

（居宅構内又ハ町（村）大字、字、地番（何階所有）（何建物）、
（居宅構内又ハ町（村）大字、字、地番（何階所有）（何建物）

要例

一　耕作ノ全部ヲ收繳シ貯藏場及乾燥場ヲ設ケサルモノハ許可番號ノミヲ記載シ耕作地、貯藏場、乾燥場等ノ記載ヲ要セス
二　承繼者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

（第五號書式）

煙草苗譲渡讓受許可申請書

一事由　何々ニ依リ譲渡譲受ヲ爲シタシ
一種類　何々　何本

年　月　日

住所　譲渡者　氏　名　㊞
住所　譲受者　氏　名　㊞

葉煙草收納所長宛

（第六號書式）

決定書

明治何年何月何日葉煙草ノ葉數（重目）査定ニ對シ異議申立ニ付審覈ヲ遂ケ左ノ通リ決定ス

何郡何町（村）大字、字、地番
耕作段別　何　畝　歩
此葉數（重目）何　貫

、、、、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、、、、、、

年　月　日

要例　異議申立人ニ於テ鑑定ニ關スル費用ヲ負擔スヘキ場合ニ於テハ其ノ旨及其ノ金額ヲ本書ニ附記スヘシ

葉煙草收納所長官　氏　名　印

住所　耕作者　氏　名

（第七號書式）

葉煙草再鑑定請求書

納付年月日	他號番號	種類	乾燥法	葉分	鑑定等級	自己申立等級	不服ノ事由

年　月　日

住所　煙草耕作者　氏　名　㊞

葉煙草收納所長宛

（第八號書式）

決定書

本年何月何日製煙單ノ鑑定ニ對シ再鑑定請求ニ付審議ヲ遂ケ左ノ通リ決定ス

納付月日	包装番號	種類	乾燥法	等分	等級

年　月　日

住所　製煙請求者　氏　名

（第九號書式）

輸出煙草賣渡申請書

一製煙單何百何拾貫目

内譯

種類	等分	等級	員目

一製造場所　員目又ハ木數

年　月　日

煙草専賣局長宛

住所　職業　氏　名　㊞

（第十號書式）

標本葉煙草交付申請書

種類	乗分	等級	數量

一何ノ爲メ

一輸出先

一輸出見込日　何月何日

一摘要

年　月　日

葉煙草収納所長宛

住所　職業　氏　名　㊞

（第十一號書式）

標本葉（製造）煙草輸入許可申請書

内譯

種類	名稱	一箇ノ員目（一箇ノ木數）	箇數

一何ノ爲メ

一輸出見込日　何月何日

一摘要

年　月　日

煙草専賣局長宛

住所　職業　氏　名　㊞

一何ノ爲メ

一本由

年　月　日

葉煙草収納所長宛

住所　職業　氏　名　㊞

一造地種類(名稱)
一數　量
一原價格
一事　由　何々

年　月　日

煙草專賣局長宛

(第十二號書式)

標本葉(製造)煙草讓渡讓受許可申請書

一造地種類(名稱)
一數　量
一事　由

年　月　日

住所
職業　氏　名　㊞

葉煙草收納所長宛

(第十三號書式)

製造煙草輸入許可申請書

一種　類
一名　稱
一數　量
一原價格
一仕入地
一事由何々

住所
讓渡者　氏　名　㊞
住所
讓受者職業　氏　名　㊞

年　月　日

煙草專賣局長宛

(第十四號書式)

煙草製造專用ノ器具(機械卷紙)製作(販賣)營業許可申請書

一種　類
一一箇年間ノ製造見込高(取扱見込高)
一營業ノ場所　自何町至何町
一事　由　何々

住所
職業　氏　名　㊞

年　月　日

葉煙草收納所長宛

(第十五號書式)

煙草製造專用ノ器具(機械卷紙)販賣許可申請書

例　會社ノ申請ニ付キテハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ニ署名捺印スヘシ

一種　類
一所有者住所氏名
一賣渡年月日

年　月　日

葉煙草收納所長宛

(第十六號書式)

刻煙草以外ノ製造煙草(刻煙草)現在高申告書

住所
氏　名　㊞

明治三十七年六月三十日（明治三十八年三月三十一日）ニ於テ所持スル製造煙草左ノ通

種類	一個ノ本数（一個ニ）	個数	本数（益目）
ビン（ボトル）吉日			
金天狗			
〃			
〃			
〃			
計			

年　月　日

煙草収納所長宛

製造場所在地
製造販売者（製造業者）氏名㊞

（第十七號書式）

煙草収納所届書

明治　年　月製造煙草受拂現在高申告書

種類	一個ノ容目（一個ニ）	受 個数	本数（益目）	拂 個数	本数（益目）	現在 個数	本数（益目）
梅ノ花	五十匁						
松ノ緑	百匁						
竹ノ緑	五十匁						
〃							
〃							
計							

年　月　日

煙草収納所長宛

製造場所在地
製造販売者（製造業者）氏名㊞

要例　本表ハ製造煙草ノ口分紙巻煙草、刻切紙巻煙草、葉巻煙草毎ニ別紙ニ調製スヘシ

○陸軍省令第十八號

陸軍兵籍規則中左ノ通改正ス

明治三十七年五月六日

陸軍大臣寺内正毅

附表第二中「子、父母、祖父、祖母、兄弟姉妹ノ區畫及同備考第七號中「子、父母、祖父母及兄弟姉妹」ヲ削ル

○陸軍省令第十九號

明治二十三年陸軍省令第二十二號陸軍軍人恩給取扱手續中左ノ通改正ス

明治三十七年五月二十一日

陸軍大臣寺内正毅

第二條中「當所屬長ニ呈スヘシ所屬長」ヲ「當所屬長（休職者傳聽者ノ恩給請求書ハ兵籍所管區ノ長）ニ呈シ同官ハ」ニ改ム

第四條中若クハ屯田兵司令官ヲ削ル

第五條及第八條削除

第十條中「死者ノ履歴書ヲ其遺族ヘ下附スルトキハ」ヲ「遺族ニ下附スル死者ノ履歴書ニハ寡婦ニ限リニ改メ但書ヲ削ル

第四書式ヲ左ノ如ク改ム

第四書式（用紙美濃紙）

給助金請求書

何年何月何日被任何官當時何個年勤續何年何月何日現役ヲ離レ候ニ付軍人恩給法第十六條ニ據リ給助金下賜度履歴書相添請求仕候也

年　月　日

所管長官姓氏名殿

官　階　氏　名　印

因特第一號式ニ同シ

給助金請求書（遺族ヨリ請求ノトキ）

右何年何月何日死歿仕候ニ付軍人恩給法第十六條ニ據リ給助金下賜度履歴書相添請求仕候也

戸主（某長男、某兄弟等）　官　爵　氏　名

故官爵氏名長男（寡婦、父、母、兄弟等）
何府（縣）何市區（郡）町（村）番地寄留（士）族（平民）
何府（縣）何市區（郡）町（村）番地寄留
家督相續人（遺產相續人）　氏　名印

年　月　日

所管長官爵氏名殿

（注意）
給助金ハ左記ノ者ヨリ請求スルモノトス
軍人戸主ニテ死歿シタルトキハ家督相續人
軍人非戸主ニテ死歿シタルトキハ遺產相續人

〔參照〕

陸軍省令第二十二號陸軍軍人恩給取扱手續（明治二十三年七月二十三日）抄錄

第二條　退職恩給免除恩給増加恩給ノ請求書ハ當該軍人現役ヲ離レタル後第一第二書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長之ヲ調査シ計算書（第九書式）ヲ作リ順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第四條　軍人恩給法第十一條ニ當ル者ハ其期限內ニ於テ居住地方ノ師團長若クハ屯田兵司令官ニ檢查ヲ請求スルコトヲ得
師團長若クハ屯田兵司令官其請求ヲ受ケタルトキハ醫官ヲシテ其症狀ヲ實查セシメ診斷證書（第五書式）ヲ作ラシメ其診斷證書ノ審查ニ依ル取扱ハ第三條ノ例ニ同シ

第五條　休職者停職者ノ恩給請求書ハ直ニ所管師團長若クハ屯田兵司令官（兵籍ヲ有セサル者ハ其所管地ノ師團長）ニ呈スヘシ師團長ハ之ヲ參謀長屯田兵司令官ハ參謀ニ下シテ調查セシメ計算書（第九書式）ヲ作リ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第八條　恩給ヲ受クル權利ヲ有スル士官候補生ハ見習士官ハ曹長ニ一等軍曹ニ等軍曹ノ各階級ニ進ミタル者ハ其階級ニ其他ノ生徒ハ總テ兵卒ニ準ス

第十條　軍人恩給法施行規則第二條ニ依リ所管長官ヨリ死者ノ履歴書ヲ其遺族ヘ下附スルトキハ兵籍ノ寫ヲ添ユヘシ（戸籍ニ關スル部分ノミ記ス）但給助金ノミヲ受クヘキ遺族ニ在テモ亦同シ

〇司法省令第十一號

明治三十六年三月司法省令第五號中看守ノ定員「八千四百五十五人」ヲ「八千四百二十五人」ニ改ム

本令ハ明治三十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年五月十八日

司法大臣波多野敬直

〇司法省令第十二號

新潟地方裁判所新發田支部ニ於テハ當分振替事務ヲ取扱ハス

本令ハ明治三十七年五月二十七日ヨリ施行ス

明治三十七年五月二十五日

司法大臣波多野敬直

〇文部省令第十三號

東京外國語學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度竝研究生、選科生及專修科ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十七年五月三十一日

文部大臣久保田讓

東京外國語學校修業年限學科學科目及其ノ程度竝研究生選科生及專修科ニ關スル規程

第一條　東京外國語學校ノ修業年限ハ三箇年トス

第二條　學科ハ分チテ英語學科、佛語學科、獨語學科、露語學科、伊語學科、西語學科、淸語學科及韓語學科トス

第三條　各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

學科 / 學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
英（佛、獨）語學科	讀（伊、西、清、韓）語學科	第一學年ニ同ジ	第一學年ニ同ジ	第一學年ニ同ジ	第一學年ニ同ジ
正科語學	一三	一三	一八	一八	一八
國語漢文	二	二	二	二	二
英語	四	四	四	四	四
實語學	一	一	二	二	二
法學通論	二				
經濟學		三			
國際法			三	三	三
教育學			三	三	三
倫理	三	三			
計	二八 二九 三〇	二九 三〇	二八 二九 三〇	二八 二九 三〇	二八 二九 三〇

備考　表中×ヲ附スル同一學年內ノ學科目ハ生徒ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ課ス

第二學年及第三學年ニ於テハ正科語學ノ教授時間內ニ於テ當該國ノ歷史、地理及文學ノ大要ヲ教授スヘキモノトス

學校長ハ臨時必要ト認メタル場合ニ於テハ第一項ノ每週教授時數ヲ增減シ若ハ科外講義ヲ開クコトヲ得

第四條　卒業者ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究セントスル者ハ研究生トシテ一箇年以內在學セシムルコトヲ得

第五條　各學科ノ學科目中「數科目ヲ選擇シテ學修セントスル者ハ選科生トシテ入學セシムルコトヲ得

第六條　簡易ノ方法ニ依リ外國語ヲ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ設ク

專修科ノ修業年限ハ二箇年トス

專修科ニ於テ教授スヘキ外國語ノ種類、每週教授時數ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ學校長之ヲ定ムヘシ

附　則

本令ハ明治三十七年九月十一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ得テ從前ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

○農商務省令第五號

明治三十六年農商務省令第四號畜牛結核病豫防法施行規則中左ノ通改正ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

內務大臣子爵芳川顯正

明治三十七年五月六日

第十三條中「神戶港」ノ下「及ヲ削リ「長崎港」ノ下「同縣鹿兒島港及山口縣下關港」ノ十二字ヲ加フ

【參照】

農商務省令第四號畜牛結核病豫防法施行規則（明治三十六年五月三十日）抄錄

第十三條　外國ヨリ輸入スル畜牛ノ檢查ハ神奈川縣橫濱港、兵庫縣神戶港及長崎縣長崎港ニ於テ之ヲ行フ

○農商務省令第六號

明治三十三年農商務省令第五號牛疫檢疫規則中左ノ通改正ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十七年五月六日

第二條中「檢疫ハ」ノ下「神奈川縣横濱港」ノ七字ヲ加ヘ「神戸港」ノ下及「長崎港」ノ下「同縣厳原港及山口縣下關港」ノ十二字ヲ加フ

【參照】

農商務省令第五號牛疫檢疫規則（明治三十三年三月二十二日）追錄

第二條　檢疫ハ兵庫縣神戸港及長崎縣長崎港ニ於テ之ヲ行フ

○農商務省令第七號

非常特別稅法ニ依リ納付スル稅額ハ明治三十五年農商務省令第十六號ニ依リ定ムル納稅額ニ之ヲ算入セス

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十七年五月二十四日

【參照】

明治三十五年十七月二農商務省令第十六號ハ商業會議所職員選舉權ニ關スル納稅額及資本額又ハ財產ヲ目的トスル出資額ノ件ナリ

○遞信省令第三十六號

帝國軍用通信所ヨリ發シ在韓國帝國郵便局ヲ經由スル左ノ電報ノ料金ハ其ノ配達局所ニ於テ受信人ヨリ之ヲ徵收ス但シ同文電報ノ料金ハ其ノ通數（原信ヲモ含ム）ヲ以テ料金總額ヲ除算シ其ノ得數ヲ各受信人ヨリ徵收スルモノトス

本令ハ明治三十七年五月七日ヨリ施行ス

明治三十七年五月七日

遞信大臣大浦兼武

一　帝國政府ノ警報但シ陸海軍部內ヨリ發スル官報ヲ除ク

一　陸海軍官憲ヨリ帝國軍用電信線上通信ノ特許ヲ受ケタル電報

○遞信省令第三十七號

特ニ指定シタル郵便局所ニ於テ軍人軍屬ノ振出ス通常爲替ニ對シテハ其料金ヲ徵收セス且郵便局所ニ於テ之ヲ受取人ニ送達ス

前項ノ通常爲替證書ハ其金額ニ制限ヲ付セス

本令ハ明治三十七年五月十五日ヨリ施行ス

明治三十七年五月九日

遞信大臣大浦兼武

○遞信省令第三十八號

明治三十四年八月遞信省令第三十六號出納員現金取扱規則左ノ通改正ス

明治三十七年五月九日

遞信大臣大浦兼武

出納員現金取扱規則

第一條　鐵道作業局、通信官署ノ出納員ハ左ノ範圍內ニ於テ現金ノ出納ヲ爲スヘシ

一　鐵道作業局出納員ハ對理部本部竝各出納事務所及營業所ヨリ派出仕拂ヲ要スル前渡金及各驛ノ歲入金

二　通信官署中出納官吏ヲ置ク處ノ出納員ハ歲入金及現業上ニ於ケル歲入歲出外現金

但收入印紙及郵便切手類御引資下代金、資金、過超金ハ此限ニアラス

第二條　出納員ハ鐵道書記、通信屬、鐵道書記補、通信手、雇員、郵便及電信受取所取扱人、特別郵便集配人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　出納員ハ其領收シタル現金ヲ每日精算シテ遲滯ナク共所屬出納官吏ヘ拂込領收證書ヲ受クヘシ

ヽ但出納官吏ヲ置カサル處ノ出納員ハ別ニ定ムル所ニ依リ現金ノ拂込ヲ爲スヘシ

第四條　出納員ハ其所屬出納官吏ヨリ現金ヲ受領シタルトキハ領收證書ヲ發スヘシ

第五條　出納員ハ明治二十六年大藏省令第三十二號第十四號書式ノ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第六條　特種ノ帳簿ニ依リ現金ノ受授ヲ證シ得ルモノ及特種ノ帳簿ヲ以テ現金出納簿ニ代用シ得ルモノハ第三條第四條ノ領收證書及第五條ノ現金出納簿ヲ要セス

第七條　現金出納ノ取扱ニ關シ本規則ノ外特ニ規定シタルモノアルトキハ其規定ニ依ル

附則

第八條　本令ハ明治三十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第三十九號

明治三十七年五月二十一日　逓信大臣大浦兼武

明治三十七年二月逓信省令第五號中左ノ通改ム

第一項但書中下關郵便局ノ下「及」ノ一字ヲ刪除シ竪北郵便電信局大稻埕支局ノ下ニ「及靜岡郵便局」ノ六字ヲ加フ

【參照】

逓信省令第五號（明治三十七年二月五日）抄錄

第一項

一本郵並韓國鎭出仁川及京城ヨリ發スル私用ノ外國電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ之ヲ記載スルヲ要シ暗號ヲ用フルヲ得ス　但シ其宛先郵便局（横濱郵便局神戸郵便局大阪郵便局長崎郵便局門司郵便局三宮郵便局下關郵便局及竪北郵便電信局大稻埕支局ヘ差出スモノニ限リ暗號ヲ用ウルコトヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ發信ノ際其暗號ヲ日本語英語又ハ佛語ノ譯文ヲ通ヘ暗號電ト共ニ之ヲ發信局ニ差出スヘシ

○内務省令第九號

明治三十七年内務省令第十三號不動產登記ノ屬託官吏中府縣知事ノ下ニ神宮大宮司ヲ加フ

明治三十七年六月十四日　内務大臣子爵芳川顯正

○大藏省令第二十號

明治三十五年五月大藏省令第十號中左ノ通改正ス

明治三十七年六月二日　大藏大臣男爵曾禰荒助

「大臣官房總務課長」ノ次ニ「臨時煙草製造準備局建築部長、煙草專賣局長、葉煙草收納所長、煙草製造所長」ヲ加ヘ「專賣局長」ヲ削ル

【參照】

明治三十五年五月二大藏省令第十號ハ不動產ノ登記ノ屬託ニ關シ管吏指定ノ件ナリ

○大藏省令第二十一號

煙草專賣局作業廠入ハ郵便爲替日本銀行若ハ其ノ代理店ニ宛テタル送金手形又ハ日本銀行若ハ其ノ代理店ニ於テ證明シタル小切手ヲ以テ納付スルコトヲ得

明治三十七年六月三日　大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第二十二號

煙草專賣局官吏ニ於テ檢查取締ニ從事スル際携帶スヘキ證票ノ樣式左ノ通相定ム

明治三十二年五月大藏省令第二十號ハ之ヲ廢止ス

明治三十七年六月三日　大藏大臣男爵曾禰荒助

用紙原紙　縱曲尺三寸　橫曲尺二寸

（表）

何第　號

煙草專賣局官吏證票

煙草專賣局印

（裏）

何年何月何日收納所勤務

官氏名

（參照）

明治三十二年三月十大藏省令第二十號ハ專賣局官吏證票樣式ナリ

○大藏省令第二十三號

明治三十二年大藏省令第五號中「所轄ヲ」ヲ「適宜ノ」ニ改メ左ノ二項ヲ追加ス

稅印押捺請求者ハ口頭ヲ以テ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

稅印押捺請求者用紙返送ニ要スル郵便料金ニ相當スル郵便切手ヲ併セ提出スルトキハ稅務監督局又ハ稅務署ハ稅印押捺ノ上郵便ヲ以テ用紙ノ返送ヲ爲スヘシ

明治三十七年六月六日　大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第二十四號

明治三十七年大藏省令第四號國庫債券發行規程及明治三十七年大藏省令第十七號第二回國庫債券發行規程中左ノ通改正ス

明治三十七年六月七日　大藏大臣男爵曾禰荒助

第十四條第二項ノ下ニ左ノ但書ヲ加フ

但應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ賣入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其旨ヲ證明スルトキハ同令第二條ニ據リ其拂込ヲ假債券ニ記入スル代ニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

○大藏省令第二十五號

交付金及補償金買上金ノ給付ニ關スル規程左ノ通相定ム

明治三十七年六月十日　大藏大臣男爵曾禰荒助

交付金及補償金買上金ノ給付ニ關スル規程

第一條　煙草專賣法第七十五條ニ依ル交付金ノ給付ヲ請求セムトスル者ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年九月三十日迄ニ刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年六月三十日迄ニ第一號書式ノ請求書ニ印鑑證明書ヲ添ヘ所管臨時煙草製造準備局出張所ニ差出スヘシ

第二條　煙草專賣法第七十五條ノ賣渡代金ハ臨時煙草製造準備局長官之ヲ決定ス

第三條　臨時煙草製造準備局長官ハ煙草專賣法第七十五條ニ依ル交付金請求者又ハ同法第八十九條第三項ニ依リ國庫債券ヲ以テ補償金、買上金ノ給付ヲ受ケムトスル者ニ對シ第二號書式ノ給付通知書ヲ發スヘシ

（第一號書式）

交付金請求書

年次	賣渡高		賣渡代金	
	小賣	卸賣	計	
三十五年	本(包)	本(包)		
	本(包)	本(包)		
	圓	圓	圓	
	圓	圓	圓	

三十六年					
平均					

右買渡代金ニ對スル交付金下付相當度及請求候也

年　月　日

府縣郡市町村部地

何某　㊞

臨時煙草製造準備局長官宛

備考

一　買渡物ノ欄ニハ紙巻煙草、葉巻煙草ニ在リテハ其本數ヲ刻煙草ニ在リテハ其斤數ヲ記スヘシ

二　買渡代金ノ欄ニハ自己ノ製造セタル煙草ニシテ小賣ヲ爲シタルモノハ其小賣代金ヲ又卸賣ヲ爲シタルモノハ其卸賣代金ヲ記入スル事ヲ要ス

三　三十五年二月以後ニ營業ヲ開始シタルモノハ三十五年分及平均ハ記載ヲ要セス

四　刻煙草以外ノ煙草ト刻煙草トヲ兼業スル者ハ平均欄ヲ除クノ外各米行ニ區別記載スヘシ

五　煙草專賣法第七十五條第一項但書ニ依リ營業ヲ廢ケムトスル者ハ其旨ヲ記載シ煙草製造用ノ建物及其敷地ノ所有權ノ證明書ヲ添付スヘシ

六　會社ノ請求ニ付テハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ニ署名捺印スヘシ

七　無能力者ノ請求ニ付テハ法定代理人之ニ署名捺印スヘシ

（第二號樣式）

用紙通常　寸法八横四寸五分ノモノ三枚綴ト

給付（補償金／買上金）請求書

第（何）號	請求者	（住所　氏名）　㊞

一金何百何拾何圓也

内　金何百圓也　國庫債券額面

金何拾圓也　現金

注意

國庫債券ヲ受取ラントスルトキハ此ノ通知書ヲ指定ノ場所ヘ提供シ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入シ署名捺印セラルヘシ

裏

通知書

右ノ通給付ス但シ國庫債券ハ日本銀行（何々支店）ニテ受取ルヘシ現金ハ仕拂命令官ヨリ別ニ仕拂命令ヲ送付ス

年　月　日　（官印）

臨時煙草製造準備局長官（氏名）　㊞

領收記入

前記國庫債券正ニ領收候也

受取人

年　月　日　住所　氏名　㊞

（長官印）

第（何）號	請求者	（住所　氏名）

一金何百圓也　國庫債券額面

右前記ノ者（給付可否之候也

年　月　日

臨時煙草製造準備局長官（氏名）　㊞

日本銀行（何々支店宛

何々代理店宛

（檢印）

國庫債券給付紙内書

裏面

注意

國庫債券ヲ給付セントスルトキハ此ノ案内書及印紙證明書ト共ニ提供ノ交付金（補償金買上金）給付通知書ト對照シ其ノ符合ヲ認メタル上之ヲ交付スヘシ

表面

國庫債券給付濟報告書

第（何）號　請求者（住所氏名）

一金何百圓也　（證券番號第何號ヨリ第何號マデ何枚）國庫債券證

右給付濟ニ付報告候也

年　月　日

日本銀行（何々支店（何々代理店））印

臨時煙草製造準備局長官氏名殿

注意

國庫債券ヲ給付シタルトキハ式ノ如ク記入捺印シテ即日準備局ヘ送付スヘシ

翌月日ハ未入ノ國庫債券ヲ給付シタル日ヲ記入スヘシ

裏面

○大藏省令第二十六號

煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル場合ニハ其ノ施行ニ關シ國稅徵收法施行細則ヲ準用ス

國稅徵收法施行細則ニ依リ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ葉煙草收納所長又ハ煙草製造所長トス

附　則

本令ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年六月十七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第二十七號

煙草專賣局、葉煙草收納所、煙草製造所ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

明治三十七年六月十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第二十八號

明治三十七年勅令第百六十八號ニ依リ一時賜金トシテ交付スヘキ公債證書ノ種類ハ大日本帝國政府五分利公債證書トス

前項公債證書ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ之ヲ定ム

明治三十七年六月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第二十九號

煙草藏置所名稱、位置左ノ通之ヲ定メ明治三十七年七月一日ヨリ施行ス

明治三十七年六月二十三日

大藏大臣男爵曾禰荒助

煙草藏置所名稱位置

煙草製造所名稱	同上位置	煙草藏置所名稱	同上位置
仙臺煙草製造所	宮城縣仙臺市	宮城縣出張藏置所	同上
前橋煙草製造所	群馬縣前橋市	群馬縣出張藏置所	同上
函館煙草製造所	北海道函館區	函館煙草藏置所	同上
米澤煙草製造所	山形縣米澤市	米澤煙草藏置所	同上
東京第一煙草製造所	東京市	東京第一煙草藏置所	同上
東京第二煙草製造所	東京市	東京第二煙草藏置所	同上
小出雲煙草製造所	新潟縣中頸城郡新井町	小出雲煙草藏置所	同上
松本煙草製造所	長野縣東筑摩郡松本町	松本煙草藏置所	同上
名古屋煙草製造所	愛知縣名古屋市	名古屋煙草藏置所	同上
金澤煙草製造所	石川縣金澤市	金澤煙草藏置所	同上
廣島煙草製造所	廣島縣廣島市	廣島煙草藏置所	同上
米子煙草製造所	鳥取縣西伯郡米子町	米子煙草藏置所	同上
福岡煙草製造所	福岡縣福岡市	福岡煙草藏置所	同上
熊本煙草製造所	熊本縣飽託郡黒髮村	熊本煙草藏置所	同上

○大藏省令第三十號

明治三十七年法律第十四號煙草專賣法第八十九條第二項及第三項ニ依リ交付金又ハ補償金トシテ給付スル爲發行スル國庫債券ノ利子ハ發行ノ月分ヨリ之ヲ付シ買上金トシテ給付スル爲發行スル國庫債券ノ利子ハ發行ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ翌月分ヨリ之ヲ付スルモノトス

明治三十七年六月二十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○海軍省令第十一號

海軍軍人軍屬及其ノ他ノ者ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ死歿シタル者ノ遺族ニ特ニ賜與セラルヘキ特別賜金ハ准士官以上、候補生及文官ノ遺族ニ在リテハ地方廳ヲ經テ各本人ニ、下士卒及其ノ他ノ者ノ遺族ニ在リテハ直ニ各本人ニ之ヲ交付ス

明治三十七年六月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○司法省令第十三號

神戸地方裁判所管內豐岡區裁判所和田山出張所ヲ但馬國朝來郡竹田村大字竹田町ニ移シ竹田出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十七年六月二十日ヨリ施行ス

明治三十七年六月十七日

司法大臣男爵波多野敬直

○司法省令第十四號

岡山地方裁判所管內勝山區裁判所神鄕出張所ヲ鄕原出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十七年七月一日ヨリ施行ス

明治三十七年六月二十二日

司法大臣波多野敬直

○文部省令第十四號

小學校教科用圖書翻刻發行規則中左ノ通リ改正ス

明治三十七年六月十日

文部大臣久保田讓

第三條　翻刻發行者ニ於テ每年發行スヘキ圖書ノ種類又ハ冊數ヲ變更セントスルトキハ事情ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

翻刻發行ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

第十二條ノ二　文部省ハ必要ニ應シ吏員ヲ派シテ圖書ノ製造及發賣等ノ實況ヲ檢査スルコトアルヘシ

翻刻發行者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條ノ三　翻刻ニ要スル工場及圖書ノ販賣所ハ共ノ設置變更トモ總テ遲滯ナク屆出ツヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

〔參照〕

文部省令第二十三號小學校教科用圖書翻刻發行規則（明治三十六年四月二十九日）抄錄

第三條　翻刻發行者ニ於テ每年發行スヘキ圖書ノ種類又ハ冊數ヲ變更セントスルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ廢止シタルトキモ亦同シ

○文部省令第十五號

小學校教科用圖書翻刻發行規則中左ノ通リ改正ス

明治三十七年六月十日

第三條中「届出」ヲ「許可」ト改ム

附　則

本令ハ頒布ノ日ヨリ施行ス

支部大臣久保田讓

〔參照〕

支部省令第二十六號小學校敎科用圖書翻刻發行規則細則（明治三十六年六月二十日）抄錄

第三條　翻刻發行者ニ於テ毎年發行スヘキ冊數ヲ變更シタル場合ニ於テハ小學校敎科用圖書翻刻發行規則第三條ノ届出ノ日ヨリ一箇月以内ニ之ヲ認可ス（シ其ノ還付ヲ要スルトキハ請求ノ日ヨリ三箇月以内ニ殘部ヲ下ラサル限度ニ於テ拂戻ヲ爲スヘシ

○農商務省令第八號

明治三十二年農商務省令第三十二號耕地整理法施行規則中左ノ通改正ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

第三十八條第二項中「方位及ヒ」トアルヲ「部分及ヒ共ノ」ト改メ第三項中「ノ方位及ヒ」トアルヲ「及ヒ共ノ」ト改ム

第四十五條中「第六條ノ下ニ」ヲ「第十三條」ヲ加フ

〔參照〕

農商務省令第三十二號耕地整理法施行規則（明治三十二年十二月二十六日）抄錄

第三十八條第二項及第三項

耕地整理法第十一條第二項ノ規定ニ依リ換地ヲ劃當ツル場合ニ於テハ從前ノ土地ノ各筆ニ相當スル換地ノ方位及ヒ面積ヲ整理確定圖ニ示スヘシ

第四十五條　第三條乃至第六條、第十五條、第十六條第二項、第十八條、第三十四條、第三十九條、第四十條及ヒ前條ノ規定ハ一人ニシテ其所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス

○農商務省令第九號

明治三十二年農商務省令第二十五號國有林野法施行規則中左ノ通改正ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十七年六月十一日

第七條第三號中「主產物」トアルヲ「重要ナル產物」ト改ム

〔參照〕

農商務省令第二十五號國有林野法施行規則（明治三十二年八月三日）抄錄

第七條　國有林野法第八條第四號ノ緣故者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

三　府縣設置以前主產物ノ採收ヲ爲シタル慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ採收ヲ爲シタル者

○農商務省令第十號

三歲若ハ四歲ノ牡馬ニシテ地方長官ノ指定シタル方法ニ依リ明治三十七年度ニ於テ去勢ヲ行ヒタル馬匹ノ所有者ニハ每一頭奬勵金三圓ヲ下付スヘシ

前項ノ規定ハ沖繩縣及種牡馬檢查法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ適用セス

明治三十七年六月十四日

農商務省令第十一號

○農商務省令第十一號

明治三十二年省令第三十號國有林野及產物賣拂代金延納規則左ノ通改正ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十七年六月二十三日

國有林野及產物賣拂代金延納規則

第一條　國有林野又ハ其ノ產物ノ賣拂代金ハ分割シテ之ヲ拂込ニ納付セシムルコトヲ得

第二條　代金延納ノ方法ヲ以テ隨意契約ニ依ル賣拂ヲ受ケント欲スル者ハ買受ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ申出ツヘシ

第三條　競爭契約ニ依ル賣拂ニシテ代金延納ヲ許可スヘキモノナルトキハ賣拂公告ニ其ノ最長期間ヲ明示スヘシ

第四條　賣拂代金ノ延納ニ付キ擔保ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ契約保證金トシテ徵收シタル有價證券アルトキハ之ヲ擔保ニ充當ス但シ拂受人ニ於テ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　擔保トシテ徵收スルコトヲ得ル有價證券ハ左ノ十種トス

國債證券
地方債證券
勸業債券
興業債券
株式會社日本勸業銀行株券
株式會社正金銀行株券
株式會社日本興業銀行株券
株式會社北海道拓殖銀行株券
株式會社臺灣銀行株券

擔保品ハ延納スヘキ賣拂代金ト同額以上ヲ提供セシムヘキモノトス此ノ場合ニ於テ擔保品ノ價額ハ時價ニ對シ一割ヲ減シテ算定スヘシ

時價ノ低落ニ依リ擔保ノ不足ヲ生シタルトキハ前項ニ準シ之ヲ追徵スヘシ

第六條　拂受人契約ニ定メタル期限ニ擔保ヲ提供セサルトキハ契約ハ其ノ效力ヲ失フ但シ不得止事由ニ因ルトキハ拂受人ノ請求ニ依リ相當ノ期間ヲ定メテ猶ホ其ノ效力ヲ與フルコトヲ得

第七條　擔保ヲ提供セシメテ代金延納ヲ許可シタル場合ニ於テ賣拂物件ノ引渡ハ其ノ擔保徵收ノ後之ヲ爲スヘシ

第八條　擔保ハ賣拂代金完納ノ後之ヲ還付スヘシ

賣拂代金ノ一部ヲ納付シタルトキハ其ノ金額ニ相當スル擔保ハ之ヲ還付スルコトヲ得

第九條　拂受人不得止事由ニ因リ契約ニ定メタル期限ニ代金ヲ納付シ能ハサルトキハ其ノ請求ニ依リ最後ノ納期迄ノ間ニ於テ相當期限ヲ定メテ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ猶豫期間ニ對シ法定利息ヲ徵收スルコトヲ得

第十條　代金分割延納ノ方法ニ依ル拂受人契約ニ定メタル期限ニ代金ヲ納付セサルトキハ其ノ未タ到來セサル代金ヲ併テ一時ニ徵收スルコトヲ得

第十一條　擔保ヲ提供シ代金延納ノ方法ニ依リタル拂受人契約ニ定メタル期限ニ代金ヲ納付セサルトキハ其ノ擔保品ノ全部又ハ一部ヲ賣却シテ之ヲ代金及賣却費用ニ充當スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ剩餘アルトキハ之ヲ拂受人ニ還付シ不足アルトキハ之ヲ追徵スヘシ

前項ノ場合ニ於テ納期ノ未タ到來セサルモノアルトキハ賣却代金ノ剩餘ハ之ヲ金庫ニ寄托スヘシ但シ前條ニ依リ代金ノ全部ヲ一時ニ徵收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○遞信省令第四十號

明治三十五年十一月遞信省令第五十三號外國小包郵便規則中左ノ通改正ス

明治三十七年六月三日

遞信大臣大浦兼武

第二十二條ヲ左ノ通改ム

外國小包郵便物ニシテ關稅若ハ內國稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局ニ留置キ到著通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日付ヨリ三十日以內ニ關稅ノ場合ニ於テハ稅額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ內國稅ノ場合ニ於テハ明治三十七年勅令第百六十五號ニ據リ收入印紙若ハ特別ノ印紙ヲ通知書若ハ輸入物品ニ貼付シ郵便局ノ消印ヲ受ケ通知書ハ之ヲ郵便局ニ差出シ其ノ小包郵便物ヲ受取ルヘシ

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スモノハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局ニ差出シ其ノ書類ヲ該郵便局ニ差出スヘシ」

關係郵便局所ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ該郵便局ニ差出スヘシ」

關稅若ハ內國稅ノ賦課ニ關シ大藏大臣ニ訴願シタル場合及其ノ訴願ノ裁決ヲ得タルトキハ亦同シ

〔參照〕

逓信省令第五十三號外國小包郵便規則（明治三十五年十一月八日）

第二十二條　外國小包郵便物ニシテ關稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局ニ留置キ到著通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日付ヨリ三十日以內ニ稅額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ且配達及場合ニ依リ到達證ニ記名調印シテ該郵便局所ニ差出シ其ノ小包郵便物ヲ受取ルヘシ

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スモノハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ該郵便局所ニ差出スヘシ

○逓信省令第四十一號

明治三十三年九月逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則中左ノ通改正ス

明治三十七年六月三日

逓信大臣大浦兼武

第六條ヲ左ノ通改ム

清國若ハ韓國發日本ヘ到著ノ小包郵便物カ輸入稅若ハ內國稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局ニ留置キ到著通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日付ヨリ三十日以內ニ關稅ノ場合ニ於テハ稅額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ內國稅ノ場合ニ於テハ明治三十七年勅令第百六十五號ニ據リ收入印紙若ハ特別ノ印紙ヲ通知書若ハ輸入物品ニ貼付シ郵便局所ノ消印ヲ受ケ通知書ハ之ヲ郵便局ニ差出シ其ノ小包郵便物ヲ受取ルヘシ

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スモノハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ該郵便局所ニ差出スヘシ

第十四條第二項中「關稅及輸入稅」ノ下ニ「若ハ內國稅」ヲ加フ

〔參照〕

逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則（明治三十三年九月十一日）

第六條　清國若ハ韓國發日本ヘ到著ノ小包郵便物カ輸入稅若ハ內國稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以內ニ稅額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シテ之ヲ郵便局所ニ送出スヘシ受取人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ其ノ郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲ス者ハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ制定ヲ得タルトキハ若ハ大藏大臣ニ訴願シタル場合ニ於テハ其ノ書類ヲ郵便局所ニ提出スヘシ

第十四條第二項

小包郵便物ノ還付又ハ輸送ノ爲關稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ其ノ輸出稅ハ差引入又輸入稅ハ受取人ヨリ之ヲ徵收ス

○逓信省令第四十二號

明治三十三年七月逓信省令第四十四號鐵道船舶郵便規則第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

逓信大臣大浦兼武

鐵道監督員、鐵道係員又ハ船員ノ共ノ職務執行上必要アル場合ニ限リ郵便車並ニ郵便船室内ニ出入スルコトヲ得

○逓信省令第四十三號

明治三十三年九月逓信省令第四十五號郵便爲替規則第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ來七月一日ヨリ施行ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十七年六月十七日

第三條ノ二　郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關シ當該官署ト共ノ官吏トノ間ニ受授スル官金及逓信大臣ニ於テ特ニ必要ト認メタル者ノ間ニ受授スル金員ハ無料通常爲替ト爲スコトヲ得

前項ノ無料通常爲替ニ對シテハ其ノ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セス

○逓信省令第四十四號

明治三十三年九月逓信省令第五十七號外國郵便爲替規則中左ノ通改正シ本年七月一日ヨリ施行ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十七年六月十八日

第七條中米國及其ノ媒介爲替ノ爲替料ニ關スル項ヲ左ノ如ク改ム

米國及其ノ媒介爲替　米貨十弗毎ニ　十錢（十弗未滿ト雖モ亦同シ）

（參照）

逓信省令第五十七號外國郵便爲替規則（明治三十三年九月十一日）抄錄

第七條　外國郵便爲替ノ振出ニ對シ一口毎ニ徵收スヘキ爲替料ノ割合ハ左ノ如シ

米國及其ノ媒介爲替　米貨五弗毎ニ（十弗未滿ト雖モ亦同シ）十錢

○逓信省令第四十五號

明治三十二年七月逓信省令第三十三號水先法施行細則中左ノ通改正ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十七年六月十八日

第十三條　水先區ハ左ノ六種トス

一　東京灣水先區　安房國洲ノ埼ヨリ相模國城ケ島西端ヲ經テ諸磯埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

二　和泉灘水先區　紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

川口ノ西岸ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三　内海水先區　紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國潮埼ヨリ阿波國大磯埼ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豐後國地磯埼ニ引キタル線及長門國網代埼ヨリ筑前國岩屋埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

四　下關水先區　豐前國鄰埼ヨリ北東ニ引キタル線及筑前國岩屋埼ヨリ長門國網代埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

五　長崎港水先區　肥前國福田埼ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及同國沖ノ島南端ヨリ香燒島南端ヲ經テ深堀ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

六　函館港水先區　渡島國尾花岬ヨリ宮登支岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

第一號表中東京灣ノ欄帆船水先案内料「四五ヲ五〇」ニ改メ内海ノ欄ヲ左ノ通改ム

和田岬	友ケ島水道ヨリ神戸鑵地マデ	二五	五〇
	又ハ神戸鑵地ヨリ友ケ島水道マデ	二五	五〇
	友ケ島水道ヨリ大阪鑵地マデ	四〇	六〇
	又ハ大阪鑵地ヨリ友ケ島水道マデ	四〇	六〇
	神戸鑵地ヨリ大阪鑵地マデ	二〇	三〇
	又ハ大阪鑵地ヨリ神戸鑵地マデ	二〇	三〇
	神戸鑵地ヨリ門司若ノ下關鑵地マデ	一〇〇	一七五
	又ハ門司若ノ下關鑵地ヨリ神戸鑵地マデ	一〇〇	一七五
内海	神戸鑵地ヨリ内海水先區西境界線マデ	一〇〇	一七五
	又ハ内海水先區西境界線ヨリ神戸鑵地マデ	一〇〇	一七五
下關	神戸鑵地ヨリ下關水先區西境界線マデ	一一〇	一八五
	又ハ下關水先區西境界線ヨリ神戸鑵地マデ	一一〇	一八五
	門司若ノ下關鑵地ヨリ若松鑵地マデ	二五	四五
	又ハ若松鑵地ヨリ門司若ノ下關鑵地マデ	二五	四五
	門司若ノ下關鑵地ヨリ下關水先區東境界線マデ	一一〇	一八五
	又ハ下關水先區東境界線ヨリ門司若ノ下關鑵地マデ	一一〇	一八五
	若松鑵地ヨリ下關水先區東境界線マデ	二五	四五
	又ハ下關水先區東境界線ヨリ若松鑵地マデ	二五	四五
	若松鑵地ヨリ門司若ノ下關鑵地マデ	二五	四五
	又ハ門司若ノ下關鑵地ヨリ若松鑵地マデ	二五	四五
	若松鑵地ヨリ下關水先區東境界線マデ	四五	六〇
	又ハ下關水先區東境界線ヨリ若松鑵地マデ	四五	六〇
	下關水先區西境界線ヨリ下關水先區東境界線マデ	四〇	五〇
	又ハ下關水先區東境界線ヨリ下關水先區西境界線マデ	四〇	五〇
	豐後水道北口ヨリ神戸鑵地マデ	五〇	八〇
	又ハ神戸鑵地ヨリ豐後水道北口マデ	五〇	八〇
	豐後水道北口ヨリ門司若ノ下關鑵地マデ	一〇〇	一七五
	又ハ門司若ノ下關鑵地ヨリ豐後水道北口マデ	一〇〇	一七五

【參照】

逓信省令第三十三號水先法施行細則（明治三十二年七月二十九日）抄錄

第十三條　水先區ハ左ノ四種トス

一　東京灣水先區　安房國洲ノ埼ヨリ相模國城ケ島西端ヲ經テ鎌埼ニ引キタル線及同國沖ノ島南端ヨリ豐島南端ヲ經テ深浦ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

二　内海水先區　紀伊國田倉埼ヨリ友ケ島ヲ經テ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國押登埼ヨリ阿波國大磯埼ニ引キタル線及同國代所ヨリ筑前國碧區所ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三　長崎灣水先區　壹岐國猿田埼ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及同國沖ノ島南端ヨリ豐埼島南端ヲ經テ深浦ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

四　國前灣水先區　波島國尾花岬ヨリ萬登莫岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

○逓信省令第四十六號

明治三十二年五月逓信省令第二十一號中「航路標識管理所技手及看守」ヲ「航路標識管理所技手及看守」ニ改ム

逓信大臣大浦兼武

明治三十七年六月二十日

【參照】

明治三十二年五月二逓信省令第二十一號ハ交通至難ノ場所ニ在勤スル航路標識看守ノ手當金給與細則ナリ

○逓信省令第四十七號

外國電報ノ料金及其ノ納付方左ノ通相定ム明治三十七年第十五號同三十三年九月逓信省令第六十一號ヲ廢止シ同三十年六月逓信省令第十八號外國新聞電報規則第二條ヲ削除ス

明治三十七年六月二十四日

逓信大臣大浦兼武

一　電報料ノ金額ハ別ニ告示ス

二　電報ニ關スル手數料ノ金額ハ萬國電信條約附屬細目規則及同規則中各國隨時規定事項ニ關シ別ニ告示スル所ニ據ル

三　一、二等郵便局、電信局、郵便電信取扱所及電信取扱所ニ於テ發受スル飛信電報及其ノ局所ニ託シテ發受スル飛信電報ノ料金ハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

【參照】
逓信省令第十八號外國新聞電報規則（明治三十年六月二十六日）抄錄
第二條　本邦發着新聞電報ノ本邦着電料左ノ如シ
一　本邦ト韓國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢
二　「イースターン」線ヲ經テ本邦ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金六錢
三　馬尼剌線又ハ濠洲及太平洋線ヲ經テ本邦ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金八錢
四　本邦ト前各號以外ノ諸國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢
韓國發着新聞電報ノ韓國着電料左ノ如シ
一　韓國ト本邦トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金二錢
二　韓國ト本邦以外ノ諸國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢
韓國發着新聞電報ノ本邦中間料左ノ如シ
一　韓國ト清國及其ノ他ノ諸國（歐羅巴ヲ除ク）トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金六錢
二　長崎及馬尼剌線又ハ長崎、濠洲及太平洋線ヲ經テ韓國ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金六錢
三　長崎及「イースターン」線ヲ經テ韓國ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢
明治三十年六月二十六日逓信省令第十五號ハ海外電報本邦着電料、同三十三年四月十逓信省令第六十一號ハ海外電報料金納付方ノ件ナリ

○内務省令第十號
治安警察法第十八條ニ依リ残器其ノ他ノ物件携帯禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム
明治三十七年七月二十二日　内務大臣子爵芳川顯正
土方稼人、炭坑稼人、仲仕稼人ハ左ノ地域内ニ於テ残器爆發物又ハ残器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ爆發物ヲ携帯スルハ此ノ限ニ在ラス
山口縣下美禰郡ノ内東厚保村西厚保村大嶺村伊佐村於福村
○内務省令第十一號
明治三十二年内務省令第二十六號第四書式中發行者ノ下ニ「又ハ發賣頒布者」ノ七字ヲ加フ
明治三十七年七月二十六日　内務大臣子爵芳川顯正

【參照】
明治三十二年十月内務省令第二十六號ハ著作權法施行ニ關スル勅令ニ於ケル檢印申請及届出等ノ件ナリ

○内務省令第十二號
明治三十三年四月内務省令第十七號有害性著色料取締規則中左ノ通改正ス
明治三十七年七月二十六日　内務大臣子爵芳川顯正
第一條中第一種左ニ掲ケル物質ノ下ニ「共ノ化合物及之ヲ含有スルモノ」ノ十六字ヲ加フ
第二條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ野菜果實類ノ貯藏品及昆布ニ共ノ一「キログラム」中銅百「ミリグラム」ヲ含有スル限度マテ銅又ハ銅含有著色料ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

【參照】

內務省令第十七號有害性著色料取締規則（明治三十三年四月十七日）抄錄

第一條　有害性著色料ヲ分チ左ノ二種トス

第一種　左ニ揭ケル物質又ハ之ヲ含有スルモノ

砒素、鉛糖、鹽基性鉛糖、格羅鐵鋼、水銀、鎘、安知世紐鐵、烏拉紐鐵、亞鉛鐵、マラカイト綠、「ナフトロクレゾール」、「コウルリン」

第二種

硫酸鉛、硫化鉛、鹽基性鉛糖、酸化格羅鐵、紫、酸化鐵、「ナタレーフ」金、硫化亞鉛、硫化亞鉛、鋼、亞鉛及其ノ合金ニシテ有害性著色料ヲ有スルモノ

第二條　有害性著色料ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス

○大藏省令第三十一號

明治三十二年大藏省令第十三號所得調査委員定數左記ノ通追加ス

明治三十七年七月六日　大藏大臣男爵曾禰荒助

札幌稅務監督局　小樽稅務署所轄內　六　人

○大藏省令第三十二號

煙草專賣法第十二條及第十六條ニ依リ選定スル鑑定人ノ手當旅費支給方及異議申立人ノ負擔スヘキ費用徵收方等左ノ通之ヲ定ム

明治三十七年七月十二日　大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條　鑑定人鑑定ニ從事シ若ハ鑑定用務ノ爲メ旅行スルトキハ共日數ニ應シ手當トシテ一日金貳圓以內ヲ支給ス

第二條　鑑定人公務ニ依リ旅行スルトキハ前條手當ノ外旅費トシテ別表定ムル所ニ依リ汽車賃船賃、車馬賃ヲ支給ス

第三條　旅費支給ノ方法ハ內國旅費規則ニ準據ス但同規則第九條ハ此限ニアラス

第四條　前各條ノ規定ハ之ヲ煙草專賣局員ヨリ選定スル鑑定人ニ適用セス

第五條　異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ鑑定人ノ手當、旅費及直接鑑定ニ要スル用紙代、郵便料、人夫賃トス

（別表）

旅費額

汽車賃一哩ニ付	船賃一哩ニ付	車馬賃一里ニ付
四錢	四錢	拾五錢

○大藏省令第三十三號

第一條　國庫假債券及國庫本債券五拾圓券及貳拾五圓券ヲ所有スル者ハ之ヲ共合算券面額ニ相當スル百圓以上ノ本債券ト交換ヲ請求スルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依リ債券ノ交換ヲ請フ者ハ共債券ノ種類枚數記號番號代債券ノ種類枚數及假債券ニ在リテハ應募金拂込ノ年月日ヲ記載シタル請求書ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

前項ノ請求書ハ第一回發行ノ假債券ニ在リテハ明治三十七年十一月末日迄ニ第二回發行ノ假債券ニ在リテハ明治三十七年十一月末日迄ニ之ヲ提出スヘシ

本債券ヲ本債券ト交換セントスル者ハ日本銀行本支店又ハ代理店ヨリ交付スル預證書ト引換ニ本債券ヲ請求書ニ添附シテ提出スヘシ

第三條　交換ノ請求ヲ受ケタル日本銀行木支店又ハ代理店カ大藏大臣ヨリ代償券ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ其旨ヲ請求者ニ通知シ其提出スル假償券又ハ預證書ト引換ニ代償券ヲ交付スヘシ

第四條　交換ヲ請求スル者ハ請求書提出ノ際交換手數料トシテ原償券一通ニ付金參錢及代償券一通ニ付金拾錢ヲ納付スヘシ

明治三十七年七月十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第三十四號

明治二十四年勅令第二百四十五號ニ依リ收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手數料種目ニ左ノ一號ヲ追加ス

十　國庫債券及國庫假債券額面交換手數料

明治三十七年七月十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○陸軍省令第二十號

陸軍埋葬規則中左ノ通改正ス

明治三十七年七月十六日

陸軍大臣寺內正毅

第六條第一項中「其遺骸」以下ヲ「但シ親族ヨリ遺骸ノ下付ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得」ニ改ム

【參照】

陸軍省令第二十二號陸軍埋葬規則（明治三十年八月十七日）抄錄

第六條　凡ソ平時ニ在テ死亡シ又ハ戰地ニ於テ傷病ニ罹リ之ニ起因シ戰地外ニ於テ死亡シタル者ハ陸軍埋葬地ニ埋ルヲ例トス其遺骸ヲ親族ニ下附シタルトキト雖モ其落標ハ第八條ニ據リ處分シ其墳墓ノ坪數ハ第七條但書ニ據ラサルコトヲ得

○海軍省令第十二號

海軍豫備員條例施行細則左ノ通定ム

明治三十七年七月八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍豫備員條例施行細則

第一條　海軍大臣ハ所要ニ應シ海軍豫備員ヲ敎育ノ爲召集セムトスルトキ竝條例第五條第二號第六條第二號、第七條第二號、第八條第二號及第十七條ニ依リ海軍豫備員ヲ任用又ハ採用セムトスルトキハ之ヲ告示ス

第二條　前條ノ告示ニ應シテ海軍豫備員タラムコトヲ志願スル者ハ志願書ニ履歷書及誓約書ヲ添ヘ海軍大臣ニ出願スヘシ

第三條　海軍大臣ハ前條ノ志願者ニ就キ其ノ敎育ニ適スル者ヲ選拔シ海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命ス

第四條　海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ハ情願ヲ以テ退所スルヲ得サルモノトス

第五條　海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ニシテ修業ノ見込ナキ者ハ海軍大臣之ニ退所ヲ命ス

第六條　海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ニシテ敎育修了ノ上試驗ニ合格シタル者ニハ修業證書ヲ授與シ退所ヲ命ス

第七條　海軍大臣ハ修業證書ヲ授與シタル者ヲ檢定委員ノ銓衡ニ附シ進級、任用若ハ採用ノ手續

ヲ爲サヽルモノトス

第八條　條例第七條第一號及第八條第一號ニ該當スル者ニシテ海軍豫備員タラムト志願スルモノハ志願書(第一樣式)ニ履歷書(第二樣式)及誓約書(第三樣式)ヲ添ヘ隨時其ノ管海軍大臣ニ願出ツヘシ此ノ場合ニ在リテハ海軍大臣ハ檢定委員ノ銓衡ニ附シ適任者ヲ撰拔シ海軍豫備三等兵曹又ハ海軍豫備三等機關兵曹ニ任用ス

第九條　海軍豫備員ノ身分ハ海軍省人事局ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第十條　海軍豫備員ニ任用又ハ採用セラルヽ者ハ履歷書(第二樣式)二通ヲ作リ海軍省人事局ニ差出スヘシ但シ豫備候補生ヨリ任用セラルヽ者ハ此ノ限ニアラス

第十一條　海軍豫備員ハ身分其ノ他ニ異動ヲ生シ履歷ニ記入訂正削除等ヲ要スルトキハ其ノ相當官廳等ノ證明書ヲ添ヘ速ニ海軍省人事局ニ屆出ツヘシ

第十二條　海軍豫備員ノ履歷ニハ原籍地、寄留地、族籍、氏名、誕辰、家族、出身、免狀、就職、任官、官等、俸給、補職、乘組、下船、轉勤、轉乘、召集、從軍、叙位、叙勳、收禁、處刑、處罰、懲戒、轉籍、轉住、分家、相續、改名等必要ナル事項ヲ記入スルモノトス

第十三條　海軍豫備員ノ身分其ノ他ニ異動アリタルトキハ本人ヨリ之ヲ屆出ルコト能ハサルトキハ家族ヨリ屆出ルモノトス但シ家族ナキトキハ市町村長又ハ之ニ準スル者ヨリ屆出ツヘシ

附則

海軍豫備員ノ本則施行後三箇月以內ニ其ノ履歷書(第二樣式)二通ヲ調製シ海軍省人事局ニ差出スヘシ

志願書(第一樣式)　用紙美濃紙

海軍豫備員願

今般海軍豫備員條例第何條ニ依リ海軍豫備何々志願仕候間御任(採)用被下度此段奉願候也

明治何年何月何日

族籍

何　某　印

明治何年何月何日

何年何月

海軍大臣爵氏名殿

履歷書(第二樣式)　用紙美濃紙

原籍地	何府縣何郡區市町村何番地	族	籍	(士)族平民	
寄留地	何府縣何郡區市町村何番地	氏名	何某	印	
		誕辰	年號　何年何月何日生		
家族	父	年號何年何月何日生	某		
人名	妻	年號何年何月何日生	某		
並ニ其ノ	長男	年號何年何月何日生	某		
誕辰					

年號月日	實歷	
明治何年何月何日	商船學校ヲ入學生徒（機關科）ヲ命ス	商船學校
同　何年何月何日	海軍練習生徒（機關練習生徒）ヲ命ス 身分ハ海軍兵（機關練習生徒）ニ準ス	海軍省
同　何年何月何日	實地練習ノ爲メ汽船何丸（略稱下同シ）乘組ヲ命ス	商船學校
同　何年何月何日	何丸ニ副乘ヲ命ス	同
同　何年何月何日	練習ヲ終ヘ歸校ヲ命ス	同
同　何年何月何日	商船學校ノ職員ヲ辭ス	同
同　何年何月何日	自今身分ハ海軍少尉候補生（海軍少機關士候補生）ニ準ス	海軍省
同　何年何月何日	甲種何等運轉士（一等機關士）ノ免狀ヲ受ク	日本郵船株式會社
同　何年何月何日	汽船何丸乘組何等運轉士（何等機關士）ノ職ニ就ク	大阪商船株式會社
同　何年何月何日	任海軍省（何等機關長）ノ職ニ就ク	内閣
同　何年何月何日	敍高等官何等	同
同　何年何月何日	何職俸下賜	同
同　何年何月何日	敍何位	同
同　何年何月何日	任遞信技師	遞信省
同　何年何月何日	敍高等官何等	内閣
同　何年何月何日	何級俸下賜	同
同　何年何月何日	依願免本官	同
同　何年何月何日	海軍砲術練習所（海軍機關術練習所）入所ヲ命ス	海軍省
同　何年何月何日	修業證書ヲ授與ス	同
同　何年何月何日	任海軍徴發大機關士	内閣

○司法省令第十五號

福岡地方裁判所管内小倉區裁判所管轄筑前國遠賀郡折尾村ニ同區裁判所折尾出張所ヲ置キ明治三十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

本令ハ明治三十七年七月二十日ヨリ施行ス

明治三十七年七月十一日

司法大臣波多野敬直

地方裁判所	區裁判所	郡	市區町村	舊
福岡	小倉	遠賀	芦屋町	遠賀郡ノ内
			水巻村大字猪熊	同
		鞍手	宗像村大字赤間	遠賀郡ノ内
			鞍手町	同
		筑前	遠賀郡ノ内	上津役村
			黒崎町	八幡町　戸畑町
		遠賀	折尾村	鳥津村　香月村　脇井野村　波水村　若松町
			石峯村	洞北村　水巻村大字吉田立屋敷ノ一部

證書

今般海軍徴發員ニ御採用相成候ニ就テハ御規則等嚴守致シ暫ク規定ノ服役可仕此段誓約仕候也

明治何年何月何日

海軍大臣爵氏名殿

何某　印

○文部省令第十六號

明治三十一年文部省令第八號氣象臺測候所條例施行細則中左ノ通リ改正ス

明治三十七年七月二十八日　文部大臣久保田讓

第三條中「日溫計」ヲ削ル

第九條中「文部大臣ノ認可ヲ經テ」ヲ削ル

第十條ヲ左ノ如ク改ム

第十條　測候所ニ於テ地方天氣豫報ヲ發スルニハ左ノ諸件ヲ記載シ地方測候所ハ地方長官ニ於テ共ノ他ノ測候所ハ地方長官ヲ經由シテ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　前一箇年間天氣豫報發布區域

二　天氣豫報發布區域

三　實施期日

第十四條中地方測候所ノ下ニ「ハ」ヲ加ヘ「文部大臣ニ開申シ同時ニ」ヲ削ル

第十六條中「文部大臣ニ屆出テ同時ニ」ヲ削ル

第十九條中「北海道廳ニ於テハ本廳長」ヲ削ル

第二十二條中第一號及第二號ヲ左ノ如ク改メ第五號ヲ加フ

一　位置及地勢ヲ知ルニ足ルヘキ縮尺十萬分一ノ略圖（正確ナル經緯度ヲ知リ得タル場合ニ於テハ之ヲ記載スヘシ）

二　圖表ヲ有スルトキハ其ノ使用ノ場合

五　實施期日

第二十三條中「前條ノ諸件其ノ他」ヲ「正式警報信號標ノ上ニ加フ

（參照）

文部省令第八號氣象臺測候所條例施行細則（明治三十一年三月五日）抄錄

第三條　測候所ヲ分テ一等二等トス

一等測候所ハ晴雨計寒暖計乾濕計最高最低寒暖計日溫計地溫計地中寒暖計風力計風信器雨量計蒸發計日照計地震計等ヲ備ヘ毎時觀測ヲ爲スヘシ

二等測候所ハ晴雨計寒暖計乾濕計最高最低寒暖計風力計風信器雨量計地震計等ヲ備ヘ一日六回ノ觀測ヲ爲スヘシ

第九條　測候所ノ觀測ノ方法器械ノ品位報告ノ書式及期限天氣豫報警報ノ發表之ヲ定ム

第十條　測候所ニ於テ地方天氣豫報ヲ發スルニハ一箇年間天氣豫報ヲ發スヘキ地方ヲ定メ他ノ測候所ハ地方長官ヲ經由シテ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　地方測候所經費額ノ決定シタルトキ及備付器械又ハ所長ニ異動アリタルトキハ其都度文部大臣ニ開申シ同時ニ中央氣象臺長ニ通知スヘシ

第十六條　前條測候所ノ敷地建物若クハ等級ヲ變更セントスルトキハ第十三條ニ準拠シ地方長官ヲ經由シテ文部大臣ノ許可ヲ請フヘシ又其他ノ事項ニ異動アリタルトキハ地方長官ヲ經由シテ文部大臣ニ屆出テ同時ニ中央氣象臺長ニ通知スヘシ

第十九條　條例第四條ノ地方測候所ヲ除ハ北海道廳ニ於テハ本廳長官ハ之ヲ文部大臣ニ開申シ同時ニ中央氣象臺長ニ通知スヘシ

第二十二條　地方長官新ニ正式警報信號標ヲ設立シ若クハ其位置及地勢（地圖ヲ添ス）ルヲ變更シ又ハ廢止シタルトキハ之ヲ文部大臣ニ開申シ同時ニ中央氣象臺長ニ通知スヘシ

一　位置及地勢（地圖ヲ添ス）

二　圖表ノ有無及使用ノ場合

第二十三條　正式警報信號標ニ異動ヲ生シタルトキハ地方長官ハ之ヲ文部大臣ニ開申シ同時ニ中央氣象臺長ニ通知スヘシ

○農商務省令第十二號

明治二十九年農商務省令第三號生絲檢查所法施行細則左ノ通改正ス

明治三十七年七月一日　農商務大臣男爵清浦奎吾

生絲檢查所法施行細則

第一條　生絲檢查所ハ左ノ各號ニ付生絲ノ檢查ヲ施行ス

一　原量
二　正量
三　繰濶
四　品位
　(イ)　纖度
　(ロ)　纖節
　(ハ)　纖節
　(ニ)　強力及伸度

生絲檢查所ハ前項ノ外生絲檢查上必要ナル研究調查及生絲整理工夫成ヲナス

第二條　生絲檢查所法第二條ニ依リ生絲ノ檢查ヲ請求セントスル者ハ甲號雛形ノ請求書ニ生絲ヲ添附シ生絲檢查所ニ提出スヘシ但シ第一條第一項第一號又ハ第二號ノ檢查ヲ請求スル爲同時ニ四十箇(俵)以上提出セントスル場合ニ在リテハ豫メ請求書ヲ提出スルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ生絲ノ搬入ニ付生絲檢查所ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條　試驗又ハ研究ノ爲製造シタル生絲ノ檢查ヲ請求セントスル者ハ製造ノ目的及方法ヲ詳記シタル請求書ニ生絲ヲ添付シ生絲檢查所ニ提出スヘシ

前項ノ檢查請求ニ付テハ前條、第四條、第五條及第十一條第一項第二項ヲ適用セス

第四條　檢查請求ノ爲メ提出スヘキ生絲ノ數量ハ一件ニ付第一條第一項第一號又ハ第二號ノ檢查ニ在リテハ一箇以上、第一條第一項第三號ノ檢查ニ在リテハ五本以上トス

第五條　生絲檢查所所在地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル檢查請求者ハ生絲檢查所所在地ニ代理人ヲ定メ檢查請求ト同時ニ其ノ氏名住所ヲ届出ヘシ

前項ノ代理人ハ檢查請求ニ關シ之ヲ檢查請求者ト看做ス

第六條　檢查請求書受理ノ時間ハ午前八時ヨリ午後三時迄トシ土曜日ニ在リテハ午前八時ヨリ正午十二時迄トス但シ必要アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第七條　檢查請求ノ爲提出シタル生絲ニシテ檢查ヲ與フルノ價値ナシト認ムルトキハ生絲檢查所ハ其ノ請求ヲ却下スルコトアルヘシ

第八條　生絲檢查所ニ於テ第二條ノ生絲ヲ受理シタルトキハ請求者ニ對シ乙號雛形ノ預書ヲ交付ス

預書ハ檢查請求者ニ於テ前項生絲ノ引渡ヲ受ケタルトキ之ヲ生絲檢查所ニ返納スヘシ

第九條　生絲ノ檢查ハ請求書受理ノ順序ニ依リ之ヲ施行ス但シ第二條但書ノ場合ニ在リテハ生絲受預ノ順序ニ依リ之ヲ施行ス

第十條　生絲檢查所ニ於テ生絲ノ包裝ヲ解キ又ハ之ヲ包裝スルトキハ檢查請求者ハ之ニ立會フコトヲ得

第十一條　生絲檢査所ニ於テ生絲ノ檢査ヲ終リタルトキハ檢査ノ種類ニ從ヒ丙號雛形ノ檢定證正副二通ヲ檢査請求者ニ交付ス

第一條第一項第一號又ハ第二號ノ檢査ノ場合ニ於テハ檢定正證ヲ生絲ノ包裝中ニ挿入シ封印スヘシ

第三條ノ檢査ヲ終リタルトキハ檢査證明書ヲ檢査請求者ニ交付スルコトアルヘシ

第十二條　生絲檢査所ニ於テ檢査ヲ終リ又ハ檢査請求ヲ却下スヘシト決定シタルトキハ口頭又ハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ檢査請求者ニ通知スヘシ

檢査請求者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ生絲ノ引取ヲ爲スヘシ

第十三條　檢査請求者ニ於テ前條第二項ノ引取ヲ爲ササルトキ又ハ生絲檢査所ニ於テ必要ト認ムルトキハ生絲ヲ檢査請求者ニ返送スヘシ此ノ場合ニ於テ返送ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十四條　第一條第一項第四號ノ檢査ヲ行フ場合ニ於テ繰取リタル生絲ハ之ヲ檢査請求者ニ還付セス

第十五條　生絲檢査所ハ檢査ノ爲提出シタル生絲ニ付不可抗力ニ因リ生シタル損失ノ責ニ任セス

甲號（其二）

受附　年　月　日　原節

生絲檢査請求書

Désignation des grèges. 生絲種別	Nombre. 箇數
Marque. 記號	Producteur. 製產者
Numéro. 番號	Provenance. 產地
檢查ヲ要スル項目 原 Pesage. 量	

前記ノ生絲御檢査相成度此段請求候也

年　月　日

生絲檢査所長宛

氏名印

甲號（其二）

受附　年　月　日　正節

生絲檢査請求書

Désignation des grèges. 生絲種別	Nombre. 箇數
Marque. 記號	Producteur. 製產者
Numéro. 番號	Provenance. 產地
檢查ヲ要スル項目 Conditionnement 正量	

前記ノ生絲御檢査相成度此段請求候也

年　月　日

生絲檢査所長宛

氏名印

明治三十三年七月　省令　農商務省第十三號　生絲檢查所法施行細則

甲號(其三)

受附　年　月　日　檢第　號

生絲檢查請求書

Désignation des frégre. 生絲種別	Nombre. 個數	Producteur. 製造者	Provenance. 產地
Marque. 記號			國　郡
Numéro. 番號			

檢查ヲ要スル項目　Dévidage 繰方　Titrage 度　Netteté 節　Ténacité 強力　Elasticité 伸度

Déreglage 疵

前記ノ生絲檢查相成度此段請求候也

年　月　日

生絲檢查所長兒

氏名印

甲號(其四)

受附　年　月　日　品第　號

生絲檢查請求書

Désignation des frégre. 生絲種別	Nombre. 個數	Producteur. 製造者	Provenance. 產地
Marque. 記號			國　郡
Numéro. 番號			

檢查ヲ要スル項目　Dévidage 繰方　Titrage 度　Netteté 節　Ténacité 強力　Elasticité 伸度

Déreglage 疵

前記ノ生絲檢查相成度此段請求候也

年　月　日

生絲檢查所長兒

氏名印

乙號

番	數員	者造製	號番札

者求請　氏名

右證明候也

年　月　日

生絲檢查所印

號　第

日　年　月				
名　氏				
札番號	號番號記	員數	者造製	者求請

號　第

明治三十三年七月　省令　農商務省第十三號　生絲檢查所法施行細則

二三

EMPIRE DU JAPON

CONDITION DES SOIES

CONDITIONNEMENT

No.....

Yokohama le .....

Marque

No.....

Déposé par M. .....

Soies grèges ..... *pesant brut* .....

* *Tare* .....

Net .....

.....Flottes extraites de la et pesant net .....

Se sont réduites au poids absolu .....

D'où résulte pour la le poids absolu .....

Augmentation de onze pour cent .....

Poids conditionné .....

Diminution .....

Poids primitif .....

Le Directeur de l'Etablissement (Signature)

* *La tare comprend la toile, les papiers, les chops et les liens.*

帝國日本生絲檢查所

正量檢定證

第　號

橫濱　明治　年　月　日

請求者

記號

第　號

生絲　此全量 .....

*風　袋 .....

原　量 .....

一　ヨリ拔出シタル本數 ..... 此原量 .....

原量ヨリ水分ヲ除去シタル無水量 .....

一　ニ對スル無水量 .....

水分量一割一分 .....

正　量 .....

減　量 .....

原　量 .....

EMPIRE DU JAPON 帝國日本 生絲檢查所 CONDITION DES SOIES

* 風袋ニハ布袋、紙、商標、結束絲等ヲ含ム

EMPIRE DU JAPON

CONDITION DES SOIES

PESAGE

Yokohama le .....

Marque

No.....

Déposé par M. .....

Soies grèges ..... *pesant brut* .....

* *Tare* .....

Net .....

Le Directeur de l'Etablissement (Signature)

* *La tare comprend la toile, les papiers, les chops et les liens.*

帝國日本生絲檢查所

原量檢定證

第　號

橫濱　明治　年　月　日

記號

第　號

請求者

生絲　此全量 .....

*風　袋 .....

原　量 .....

EMPIRE DU JAPON 帝國日本 生絲檢查所 CONDITION DES SOIES

* 風袋ニハ布袋、紙、商標、結束絲等ヲ含ム

明治三十七年七月 省令 農商務省第十二號 生絲檢查所法施行細則

丙號(其四)

EMPIRE DU JAPON

CONDITION DES SOIES

ESSAI

No.....

Yokohama le.....

Marque

No.....

Présenté par M......

Soies grèges.....

OBSERVATIONS	Titre légal en centig par 500 mètres	Titre ancien en denier par 476 mètres
5 flottes ont cassé.....*fois en 2 heures*		
pour une ouvrière.....*à*.....*tavelles*		
tournage de.....*tours par minute.*		
Netteté :		

Ténacité	Elasticité
	%
	"
	"
	"
	"
	"
	"
	"
	"
Moyenne	"
	Moyenne

Le Directeur de l'Etablissement
(Signature)

二一七

丙號(其三)

EMPIRE DU JAPON

CONDITION DES SOIES

RENSEIGNEMENT SUR LE DÉCREUSAGE

No.....

Yokohama, le.....

Marque

No.....

Présenté par M.

Soies grèges

Poids primitif.....

Poids à l'absolu.....

Poips à l'absolu après décreusage.....

Perte au décreusage.....

Perte au décreusage pour cent.....

Le Directeur de l'Etablissement
(Signature)

帝國日本生絲檢查所

練減檢定證

第 號

橫濱 明治 年 月 日

記號

第 號

請求者

生絲

原量.....

無水量.....

練減後無水量.....

練減量.....

練減百分率.....

EMPIRE DU JAPON
帝國日本
生絲檢查所
CONDITION DES SOIES

明治三十七年七月 省令 農商務省第十二號 生絲檢查所法施行細則

二二六

第　號

帝國日本生絲檢査所

品位檢定證

横濱　明治　年　月　日

請求者

生絲

記號

號　號

摘要	正式國位 四百メートルニ對スルキログラム	佛式國位 四百七十メートルニ對スルルデニール
五本絲返二時間切斷數		
工女一人受持釜數　乃至		
一分時間回轉數		
顧部	強力	伸度
輪類		%
大體		〃
		〃
		〃
		〃
		〃
		〃
		〃
		〃
		〃
平均	平均	

EMPIRE DU JAPON
帝國日本
生絲檢査所
CONDITION DES SOIES

○逓信省令第四十八號

郵便集配人取集郵便貯金規則左ノ通相定メ來八月十一日ヨリ施行ス

明治三十七年七月四日

逓信大臣大浦兼武

郵便集配人取集郵便貯金規則

第一條　各郵便局ノ郵便區市外ニ在ル者ハ本規則ノ定ムル所ニ從ヒ所轄郵便局ノ郵便集配人ニ依リ郵便貯金ノ預入ヲ爲スコトヲ得但シ證券ヲ以テ郵便貯金ニ預入スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

郵便集配人ニ於テ前項郵便貯金ノ取扱ヲ爲スヘキ場所及日時ハ所轄郵便局長ノ掲示スル所ニ依ル

第二條　郵便集配人ニ依リ郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ指定ノ場所及日時ニ於テ貯金預入申込書又ハ貯金通帳ニ現金又ハ郵便切手貯金受紙ヲ添ヘ之ヲ郵便集配人ニ交付シ其ノ受領證ヲ領置スヘシ

同一ノ場所及日時ニ於テ預入ヲ爲サントスル者多數アルトキハ其ノ總代人ニ於テ取纏メ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各預ケ人ノ氏名金額等ノ内譯書ヲ添附差出スヘシ

第三條　前條ニ依リ取扱ヲ爲シタル郵便貯金ニ對シテハ所轄郵便局ニ於テ相當手續ヲ爲シタル上貯金通帳ハ預入ノ日ヨリ起算シ三日以内ニ郵便集配人ヲシテ第二條ノ受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付セシム但シ總代人ニ於テ取纏メ預入ヲ爲シタルモノニアリテハ之ヲ其ノ總代人ニ交付セシム

第四條　貯金預ケ人前條ノ期間内ニ貯金通帳ノ交付ヲ受ケサルトキハ直ニ其ノ旨ヲ當該郵便局長又ハ所轄一等郵便局長ニ申告スヘシ

○逓信省令第四十九號

明治三十二年六月逓信省令第二十五號船員法施行細則中左ノ通改正シ明治三十七年八月一日ヨリ施

行ス

明治三十七年七月六日

逓信大臣大浦兼武

第十六條第一項ヲ左ノ通改ム

木牌ニ掲クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其旨及字数ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様抹消スヘシ

第十八條第二項各號ヲ左ノ通改ム

一　船舶ノ番號、種類及名稱
二　船籍港
三　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
四　船長ノ氏名、住所竝海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關長ノ氏名、住所竝海技免狀ノ種類
五　船舶ノ發航港竝到達港及報告スヘキ事實ノ發生シタル場所竝年月日時
六　報告スヘキ事實ノ顛末

第二十二條ノ二　船員法第二十三條第一項ニ依リ日本臣民ヲ送還スヘキコトヲ命セラレタル船長カ公使、領事又ハ貿易事務官ノ指定シタル港ニ到著シタルトキハ其港ニ於ケル警察署ニ送還ノ事由ヲ疏明シ被送還者ヲ引渡スヘシ

前項ニ依リ被送還者ヲ引渡シタル船長カ被送還者ヨリ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ被送還者ノ氏名、出生年月日、出生地、身分、本籍地、住所、扶養義務者ノ氏名、住所及送還ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ作リ之ヲ被送還者ヲ引渡シタル警察署ニ提出シテ其證明ヲ申請スルコトヲ得

船長カ明治三十三年勅令第四百十五號ノ規定ニ依リ送還費用ノ請求ヲ爲ス場合ニハ請求書ニ前項ノ書類ヲ添附スヘシ

第二十三條　船長カ就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セントスルトキハ第九號書式ノ申請書ニ就職又ハ退職及其年月日ヲ證スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

就職ノ認證ヲ申請セントスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定ニ從フ外其海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閲ニ供スヘシ

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員雇入期間カ滿了シタルトキ
二　海員カ死亡シタルトキ
三　海員雇入契約ヲ解除シタルトキ
四　海員雇入契約カ終了シタルトキ
五　雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十五條ノ二　管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一　雇入年月日
二　職務
三　雇止年月日
四　雇止事由
五　雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作リ署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止公認ヲ受ケタルトキハ過滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第一項ニ掲クル海員カ前項ノ證明書及雇止公認ノ通知ヲ受ケタルトキ、船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ前項ノ證明書及通知書ヲ添ヘ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ提出シテ雇止公認ノ認證ヲ申請スヘシ

第四十三條　海員雇入又ハ雇止ノ公認ノ認證ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船長ノ證明書ニ依リ船員手帖ニ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ船員手帖ニ公認竝公認ノ認證ノ年月日、管海官廳ノ名稱及第三十一條、第三十二條又ハ第三十五條ノ二ノ場合ニ在リテハ公認ノ認證ノ事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シ雇入ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付シ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付ス

海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ依リ船員手帖ニ更新又ハ變更ノ要旨、場所、年月日及公認ノ認證ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ交付ス

管海官廳ハ年月日及管海官廳ノ名稱ヲ刻シタル印ヲ以テ第一項ノ公認ノ認證ノ年月日ノ記載及捺印ニ代フルコトヲ得

第四十三條ノ二　船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ原手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受クヘキ事項ヲ船員手帖ニ記載シテ提出シ公認アリタル海員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ謄本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲スヘシ

第四十七條ノ第一項中「認印」ノ下ニ「及前條ノ記載」ヲ加フ

第五十一條中「第二十一條」ノ下ニ「第二十二條ノ二第一項」ヲ加ヘ「違反シタル者」ノ下「又ハ」ヲ削リ「差出ササル者」ノ下ニ「又ハ第三十五條ノ二第二項ニ定メタル證明書ノ交付又ハ公認ノ通知ヲ爲ササル者ハ」ヲ加フ

書式中ニ第九號書式ヲ追加ス

（第九號書式）

船長就職（退職）認證申請書

一　船員手帖番號
二　船種船名
三　船舶所有者氏名
四　航路定限
五　積量
六　就職（退職）年月日

右證據相成度此段申請候也

明治　年　月　日

（管海官廳名）
御中

船　丸船長
（氏名　印）

（備考）　船員手帖雛形ノ頂ニハ船長手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ所在地ヲ其番號ニ冠附シ之ヲ記載スヘシ例ヘハ東京ノ管海官廳ニテ交付シタル第一號ノ船員手帖ニハ東京第一號ト記載スルカ如シ

（參照）

遞信省令第二十五號船員法施行細則（明治三十二年六月十二日）抄錄

第十六條　本章ニ揭ケル雛形ノ記載スルニ當リ文字ノ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ記印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣字體ヲ存スヘシ

第十八條　船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　船舶ノ名稱

二　船籍港

三　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

四　報告スヘキ事實ノ發生シタル場所及年月日時

五　報告スヘキ事實

第二十三條　船長船員雇又ハ退職ノ認印ヲ申請セントスルトキハ雇入又ハ退職ノ認印ヲ申請セントスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定ニ從フ外船舶ノ種類名稱、航路定限及種屯ヲ記載シタル書面ヲ差出シ且其海技免狀ヲ管海官廳ニ供スヘシ

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員ノ雇入期間滿了シタルトキ

二　海員死亡シタルトキ

三　前法第五百八十一條又ハ第五百八十三條ニ依リ海員ヲ雇止メタルトキ

四　前法第五百八十七條ニ依リ海員雇入認約終了シタルトキ

第四十三條　海員公認ノ認印ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ船員手帖ニ在リテハ更新又ハ書換ノ認印ヲ爲シ雛形ニ在リテハ更新又ハ書換ノ要旨、場所及年月日ヲ記載シ管海官廳ノ認印ヲ爲シ之ヲ返付スヘシ

第四十五條　海員公認ノ認印ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ船員手帖ニ在リテハ公認ノ年月日並第三十一條又ハ第三十二條ノ場合ニハ之ヲ爲シタル者ニ交付シ雛形ニ在リテハ更新又ハ書換ノ要旨、場所及年月日ヲ記載シ管海官廳ノ認印ヲ爲シ之ヲ返付スヘシ

第四十七條　第十六條第一項ノ規定ハ認印ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認印ヲ爲スニ當リ之ニ認印スルコトヲ要ス

文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ雛形ヲ汚サス

第五十一條　第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條又ハ第四十七條ノ命令ニ違反シタル者又ハ第二十二條第二十三條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條又ハ第四十七條ノ命令ニ違反シタル者ハ管海官廳ニ遞納スヘキ罰金ノ額ヲ減シ又ハ其ノ全部ヲ免除スルコトヲ得

○遞信省令第五十號

船員雛形規則ヲ左ノ通相定メ明治三十七年八月一日ヨリ施行ス

明治三十七年七月六日

遞信大臣大浦兼武

船員雛形規則

第一條　船員手帖ヲ受有シタル者カ之ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ニ揭ケル事項ノ證明ヲ遞信省ニ申請スルコトヲ得

一　海員雇入ノ公認

二　海員雇止ノ公認

三　海員雇入契約變更ノ公認

四　海員雇入契約變更ノ公認（明治三十七年八月一日以後ノ認印ニ限ル）

五　船長退職ノ認印（明治三十七年八月一日以後ノ認印ニ限ル）

六　船長退職ノ認印

前項ノ申請ヲ爲スニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖ノ番號及證明ヲ受ケントスル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ但記載スヘキ事項不明ナルトキハ其旨ヲ記載スヘシ

第二條　前條ノ證明ヲ申請スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　海員雇入ノ公認　　毎一件　十錢
二　海員雇止ノ公認　　毎一件　十錢
三　海員雇入契約更新ノ公認　　毎一件　十錢
四　海員雇入契約書更ノ公認　　毎一件　十錢
五　船長減職ノ認證　　毎一件　四十錢
六　船長退職ノ認證　　毎一件　四十錢
手數料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シ消印ヲ爲サシテ之ヲ納付スヘシ但申請者ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

第三條　第一條ノ證明ヲ申請スル者ハ手數料ノ外郵送料ニ相當スル郵便切手ヲ納付シテ證明書ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

○遞信省令第五十一號

明治三十五年十一月　遞信省令第五十三號外國小包郵便規則中左ノ通改正シ明治三十七年八月一日ヨリ施行ス

明治三十七年七月十六日

遞信大臣大浦兼武

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二　米國トノ條約ニ據ル小包郵便物ニシテ本邦引受ニ係ルモノヲ本邦疆內ニ於テ亡失若ハ毀損セシメタル場合ニ於テハ內國小包郵便物ノ例ニ依リ賠償ヲ爲ス

第十四條中「加那太小包」ノ下ニ「米國小包」ヲ加フ

第十五條中「郵便局所ヨリ」ノ下ニ「香港、加那太及米國トノ條約、約定ニ據ル場合ハ發國告知書、其ノ他ノ條約、約定ニ據ル場合ハ發

國小包」、第十六條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五　書留ヲ請求セントスルトキハ　書留（Registered）

第二十六條第二項中「到達證ヲ請求シタル」トアルヲ「到達證若ハ書留ヲ請求シタル」ニ改ム

〔參照〕

遞信省令第五十三號外國小包郵便規則（明治三十五年十一月八日）抄錄

第十四條　外國小包郵便物ニハ其ノ表面ニ名宛ノ箇所ニ見易キ樣普通條約ニ據リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ「英國小包」、英國及其ノ他ノ諸國トノ條約者ハ約定ニ據リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ「英國小包」、「加那太小包」其ノ他名ヲ記載スヘシ

第十五條　外國小包郵便物ヲ差出サントスルトキハ郵便局所ヨリ送狀及稅關告知書ノ式紙ヲ受取リ之ニ各其ノ指定ノ事項ヲ記載シ且料金相當ノ郵便切手ヲ各其ノ小包郵便物ニ貼附シテ共ニ之ヲ該郵便局所ニ差出シ受領證ヲ受取ルヘシ

第十六條　特殊取扱ヲ許容スル條約者ハ約定ニ據リ差出ス小包郵便物ニ對シ其ノ特殊取扱ヲ請求セントスルトキハ左ニ記載セル文字ヲ該小包郵便物ノ表面名宛ノ箇所並ニ之ニ附屬スヘキ送狀ノ式紙ニ記入スヘシ

第二十六條　外國小包郵便物ノ差出人ハ小包郵便物差出後相當ノ料金ヲ納付シテ該小包郵便物ノ踪跡取調ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

到達證ヲ請求シタル小包郵便物ニ付テハ別ニ料金ヲ納付スルコトナク前項ノ踪跡取調若ハ到達證ノ交付ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

○遞信省令第五十二號

明治三十六年十二月　遞信省令第五十六號規約貯金特別取扱規則中左ノ通改正シ明治三十七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年七月二十日

遞信大臣大浦兼武

第二條第二號「規約者ノ氏名」トアルヲ「規約者ノ人員」ト改ム

第三條第二項中前條第一號乃至第四號トアルヲ「前條第一號第三號及第四號ト改ム

同條ニ左ノ一項ヲ追加ス

前項ニ依リ變更認可ヲ受ケタル場合ニ於テ共變更ニ係ル事項カ拂戻制限ニ關スルモノナルトキハ當該規約者ハ貯金通帳ヲ預拂取扱局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル徴號ノ附記又ハ取消ヲ受クヘシ

第五條ニ左ノ一項ヲ追加ス

通常貯金通帳ハ其發行局所カ規約貯金預拂取扱局所ト同一ノ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ノ受持ニ屬スル場合ニ限リ之ヲ規約貯金ニ使用スルコトヲ得此場合ニ於テハ通帳ヲ預拂取扱局所ニ差出シ特別徴號ノ附記ヲ受クヘシ

第七條ニ左ノ一項ヲ追加ス

前項ノ場合ニ於テ同時ニ多數ノ記入ヲ要スルモノナルトキハ共預入月ノ同一ナルモノニ限リ之ヲ取纏メ通帳ニ記入ス

第九條ノ次ニ左ノ二條ヲ追加ス

第九條ノ二　規約貯金預入票及規約貯金組替請求書用紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

前項私製ノ用紙ハ其紙質、形狀、欄數及記載事項等郵便局所發行ノモノト同一ナルコトヲ要ス但シ用紙ノ裏面ニハ當該文ノ性質ヲ有セサル事項ニ限リ之ヲ記載スルコトヲ得

第九條ノ三　總代人ハ規約貯金預入票用紙又ハ規約貯金組替請求書用紙ヲ各規約者ニ交付スル爲メ其送達ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ用紙相當欄ニ總代人ノ居所氏名ヲ記入シ尚ホ私製ノ用紙ニ在リテハ貯金通帳ノ記號番號ヲモ記入シタル上之ニ帶封ヲ施シ其表面ニ規約者ノ居所氏名ヲ記載シ預拂取扱局所ニ差出スヘシ

第十一條第二項及第十五條第二項ノ各末尾ニ「共變更ノ場合亦同シ」ノ九字ヲ追加ス

第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第十五條ノ二　規約貯金ノ預入者他ノ規約貯金組合ノ預拂取扱局所ト同一ノ郵便爲替貯金管理所ノ受持ニ屬スルトキハ其通帳ヲ新組合ニ於テ繼續使用スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該通帳ヲ新組合ノ預拂取扱局所ニ呈示シ共事實ヲ證明スヘシ

【參照】

郵便省令第五十六號規約貯金特別取扱規則（明治三十六年十二月四日）抄錄

第二條　前條ノ特別取扱ヲ請求セントスル者ハ其代表者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ規約證寫ヲ添ヘ逕信郵便局所ヲ經由シ所轄通信管理局長、一等郵便局長又ハ在外郵便局長ニ差出スヘシ

一　規約者ノ氏名

第三條　特別取扱ノ認可ヲ受ケタル後其規約事項及前條第一號乃至第四號ニ變更ヲ生シタルトキハ預拂取扱局所ヲ經由シ所轄通信管理局長、一等郵便局長又ハ在外郵便局長ニ申報スヘシ

第十一條　規約貯金ノ拂戻ニ關シ制限ヲ要スルモノナルトキハ其規約ニ抵觸セサルコトヲ證明スルニ非ラサレハ之レカ拂戻ヲ爲サス

前項ノ證明方法ハ規約中ニ之ヲ定メ代表者ヨリ徴メ之ヲ預拂取扱局所及郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ屆出ツヘシ

第十五條　規約貯金ハ規約ヲ脫シタルトキハ其旨ヲ證明シ前條ノ例ニ依リ通帳ニ特別徴號取消ノ證印ヲ受クヘシ

前項證明方法ハ規約中ニ之ヲ定メ代表者ヨリ徴メ之ヲ預拂取扱局所ニ屆出ツヘシ

○内務省令第十三號

明治三十二年内務省令第三十四號海港檢疫法施行規則第一條第一項第二項中「下ノ關港」ノ下ニ各「若松港」ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十七年九月一日ヨリ施行ス

明治三十七年八月五日

内務大臣子爵芳川顯正

【參照】

内務省令第三十四號海港檢疫法施行規則（明治三十二年七月十三日）抄錄

第一條　檢疫ヲ施行スル海港ハ横濱港、神戸港、長崎港、門司港、下ノ關港及日ノ津港トス其他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

下ノ關港ニ來ル船舶ハ門司海港檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

○大藏省令第三十五號

明治三十五年五月大藏省令第十號中「大臣官房營繕課長」ノ次ニ「臨時煙草製造準備局作業部長」ヲ追加ス

明治三十七年八月二十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

【參照】

明治三十五年五月二日大藏省令第十號ハ不動產登記ノ嘱託ニ付キ官吏指定ノ件ナリ

○大藏省令第三十六號

明治三十四年大藏省令第二十五號中左ノ通追加ス

明治三十七年八月二十五日

大藏大臣男爵曾禰荒助

門司大里間　九州鐵道ハ門司港ヨリ企救郡柳ケ浦村大里ニ至ル直航水路

【參照】
明治三十四年三十一月　大藏省令第二十五號ハ保稅倉庫法ニ依ル通路ノ件ナリ

○司法省令第十六號

橫濱地方裁判所管內橫濱區裁判所管轄武藏國橫濱市寶町ヲ同區裁判所神奈川出張所ノ管轄ニ屬セシメ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中同出張所管轄欄內久保町ノ次ニ寶町ヲ加フ

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年八月二日

司法大臣波多野敬直

○司法省令第十七號

橫濱地方裁判所管內橫濱區裁判所神奈川出張所管轄武藏國橫濱市寶町ニ屬スル商業登記ノ事務ハ橫濱區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年八月二日

司法大臣波多野敬直

○文部省令第十七號

京都帝國大學理工科大學ノ數學科、物理學科及純正化學科ヲ本年九月十一日ヨリ理學科ト改稱ス

文部大臣久保田讓

○遞信省令第五十三號

明治三十三年九月遞信省令第五十七號外國郵便爲替規則第九條第一項中「外國郵便爲替金ハ」ノ下ニ「別段ノ規定アルモノヲ除クノ外」ヲ加フ

明治三十七年八月五日

遞信大臣大浦兼武

【參照】
遞信省令第五十七號外國郵便爲替規則（明治三十三年九月十一日）掲載
第九條　外國郵便爲替金ハ外國爲替換算割合ニ依リ之ヲ換算シ本邦通貨ヲ以テ其ノ受拂ヲ爲スモノトス

○遞信省令第五十四號

戰地特別郵便貯金規則左ノ通相定メ來九月一日ヨリ施行ス

明治三十七年八月十七日

遞信大臣大浦兼武

戰地特別郵便貯金規則

第一條　戰地ニ在ル軍人軍屬及其他ノ者ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ特別郵便貯金ヲ爲スコトヲ得

第二條　特別郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ野戰郵便局、艦船郵便所又ハ軍人軍屬ニ對シ無料通常爲替ノ取扱ヲ爲ス普通郵便局所ニ於テ郵便貯金預入申込書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記載捺印シ之ヲ當該局所ニ差出シ同時ニ預入金ハ軍事郵便爲替又ハ無料通常爲替ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スヘシ但シ預入申込書ノ居所欄ニハ預ケ人ノ本籍及所屬部隊名竝ニ官職兵種等ヲ詳記スヘシ

特別郵便貯金ノ預ケ人第二回以後ノ預入ヲ爲サントスルトキハ其預入金ヲ前項ノ例ニ依リ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ預ケ人名義ノ貯金通帳ヲ以テ預入ヲ取扱フヘシ

第三條　特別郵便貯金ニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ預ケ人ニ交付スル迄之ヲ保管スヘシ

第四條　特別郵便貯金ニ對シテハ貯金受記濟通知書ヲ發行セス

第五條　特別郵便貯金ノ預ケ人ハ內地若ハ在外普通郵便局所在地ニ在ル者ヲ指定シ其者ニ貯金ノ幾部又ハ全部ノ拂渡ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スルコトヲ得

預ケ人前項ノ請求ヲ爲サントスルトキハ拂戻請求書ニ相當事項ヲ記載捺印シ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スヘシ

第六條　郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人ノ氏名等ヲ預入申込書ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上拂戻證書ヲ發行シ之ヲ指定受取人ニ送達シ貯金拂渡郵便局所ニ求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第七條　指定受取人拂戻金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ拂戻證書ニ記名調印ノ上拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

拂渡郵便局所ハ受取人ニ對シ左ノ事項ヲ尋問シ貯金拂戻請求書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ確メ拂戻金ヲ交付ス

一　貯金預ケ人ノ本籍又ハ所屬部隊名及氏名

二　受取人ノ居所氏名

三　前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

第八條　特別郵便貯金ノ拂戻金、利子及保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ貯金通帳ニ記入ス

第九條　特別郵便貯金ノ預ケ人戰地ヨリ復歸シタルトキハ速ニ貯金通帳ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スヘシ此場合ニ於テハ共請求書ヲ普通郵便局所ヲ經由シ差出スヘシ

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ貯金通帳ハ書留郵便ニ依リ之ヲ預ケ人ニ送付ス

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ預ケ人復歸ノ事實ヲ知リタルトキハ貯金通帳交付ノ請求ナキ場合ト雖モ前項ノ例ニ依リ共通帳ヲ預ケ人ニ送付スルコトアルヘシ

第十條　戰地ニ在ル軍人軍屬ニシテ印章ヲ所持セサルカ又ハ之ヲ亡失シタル爲メ貯金預入申込書、貯金拂戻請求書及其他ノ書類ニ調印シ能ハサルトキハ當該書類ニ自カラ記名シ且ツ印章ヲ押捺スヘキ場所ニハ特定ノ花押又ハ符號ヲ附記シ調印ニ代フルコトヲ得但シ貯金拂戻請求ノ場合ニ於テハ當該書類ノ餘白ニ所屬部隊長ノ證印ヲ受クヘシ

前項ニ依リ自署及花押又ハ符號ヲ以テ調印ニ代ヘタル者戰地ヨリ復歸シタルトキハ速ニ印鑑ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ屆出ツヘシ但シ屆書ニハ適宜ノ場所ニ從來使用ノ花押又ハ符號ヲ記シ且相當保證人連署ノ上普通郵便局所ヲ經由シ之ヲ差出スヘシ

第十一條　特別郵便貯金ハ第五條ニ依ルノ外貯金通帳ヲ預ケ人ニ交付シタル後ニ非サレハ共拂戻ヲ爲サス

特別郵便貯金ノ預ケ人ニ共通帳ヲ交付シタル後ハ一般ノ規定ヲ適用ス

第十二條　特別郵便貯金ニ關シ本規則ニ定メタルモノノ外ハ明治二十三年十一月逓信省令第一二三號郵便貯金條例施行細則ヲ準用ス

○逓信省令第五十五號

明治三十三年九月逓信省令第七十五號郵便切手類賣下規則第十六條第一項ニ左ノ但書ヲ追加ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十七年八月　省令　逓信省第五十五號　二四五

但土地ノ狀況ニ依リ一等郵便局長ニ於テ其必要ナシト認メタルトキハ此ノ限リニアラス

〔參照〕
逓信省令第七十五號郵便切手類賣下規則（明治三十三年九月二十九日）抄錄
第十六條　一二等郵便局郵便區內ノ郵便受取所及郵便切手類賣下所ハ郵便切手類ノ賣受組合ヲ設ケ總代人ヲ置キ其ノ賣受ヲ
爲スヘシ

○內務省令第十四號

賣藥竝ニ藥品ヲ配伍シタル物品ニシテ賣藥ニ屬セサルモノノ收去ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十七年九月二十日

內務大臣子爵芳川顯正

第一條　賣藥竝ニ藥品ヲ配伍シタル物品ニシテ賣藥ニ屬セサルモノハ行政執行法施行令第三條ニ依リ試驗ノ用ニ供スルタメ必要ナル分量ヲ收去スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ收去ヲ執行スル場合ニ於テハ明治三十三年內務省令第十號第二條第三條ノ規定ヲ準用ス

○大藏省令第三十七號

京都府紀伊郡深草村ニ京都煙草製造所ノ分工場ヲ設ケ京都煙草製造所伏見分工場ト稱ス

明治三十七年九月十六日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第三十八號

明治三十六年大藏省令第二十四號中神戶檢腦事務局ノ部ヘ左ノ通追加ス

明治三十七年九月二十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

出張所名稱	位	置
山口	山口縣吉敷郡山口町	
忠海	廣島縣豐田郡忠海町	
八幡濱	愛媛縣西宇和郡八幡濱町	

○陸軍省令第二十一號

馬匹徴發事務細則附表中第十一第十二ノ欄ヲ左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年九月九日

陸軍大臣寺內正毅

第十一	德島	一	悉皆
	香川	一	悉皆
	愛媛	一	悉皆
	高知	一	悉皆
	大分	一	東國與西國取
	福岡	一	企救郡役所管轄、筑紫、早良、糸島、朝倉、浮羽、福岡市、小倉市門司市
第十二	佐賀	一	悉皆
	長崎	一	悉皆
	大分	一	速見、字佐、下毛、玖珠、日田

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第二十二號

陸軍召募規則中左ノ通改正ス

明治三十七年九月二十日

陸軍大臣寺內正毅

第四條中「中央幼年學校練習生徒、地方幼年學校生徒」ノ下「陸海軍將校及同相當官」ヲ「陸海軍將校同相當官及陸軍准士官下士」ニ改ム

第八條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

中央幼年學校練習生徒及地方幼年學校生徒志願者ニシテ任官後十五年以上隊附職務ニ精勤シタル陸軍下士ノ兒子又ハ寡婦相續者タル養子ナルトキハ其ノ父滿期歸鄉又ハ死歿ノ際軍隊官衙學校ノ長官ヨリ附與セラレタル勤務證明書ノ寫ヲ願書ニ添附スルモノトス

第四十六條第一項但書中「年齡」ヲ「生年月日」ニ改ム

第一號書式ノ二中「受驗外國語　英(獨)(佛)」ノ下ニ「(露)」ヲ加フ

第一號書式ノ二末尾ニ左ノ如ク加フ

志願者ニシテ陸軍下士以上及海軍將校ノ養子ナルトキハ本人氏名ノ附箋ニ「養子」又ハ「寡婦相續者タル養子」ト明記スヘシ

第二號書式ノ三中願書本文ノ前下方ニ「某儀」ヲ「府縣郡市長奧書ノ前ニ左ノ如ク加フ

選擇外國語	英(獨)(佛)(露)	語
受驗地	何地(居住地所管師管内ニ限ル)	

第三號書式附記ヲ左ノ如ク改ム

一　父母及戸主ノ職業ヲ明ニスル外例ヘハ商ニ在リテハ其ノ種類、官吏公吏ニ在リテハ何官何職何所奉職等詳細ニ明記スヘシ

二　中央幼年學校練習生徒、地方幼年學校生徒志願者ニ在リテハ本人氏名ノ附箋ニ「養子」又ハ「寡婦相續者タル養子」ト明記スヘシ
陸海軍將校同相當官及陸軍准士官下士並從軍タリシ死者ハ其ノ官等及恩給ノ有無又各要進級ヲ爲シタル陸海軍少佐同相當官ニ在リテハ其ノ履歷

三　特ニ國家ニ功勞アル高等官タリシ死者ハ年月ヲ分チ其ノ履歷

一　陸海軍時校及同相當官ニ在リテハ其ノ官等及恩給ノ有無又各要進級ヲ爲シタル陸軍下士ニ在リテハ其ノ略歷

二　增加恩給權ヲ得タル陸軍准士官下士及任官後十五年以上隊附職務ニ精勤シタル陸軍下士ニ在リテハ其ノ略歷

三　中央幼年學校練習生徒及地方幼年學校生徒志願者ニシテ其ノ兄弟現ニ中央幼年學校又ハ地方幼年學校ニ在學セル者アルトキハ戸主ノ次ニ兄弟ノ關係ヲ其ノ旨ヲ記入スヘシ

四　戸主以外ノ者ノ扶養ヲ受クルトキハ其ノ扶養者ニ關スル所得金及財產ヲ記載スヘシ

五　都市長ハ本籍證明ニ必要ノ事項ハ裁判所、警察署ニ照會シ備荒儲蓄ノ爲ニハ本籍郡市町村長ニ照會スヘシ

（參照）

陸軍省令第三十四號陸軍召募規則（明治三十二年十一月十五日）沿線

第四條　志願者ノ年齡及身長左ノ如シ但シ年齡ハ入隊又ハ入校ノ日ノ前日ニ於ケル年齡トス

中央幼年學校學科生徒、地方幼年學校生徒

第四十六條　中央幼年學校長及地方幼年學校長ハ前條ノ書類ヲ調査シ一月三十一日迄ニ教育總監ニ差出スヘシ但シ俱發人名書ニハ族籍、年齡、原住地及戰死並ニ戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ因テ死歿シタル陸海軍將校同相當官及高等文官ノ孤兒ニ在テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

（年齡十三年以上十五年以下及戰死ノ場合ニ於テハ十二年以上十五年以下ニ改ム）

（第四項及第四項但書ノ規定ニ依リ死歿シ又ハ戰傷中危難ヲ冒シタル者ノ遺族ニ扶助料ヲ給スヘキ旨ノ指令アリタルトキハ此限ニ在ラス）

○陸軍省令第二十三號

臨時陸軍檢疫部檢疫規則左ノ通定ム

明治三十七年九月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

臨時陸軍檢疫部檢疫規則

第一章　總則

第一條　內地戰地間ヲ往復スル陸軍所轄ノ船舶及之ニ搭載ノ人馬物件ハ傳染病豫防ノ爲本規則ニ依リ臨時陸軍檢疫部ニ於テ檢疫ヲ施行ス但シ戰地ニ出發ノ船舶及之ニ搭載ノ人馬物件ニ對シテハ特ニ必要アル場合ニ之ヲ施行ス

第二條　本規則ニ依リ消毒ヲ停船ノ處分ヲ受ケ其ノ後異狀ナキ船舶ハ同一航海（往航又ハ復航）中再ヒ停船又ハ消毒セラルルコトナシ

第三條　本規則ニ依リ檢疫ヲ施行スル傳染病ハ虎列剌、ペスト、猩紅熱、痘瘡、黃熱其ノ他海港檢疫法ニ依リ內務大臣ノ指定シタルモノトス

第四條　船舶ノ乘組員（船員及乘船者全部ヲ以下同シ）ハ檢疫ニ關シテハ臨時陸軍檢疫部ノ定メタル規則ヲ遵守シ檢疫官ノ指示ニ從フヘキモノトス

第二章　船舶入港及出港手續

第五條　陸軍運送船臨時陸軍檢疫所在地ニ來著スルトキハ所定ノ場所ニ碇泊シ船長ハ明告書

（附錄第二號）各欄ニ非實ヲ記入シ之ニ署名捺印シテ臨檢檢疫官ニ差出シ船舶ノ檢查ヲ受クヘシ」

檢送指揮官監督將校前項ノ船舶ニ乘組タルトキハ各實任ヲ以テ明告書ニ連署證明スヘシ部隊附醫官其ノ所屬部隊ト共ニ乘組タルトキ亦同シ

第六條　入港船舶ハ本規則ニ依リ檢疫ヲ受ケ許可證（附錄第二號）ヲ得タル後ニアラサレハ入港シ、陸地又ハ他船ト交通シ、乘組員ノ上陸、搭載物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

入港後乘組員ニ傳染病患者ヲ發生シタルトキ亦前項ニ準ス

第七條　入港船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ入港前場合ニ於テハ患者發見ノ時

（入港後傳染病患者ヲ發生シタルトキハ此ノ限ニアラス）

一　現ニ傳染病患者又ハ死者アルモノ

二　航海中傳染病患者又ハ死者アリタルモノ

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シタルモノ

檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前檣頭ニ黃旗ヲ揭ケ夜間ハ同所ニ紅白ノ二燈ヲ連揭スルモノトス

第八條　前條以外ノ船舶ハ檢疫所所在地來著前ヨリ檢疫ヲ了スルマテ晝間ハ前檣頭ニ紅白二色旗（附錄第三號）ヲ揭揚シ夜間ハ同所ニ紅燈一個其ノ下ニ白燈二個ヲ上下ニ連揭スヘシ

第九條　第五條乃至第七條ノ規定ハ出港船舶ニ之ヲ準用ス

第三章　船舶ノ檢查及停船

第十條　陸軍運送船臨時陸軍檢疫所所在地ニ來著スルトキハ檢疫官ハ直ニ其ノ船舶ニ至リ明告書ヲ徵シ必要ノ事項ヲ船長及明告書連署者ニ質問シタル後船內ヲ檢查スヘシ

第十一條　檢疫官檢查ノ結果第七條第二項第一號乃至第三號ニ該當シ又ハ傳染病ノ疑アル患者死者アル爲船舶ノ一部又ハ全部ニ消毒ヲ爲スノ必要ヲ認メタルトキハ直ニ汽笛信號(三聲)ヲ以テ其ノ旨ヲ檢疫所ニ通報シ傳染病患者死者(其ノ疑アル者ヲ含ム以下同シ)ハ焼却ニ付スヘキモノニ區分シ且檢檢ヲ要スル物件ニハ適當ノ符號ヲ附スヘシ但シ私有品ヲ焼却ニ付スルニハ其ノ所有者ノ承諾ヲ經ヘシ

臨檢檢疫官ハ前項ノ外船長又ハ明告書運搬者若ハ所屬隊長立會ノ上傳染病患者死者所屬ノ貴重品ヲ調査シ品目表(附錄第四號)ヲ作リ立會者連署ノ後檢疫所長ニ差出スヘシ

第十二條　臨檢檢疫官ハ第七條第一項第一號乃至第三號ニ該當スル船舶ニ對シ停船ヲ命ス但シ第三號ニ該當スル船舶ニ對シ停船ヲ命スルハ同檢疫官ニ於テ必要ト認メタル場合ニ限ル

前項停船ノ期間ハ第七條第二項第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ消毒ヲ終リタルトキヨリ同第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故ノアリタルトキヨリ起算シ五日(ペストニ在リテハ十日)間トス

第十三條　臨檢檢疫官ハ傳染病ノ疑アル患者ヲ搭載シタル船舶ニ對シ必要ト認ムルトキハ第七條第一項第三號ノ船舶ニ準シテ停船ヲ命スヘシ

第十四條　停船ヲ命セラレタル船舶ハ臨檢檢疫官ノ指定シタル場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニアラサレハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第四章　消毒物件ノ運搬及消毒ノ方法竝乘組員ノ停留

第十五條　船舶ノ檢査終リタルトキハ運搬職員ノ當該船舶ニ到リ搭載ノ人馬物件ヲ規定ノ場所ニ運搬スヘシ此場合ニ於テハ先ツ傳染病患者死者及之ニ觸スル物件ヲ運搬スヘシ

第十六條　來消毒人馬物件ノ運搬ニ使用スル艀舟ト雖消毒ヲ了ヘサルモノヲ區別シ前者ニハ黄色旗ヲ夜間ハ紅色ノ山形ヲ掲ケ且使用後直ニ消毒ヲ施行スヘシ

第十七條　傳染病患者死者ハ避病院ニ送リ其ノ所屬品ニシテ消毒スヘキモノハ之ヲ未消毒倉庫ニ移シ焼却ニ付スヘキモノハ直ニ避病院ニ送付スヘシ

第十八條　船舶内ニ於テ患者死者ト同室シタル健康者ノ所屬品ニシテ消毒スヘキモノハ未消毒倉庫ニ焼却スヘキモノハ避病院ニ送付スヘシ

第十九條　傳染病患者ノ排泄物及該病毒ニ汚染シタル物件殊ニ焼却ニ付スヘキモノハ充分ニ消毒藥ヲ注キ鐵製運搬桶中ニ納メ其容積大ニシテ桶中ニ納ムルコト能ハサルモノハ消毒藥ヲ注キタル後結束シ適宜ノ方法ニ依リ厳ニ病毒ノ散逸ヲ防キ搬送スヘシ

第二十條　還送物件ハ一旦來消毒倉庫ニ收容シ然ル後消毒ニ付スヘシ共ノ消毒ノ爲メ物件ヲ開包スルトキハ關係貨物廠(同支廠)員又ハ兵站基地司令部檢疫所所在地衛管區内ノモノ以下同シ員又ハ兵站基地司令部檢疫所所在地衛管區内ノモノ以下同シ立會ヲ要スルモノトス

第二十一條　船舶内ノ消毒及驅鼠ハ船舶消毒掛ニ於テ之ヲ施行スヘシ此ノ場合ニ於テハ船員ヲシテ共ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ消毒ヲ行フモ再ヒ使用ノ目的ナシト認メタル物件及鼠族蚤等ハ運搬課ニ引渡シ焼却ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條　消毒ハ蒸汽消毒及藥物消毒トシ藥物消毒ハ蒸汽消毒ニ付スヘカラサルモノニ之ヲ施行ス

藥物消毒ニハ陸軍部内傳染病豫防細則ニ規定セル藥物ノ外「フオルマリン」及「クレシン」ヲ使用スルコトヲ得

第二十三條　蒸汽消毒掛又ハ藥物消毒掛ニ於テ消毒物件ヲ受領スルトキハ沐浴課ヨリ受領シタル物件ト共ニ消毒ヲ施シ入浴者ノ著服ハ直ニ沐浴課著衣室ニ送付スヘシ

第二十四條　蒸汽消毒掛又ハ藥物消毒掛ニ於テ未消毒倉庫ヨリ消毒物件ヲ受領シタルトキハ順次消毒シ運搬ヲ要シテ之ヲ既消毒倉庫ニ運搬セシムヘシ但シ還送物件ニ在リテハ消毒後假捆包ヲ爲スヘシ

第二十五條　傳染病患者死者ノ貴重品ニ在リテハ避病院ニ死者ノ貴重品ニ在リテハ兵站基地司令部ニ送付スヘシ

第二十六條　入港船舶乘組員ノ消毒ハ概ネ左ノ順序ニ依ルモノトス但シ出港船舶乘組員ノ消毒モ亦本條ニ準ス

一　上陸者約百二十人ヲ二組トシ士官又ハ下士ノ引率ニ依リ未消毒檢病ヨリ上陸セシメ甲乙點檢所ニ於テ各人ニ金屬製指環及番號札竝網袋ヲ交付ス但シ軍隊以外ノ上陸者ニ在リテハ指導ハ檢疫所所屬員ヲシテ之ヲ爲サシムルモノトス

二　點檢所ニ於テ各自ヲシテ武裝ヲ解カシメ貴重品ハ網袋ニ入レ携帶品ト共ニ各番號札ヲ附シ前項ノ指環及番號札竝網袋ハ消毒ノ全經過ヲ終リ消毒所ヲ退出スル際之ヲ返付セシム

之ヲ物品預所ニ預ケシム

預リタル物件ハ蒸汽又ハ藥物消毒ニ付スルモノニ區別シ直ニ當該消毒掛ニ送付スヘシ但シ貴重品ハ物品預所ニ備フル貴重品預匣ニ納ム

三　前二號ノ手續ヲ了リタルトキハ待合室ニ到リ浴室ノ準備成ルノ號鈴ニヨリ甲乙二組（一組ハ約六十人）ヲ各共ノ浴室ニ入ラシム

入浴者ハ各自著服ヲ麻布袋ニ入レ之ニ番號札ヲ附シ所定ノ收衣棚ニ納メ浴場ニ入ラシム其ノ入浴時間ハ約十五分時ヲ號鈴ヲ以テ之ヲ報ス浴室掛ハ入浴者ノ著服ヲ取纏メ蒸汽消毒掛ニ送付ス

四、入浴了ルトキハ消毒衣配布掛ハ各人ニ消毒衣ヲ貸與シ休憩室ニ入リ著衣室掛ノ號鈴ヲ待タシム

五　著服ノ消毒ヲ了リテ蒸汽消毒掛ヨリ之ヲ著衣室ニ送リ來ルトキハ當該掛ハ號鈴ヲ以テ休憩室ニ報シ各人ニ配付ス

六　各人著衣了ルトキハ物品渡所ニ至リ預品ヲ受領シ番號札ノ麻紐ヲ指環ニ貫キ網袋ト共ニ掛官ニ返付セシメタル後退出セシム

七　使用シタル消毒衣ハ一回毎ニ消毒シ又時々總務課ニ於テ洗濯ヲ爲サシムルモノトス

八　傳染病ニアラサル患者ニシテ入浴消毒ニ堪ヘサル者ハ船内ニ於テ消毒衣ニ著換シメ適當ノ消毒ヲ施シ其ノ著服ト携帶品トハ一般ノ消毒手續ニ從ヒ取扱フモノトス

第二十七條　傳染病毒ニ汚染又ハ其ノ疑アル馬匹ノ消毒ハ消毒藥ヲ以テ拭フ等適當ト認ムル方法ニ依ルモノトス

第二十八條　停船ヲ命シタル船舶ノ乘組員ハ入浴消毒後停留衣ヲ貸與シ停留舍ニ收容スヘシ停留舍ニ收容セラレタル者ハ停留舍長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ本船其ノ他ト交通シ又ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第二十九條　停留中傳染病又ハ其ノ疑似症ニ罹リタル者アルトキハ速ニ避病院ニ送リ同患者ノ起居シタル室内及其ノ觸接セル物件ニハ制規ノ消毒ヲ施シ同室者ハ檢疫所ニ送リ再ヒ消毒ノ後他室ニ移轉セシムヘシ

第三十條　入舍後五日（ペスト患者ノアリタル船舶ノ乘組員ハ十日）間ヲ經過シ異狀ナキトキハ掛官ニ於テ其ノ著服及携帶品ヲ消毒シ停留者ノ指環番號ニ照合シテ之ヲ交付シ退舍ヲ命ス但シ退舍人員ハ運搬職員ヲシテ軍隊ニ在リテハ上陸地ヘ輸送シ其他ノ人員及物件ハ兵站基地司令部ヘ引渡スモノトス

指環番號札及消毒衣ハ取纏メ掛官ヨリ總務課ニ送付スヘシ

第三十一條　停留中傳染病發生シタルモノアルトキハ同船者ノ一部又ハ全部ニ對シ更ニ其ノ當日ヨリ五日（ペストニ在リテハ十日）間停留ヲ繼續シ新患ナキニ至リ退舍ヲ許スヘシ若患者續々發生シ傳播ノ兆アルトキハ停留者ノ一部ヲ他ノ區域ニ移ス等適宜ノ處分ヲ爲スヘシ

第五章　患者ノ隔離及死體其ノ他物件ノ燒却

第三十二條　傳染病患者到着シタルトキハ病名乘組船名所屬部隊號等級（原籍身分）氏名等ヲ入院患者名簿（附錄第五號）ニ記入シタル後運搬職員ヲシテ病室ニ搬送セシムヘシ

第三十三條　傳染病患者ノ被服ハ各人毎ニ麻布袋ニ入レ之ニ病室號患者氏名及年月日ヲ明記シタル票札（木製）ヲ附著シ發著掛ニ於テ取纏メ運搬職ニ引渡シ來消毒倉庫ニ送付セシム

第三十四條　發著掛ハ患者ニ屬スル金錢貴重品ヲ品目表ニ照シ檢疫所長ヨリ受領シテ院長ニ差出シ院長ハ受領證（附錄第四號甲又ハ乙號）ヲ交付シ現品ハ院長立會ノ上主計ヲシテ品目表ト共ニ金櫃ニ納メシメ本人退院又ハ轉送ノ際之ヲ交付スル但シ入院中死者ノ遺物ニ係ルモノニアリテハ品目表ヲ添ヘ遺骨ト共ニ兵站基地司令部ニ送リ受領證書ヲ徵スヘシ

第三十五條　傳染病患者ニ屬スル物品ハ本人退院又ハ轉送ニ際シ發著掛ニ於テ既消毒倉庫ヨリ受領シ之ヲ交付スル但シ入院中死亡シタル者ノ遺物ハ前條但書ニ據ル

第三十六條　各病室ニ於テ患者快復期ニ至ルモノアルトキハ豫メ主任軍醫ハ發著掛ニ通知シ發著掛ハ總務課ヲ經テ其ノ員數ヲ兵站基地司令部ニ報シ且其旨ヲ入院患者名簿ニ記入シ看護長又ハ其ノ代用雇員及看護卒又ハ看病人ヲ附シテ之ヲ快復室ニ轉送スヘシ

第三十七條　快復室ニ收容セル患者ニシテ傳染ノ虞ナキト認ルトキハ主任軍醫ハ發著掛ニ通知シ發著掛ハ總務課ヲ經テ其ノ員數ヲ兵站基地司令部ニ報シ且其旨ヲ入院患者名簿ニ記入シ看護長又ハ其ノ代用雇員及看護卒又ハ看病人ヲ附シテ之ヲ兵站基地司令部ニ送ルヘシ但シ檢疫所所屬ノ者及船員ノ入院患者ハ全治ノ後退院券（附錄第六號）ヲ交付シ來ルトキハ發著掛ハ死者ニ在リテハ其ノ乘込船名所屬部隊號等級（原籍身分）致死ノ病名及氏名ヲ死者名簿（附錄第七號）ニ物件ニ在リテハ其ノ品目及見積代價ヲ燒却原簿（附錄第八號）ニ記入シ病院長ノ認可ヲ受ケ運搬職員ヲシテ燒却掛ニ送付セシム

第三十八條　傳染病患者又ハ燒却スヘキ物件ヲ送付シ來ルトキハ發著掛ハ死者ニ在リテハ共ノ乘込船名所屬部隊號等級（原籍身分）致死ノ病名及氏名ヲ死者名簿（附錄第七號）ニ物件ニ在リテハ其ノ品目及見積代價ヲ燒却原簿（附錄第八號）ニ記入シ病院長ノ認可ヲ受ケ運搬職員ヲシテ燒却掛ニ送付セシム

第三十九條　傳染病死者又ハ燒却スヘキ物件ヲ送付シ來ルトキハ發著掛前條ニ準シ死者名簿ニ記入シ死體ニハ火葬券（附錄第九號）ヲ添ヘ燒却掛ニ送付スヘシ

第四十條　各病室ノ患者死亡シタルトキハ發著掛前條ニ準シ死者名簿ニ記入シ病院長ノ認可ヲ受ケ運搬職員ヲシテ燒却掛ニ送付セシム

病室ニ於ケル物品ノ燒却ニ關スル手續ハ死者ノ例ニ依ル

第四十一條　燒却掛ニ於テ死體ヲ火葬シタルトキハ遺骨ヲ小瓶ニ拾取シ更ニ小箱ニ納メテ發著掛ニ送付スヘシ

第四十二條　死體昭檢スルトキハ先ツ之ヲ屍室ニ安置シ且消毒藥ヲ以テ濡シタル布片ニテ之ヲ覆ヒ蒼蠅ノ群聚ヲ防キ又當番卒ヲシテ之ヲ監守セシムヘシ

第四十三條　發著掛ニ於テ遺骨ヲ受領シタルトキハ之レニ避病院長ノ作成セル死亡證書正本二通(軍人軍屬以外ニ在リテハ一通)ヲ添ヘ總務課ニ差出シ總務課ハ之ヲ兵站基地司令部ニ送付スヘシ但シ死亡證書副本一通ヲ病院ニ保管スルモノトス

附錄第一號　(「」內ハ朱書以下同シ)

明告書「明治三十七」年「何」月「何」日　「何々」丸船長　氏　名印

船種		總噸數			
發航地名年月日		寄港地名發著年月日時			
乘込部隊名					
乘込人員	將校	下士	兵卒	其他	計
便乘者	將校	下士	兵卒	其他	計
船員	事務員以上	水火夫以下	計		
發航以來傳染病者(疑似患者トモ)及死者ノ有無發病ノ日時並人員					
發航以來傳染病以外ノ患者有無若有ラハ其ノ病名轉歸等					
發航以來傳染病者又ハ死者アリタル船舶若ハ其ノ疑アル船舶トノ交通有無					
寄港ノ際上陸セシ人員交通セシ船舶名及其ノ概要					
著港時現在ノ傳染病者同疑似患者又ハ死者ノ有無若有ラハ其ノ員數等					
他港ニ於テ檢疫消毒停船ヲ受ケタルコトノ有無其ノ月日及場所					
飲料水ヲ汲入タル地名其ノ月日					
食料薪炭ヲ積入タル地名					
積荷ノ種類及搭載ノ地名					
搭載獸類ノ種類及其ノ搭載地名					
最近ニ「ビルジ」腔ヲ洗滌シタル月日					
出向地					

右相違ナキコトヲ證明ス

明治三十「何」年「何」月「何」日

輸送指揮官　官　氏　名印

監督將校　官　氏　名印

高級軍醫　官　氏　名印

附錄第二號(甲)

許可證

「何々」丸ハ明治三十七年陸軍省令第「何」號臨時陸軍檢疫部檢疫規則ニ依リ檢疫ノ上「何」年「何」月「何」日消毒ヲ了ス依テ此ノ證ヲ交付シ「某」港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ乘組員ノ上陸及搭載物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ許可ス

「何々」丸船長　何　某

明治「何」年「何」月「何」日

「某」臨時陸軍檢疫所長官氏名印

「某」臨時陸軍檢疫所臨檢檢疫官氏名印

附錄第二號(乙)

許可證

「何々」丸ハ「某港」ニ入港シタル後何時患者死者アリタルヲ以テ明治三十七年陸軍省令第「何」號臨時陸軍檢疫部檢疫規則ニ依リ「何」年「何」月「何」日限リ消毒ヲ了ス但シ此ノ證ヲ交付シ陸地又ハ他船ト交通シ乘組員ノ上陸及荷物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ許ス

明治「何」年「何」月「何」日

「某」臨時陸軍檢疫所臨檢檢疫官　官氏名印

「某」臨時陸軍檢疫所　長官氏名印

「何々」丸船長　何　某

附錄第三號

附錄第四號

甲

第「何」號	携帶品金額貳圓	所有者
品目(金種)	員數(金高)	品目(金種)	員數(金高)

乙

第「何」號	携帶品金額貳圓	所有者
品目(金種)	員數(金高)	品目(金種)	員數(金高)

「甲」

第「何」號	携帶品金額貳圓	所有者
品目(金種)	員數(金高)	品目(金種)	員數(金高)
合計			

右檢疫候也

明治三十「何」年「何」月「何」日

「何」臨時陸軍檢疫所

官氏名印

附錄第五號

入院患者名簿

入院番號	病名	職組名	入院月日	退院月日	轉所	所屬隊號（原籍）	等級（身分）	氏名
第「何」號								
	「何々丸」	「何」	「何月何日」	「何月何日」				
	「何々丸」	「何」	「何月何日」	「何月何日」				
	「何々丸」	「何」	「何月何日」	「何月何日」				
	「何々丸」	「何」	「何月何日」	「何月何日」				

號

合計

右受領候也

明治三十「何」年「何」月「何」日　何官衙

官氏名印

一、甲號ニハ發送者品目員數及合計ヲ記入シ乙號ニハ受領者之ヲ記入スルモノトス

二、捺印ハ發送者ニ於テ爲スモノトス

附錄第六號

第　號

退院券

所屬　等級

氏名

右退院セシム

明治三十「何」年「何」月「何」日

「何」臨時陸軍檢疫所避病院

附錄第七號

死者名簿

病名／區分	驗込病名	入院月日	死亡月日	遺骨發送月日	所屬隊號（原籍）	等級（身分）	氏名
	「何々丸」	「何月何日」	「何月何日」				
	「何々丸」	「何月何日」	「何月何日」				
	「何々丸」	「何月何日」	「何月何日」				
	「何々丸」	「何月何日」	「何月何日」				

附錄第八號

物品燒却原簿

區分 / 物品	燒却月日	所屬	員數	見積代價	摘要
	「何」月「何」日				
	「何」月「何」日				
	「何」月「何」日				

附錄第九號

甲

火葬券

第「何」號病室

右「何」病ニ依リ明治三十「何」年「何」月「何」日死亡ス依テ其ノ死體ヲ火葬セシム

明治三十「何」年「何」月「何」日

「何」臨時陸軍檢疫所避病院長　官氏名印

乙

火葬券

第「何」號病室

右「何」病ニ依リ明治三十「何」年「何」月「何」日死亡ス依テ其ノ死體ヲ火葬セシム

明治三十「何」年「何」月「何」日

「何」臨時陸軍檢疫所避病院長　官氏名印

甲號ハ發送掛ノ控ニ兎ッ

備考　朱書ハ凡例トス

「印」

「何」號

「官氏名」

○陸軍省令第二十四號

明治三十七年採用ノ士官候補生臨時召集ニ係ル者ニ關スル件ヲ定ム

明治三十七年九月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第二十五號

第一國民兵役ニ在ル陸軍出身者ニシテ明治三十七年十月一日以後服役期限滿ツル者ハ當分其ノ服役ヲ延期ス

明治三十七年九月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

○司法省令第十八號

明治三十二年司法省令第十一號不動產登記法施行細則第六十八條第二項但書ヲ左ノ如ク改ム

但地租納期開始前十五日內ハ其都度通知ヲ爲スヘシ

明治三十七年九月十七日

司法大臣波多野敬直

〔參照〕

司法省令第十一號不動產登記法施行細則（明治三十二年五月十二日抄錄）

第六十八條　不動產登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在ノ郡市區町村字、土地ノ番號、地目、段別若クハ坪數、申請ノ受附ノ年月日、登記ノ目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スヘシ但地租毎納期經過ノ時十日內ハ其都度通知ヲ爲スヘシ

○司法省令第十九號

明治三十二年司法省令第九號整理地登記取扱手續（明治三十二年三月七日）抄錄

第四條　整理確定圖及ヒ整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出シタル圖面ニハ申請番號受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ圖面ニハ番號ヲ附シ便宜整理シ永久ニ之ヲ保存スヘシ

明治三十七年九月十七日

司法大臣波多野敬直

〔參照〕

司法省令第九號整理地登記取扱手續（明治三十三年三月七日）抄錄

第四條　整理確定圖及ヒ整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出シタル圖面ニハ申請番號受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ圖面ニハ番號ヲ附シ便宜整理シ申請番號受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

○司法省令第二十號

松江地方裁判所管內益田區裁判所落合出張所ヲ石見國美濃郡匹見上村大字匹見ニ移シ匹見出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十七年十月一日ヨリ施行ス

明治三十七年九月二十日

司法大臣波多野敬直

○文部省令第十八號

明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程中左ノ通改正ス

明治三十七年九月十日

文部大臣久保田讓

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

學生生徒ノ身體檢查ハ每年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第四條第二項ヲ削ル

第五條第一項第四號ヲ左ノ如ク改ム

體並ハ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ

第七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ年六月限リ文部大臣ニ報告スヘシ

【參照】

文部省令第四號學生生徒身體檢査規程（明治三十三年三月二十六日）抄錄

第二條　學生生徒ノ身體檢査ハ毎年四月及十月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ第二回ハ十月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ滿二十年以上ノ學生生徒ニ就キテハ四月ノ一回ニ止ムルコトヲ得

第四條第二項

毎年十月ニ於テ施行スル檢査ニ在リテハ身長體重及疾病ノ三項目ニ止ムルコトヲ得

第五條　身體檢査ハ左ノ各號ニ掲ケタル事項ニ就キ之ヲ施行スヘシ

四　體重ハ著衣ノ儘測定セサルヲ可トス若シ著衣ノ儘又ハ檢査服ヲ著用セシメタルトキハ其ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ

第七條第二項

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ年六月限リ十月限リ文部大臣ニ報告スヘシ

○逓信省令第五十六號

明治三十七年九月一日逓信省令第五號中左ノ通改ム

明治三十七年九月一日

第一項但書中「並北郵便電信局大稻埕支局ノ下」及「及筑前國若松郵便局ノ九字ヲ加フ

逓信大臣大浦兼武

逓信省令第五十七號（明治三十七年二月五日ノ部錄）

第一項

一、米國並韓國並山石川及京城ヨリ發スル私用ノ外國電報ハ普通ノ日米歐英佛又ハ佛露ヲ以テ之ヲ配發スルヲ要シ暗號ヲ用フルヲ禁ス但シ北京郵便局横濱郵便局神戸郵便局大阪郵便局門司郵便局三宅電信局下關郵便局並北郵便局大稻埕支局及釜山郵便局（並山ヨリノ電報ニ限リ暗號ヲ用フルコトヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ發信ノ際北京發ハ日本語英語又ハ佛語ノ譯文ヲ添（暗號ト共ニ之ヲ發信局ニ差出スヘシ

○逓信省令第五十七號

明治三十七年戰役紀念郵便繪葉書ヲ發行シ明治三十三年九月逓信省令第七十五號郵便切手類賣下規則ニ準シ之ヲ賣下ケレハ

前項葉書ノ種類發賣期日及賣下價格ハ別ニ之ヲ告示ス

明治三十七年九月三日

逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第五十八號

明治三十三年十二月逓信省令第八十七號船舶檢査法施行細則中左ノ通改正シ明治三十七年十月一日ヨリ施行ス

明治三十七年九月二十日

逓信大臣大浦兼武

第五條　管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ左ニ掲クル船舶ノ第一回特別檢査ヲ一箇年以內猶豫スルコトヲ得

一　進水後二箇年ヲ經過セサル船舶

二　逓信大臣ノ認可シタル船舶檢査員ニ於テ日本ノ法令ニ依リ特別檢査ヲ行ヒ其ノ有效期間內ニ在ル船舶

前項ノ規定ニ依リテ特別檢査ヲ猶豫スヘキ期間ハ管海官廳ニ於テ第十四條第二項ノ申請ヲ許可

シタル日ヨリ之ヲ起算ス但シ其ノ期間ハ第一號ノ場合ニ於テハ進水後二箇年、第二號ノ場合ニ於テハ船舶檢査員ノ定メタル特別檢査ノ有效期間ヲ超ユルコトヲ得ス

船舶檢査法第十七條第一號ニ揭ケタル外國船舶ニシテ其ノ所屬國政府又ハ相當ノ技能ヲ有スル者ノ特別檢査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ有效期間滿了マテ特別檢査ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條ノ二　船舶檢査法ノ規定ニ依リ特別檢査ヲ受ケタル船舶カ檢査ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲リタル後再ヒ檢査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ前ニ受ケタル特別檢査ノ有效期間滿了マテ特別檢査ヲ猶豫スルコトヲ得

特別檢査ヲ受ケタル船舶カ國籍ヲ變更シタルモ引續キ船舶檢査法ノ適用ヲ受クヘキトキ亦前項ニ同シ

第十四條第二項ヲ左ノ通改ム

第五條又ハ第五條ノ二ノ規定ニ依リ特別檢査ノ猶豫ヲ申請セントスルトキハ左ニ揭クル書類ヲ前項ノ申請書ニ添附スヘシ

一　第五條第一項第一號ノ場合　進水ノ年月日ヲ證スル書面

二　第五條第一項第二號ノ場合　船舶檢査員ノ調製シタル特別檢査件名書

三　第五條第三項ノ場合　當該船舶ノ所屬國政府又ハ相當ノ技能ヲ有スル者ノ調製シタル特別檢査證明書

四　第五條ノ二ノ場合　船舶檢査手帖若シ之ヲ添附スルコト能ハサルトキハ前ニ特別檢査ヲ受ケタル年月、場所、當時ノ船名及ヒ番號ヲ記載シタル書面

第十五條第二項第一號中「種類」ノ下ニ「及ヒ豫定ノ資格」ヲ加フ

第十九條第二項ヲ削ル

第二十三條　船長又ハ機關長差支アリテ檢査ニ立會フコトヲ得サルトキハ運轉士、機關長又ハ機關士ノ乘組マサル船舶ノ檢査ヲ指定シテ檢査ニ立會ハシムヘシ

前三條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リテ立會ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

檢査ニ立會フ者ナキトキ又ハ檢査ニ立會ヒタル者前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ檢査官吏ハ其ノ檢査ヲ停止スルコトヲ得

第三十二條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「第二號」ヲ「第二號、第三號又ハ第七號」ニ改ム

七　管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又ハ繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲メ之ヲ回航セシムルトキ

第三十四條第四號中「工場所在地マテ」ノ下ニ「且ツ工場所在地ヨリ檢査執行地マテ」ヲ加ヘ「第五號中「回航セシムルトキ」ヲ「回航セシメ且ツ曳託ノ場合ニ於テハ曳託ヲ爲シタル管海官廳ノ管轄區域內マテ更ニ回航セシムルトキ」ニ改ム

第三十五條第一項ヲ左ノ通改ム

第三十二條第一項第七號及ヒ前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ前條第五號ノ場合ヲ除ク外檢査申請人ヨリ事由ヲ具シタル申請書ヲ差出スヘシ

第四十條第一項中「第三號及ヒ」ヲ「第三號ノ場合ニ於テハ遲滯ナク」ニ改ム

第五十一條中第九號ヲ左ノ通改ム

第九區　薩摩國野間岬ヨリ甑列島及ヒ肥前國野母埼ヲ經テ三重埼ニ至ル線内

第五十一條中第十五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

第十五區ノ二　越前國登臨埼ヨリ能登國輪島埼ニ至ル沿岸

第五十一條中第二十二號ヲ左ノ通改ム

第二十二區　後志國神威岬ヨリ樽井岬ヲ經テ天鹽國留萌ニ至ル線内

第六十四條中「船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ニシテ」ヲ削リ「スルトキハ」ノ下ニ「檢査申請人ハ」ヲ加フ

第七十六條第二項中「受ケタルトキハ亦前項ニ同シ」ヲ「受ケタルトキハ汽船ニ在リテハ五圓帆船ニ在リテハ三圓ノ手數料ヲ納付スヘシ」ニ改ム

第七十九條　前三條ノ規定ハ官廳ノ請求ニ依リテ檢査ヲ行ヒ又ハ書類ヲ交付スル場合ニ之ヲ適用セス

附錄旅客定員算出表備考第二號中「三平方呎」ヲ「二・五平方呎」ニ「四・五平方呎」ヲ「四平方呎」ニ改ム

第四號甲式中括弧ノ內旅客」ノ上ニ「航路定限竝ニ」ヲ加フ

○遞信省令第五十九號

明治三十三年十二月遞信省令第八十八號船舶檢査規程中左ノ通改正シ明治三十七年十月一日ヨリ施行ス

遞信大臣大浦兼武

明治三十七年九月二十日

第十二條第二項中「第六十四條」ノ下ニ「及ヒ第六十六條ノ二ヲ加フ

第十三條第一項但書ヲ左ノ通改ム

但第三級船ノ帆船ハ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキニ限リ据船ノ上之ヲ執行シ又湖川ノミヲ航行スル船舶ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキニ限リ檢査ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十五條第二項ヲ左ノ通改ム

湖川ノミヲ航行スル船舶ニ於テハ船底ノ檢査ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

平水航路ノミヲ航行スル船舶ニ於テハ螺旋軸ノ檢査ハ碇泊ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第十八條中「認ムルトキハ」ノ下ニ「特別檢査」ヲ加フ

第二十一條中「遞信大臣」ヲ「檢査官吏」ニ改ム

第五十七條第三號中「要セス」ノ下ニ「又船舶檢査法施行細則第六十四條及ヒ第六十六條ノ二ニ該當スル船舶ニ於テハ其ノ満載ハ第四號表ノ艤裝及ヒ容積ニ達セサルモ規定ノ容積ト實際備フル搖艇ノ容積トノ割合ニ依リ該船ニ搭載スヘキ總員ヲ定メ船員ノ員數ヲ控除シテ旅客定員ヲ定ムルコトヲ得」ヲ加フ

第八十一條第二項中「湖川港內ヲ限リ航行スル船舶」ノ下ニ「及ヒ發航港ヨリ到達港迄直航スル船舶」ヲ加フ

第八十五條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

船舶檢査法施行細則第六十四條及ヒ第六十六條ノ二ニ該當スル船舶ニ於テハ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ梯子ノ幅ハ前項ノ規定ニ合格セサルモ妨ナシ

第百八條中「繩梯」ノ下ニ「又ハ突梯」ヲ加フ

第百二十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但檢査官吏ニ於テ適當ト認ムル圖壁ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百三十二條　汽鑵ニハ徑二時以上ノ安全瓣二箇以上ヲ備フヘシ

前項ノ安全瓣ハ火床ノ面積十四平方呎ヲ超エサル汽鑵ニ在リテハ一箇ト爲スコトヲ得但火床ノ面積六平方呎ヲ超エサル汽鑵ニ在リテハ其ノ徑ヲ二時以下ト爲スモ妨ナシ

第百四十一條ノ次ニ左ノ一章一條ヲ加フ

第五章　機關ヲ有スル帆船ノ機關

第百四十一條ノ二　機關ヲ有スル帆船ノ機關ノ檢査ハ第一編、第三編第一章乃至第三章、第四章中第百十三條但書、第百十七條乃至第百四十條ノ規定及ヒ第八號表中本水航路ニ關スル規定ニ依ル

○遞信省令第六十號

明治三十三年十二月遞信省令第九十一號機關檢査規程中左ノ通改正シ明治三十七年十月一日ヨリ施行ス

遞信大臣大浦兼武

明治三十七年九月二十日

第四章第四條第一項ヲ左ノ通改ム

人孔及ヒ泥孔ニシテ平板ニ在ルモノニハ該孔ト同一ナル切斷面積ヲ有シ、胴板ニ在ルモノニハ該孔短徑線方向ト同一ナル切斷面積ヲ有シ且鑵板ノ厚ヨリ小ナラサル厚ヲ有スル補强環ヲ取附クヘシ但長徑六吋以下ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第五章第一條但書中及ヒ鋼製ヲ削ル

○遞信省令第六十一號

明治三十七年四月遞信省令第三十四號中「在韓國通信官署官吏」トアルヲ「在外通信官署官吏」ト改正シ別表中左ノ通追加ス

明治三十七年九月二十四日

遞信大臣大浦兼武

所在	局長	發任官	判任官	通信屬	通信技手	通信手
			三〇〇		一六八	一〇八

（參照）

明治三十七年四月十九日遞信省令第三十四號ハ在韓國通信官署官吏在勤地ニ於テ戰時若ハ事變ニ際合スルトキハ其職務中在勤手當增加ノ件ナリ

○遞信省令第六十二號

在清國牛莊郵便局ニ於テ振出ス通常爲替ハ當分ノ內其證書一枚ノ金額ニ制限ヲ附セス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十七年九月二十八日

遞信大臣大浦兼武

○大藏省令第三十九號

若松稅關支署廳舍、附屬舍、官舍竝小蒸氣船ノ新營請負ノ競爭ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ノ第一項ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十七年十月三日

大藏大臣男爵曾禰荒助

一　個人ニ在リテハ二年以來引續キ直接國稅貳拾圓以上ヲ納ムルコト

二　合名會社及合資會社ニアリテハ資金貳萬圓以上ナルコト

三　株式會社ニアリテハ株金ノ拂込金額貳萬圓以上ナルコト

四　百噸以上ノ船舶ヲ製造スル適當ナル工場ヲ有スルコト

五　造船學ヲ修得シタル技術者ヲ聘用スルコト

但第四第五ノ條件ハ船舶ニ關セテノミ之ヲ適用ス

○大藏省令第四十號

明治三十七年四月法律第十四號煙草專賣法第八十九條ニ依リ發行スル國庫債券ニ付テハ明治十九年十月大藏省令第三十號整理公債取扱順序ノ規定ヲ準用ス

明治三十七年十月三日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第四十一號

第三回國庫債券發行規程左ノ通相定ム

明治三十七年十月十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第三回國庫債券發行規程

第一條　政府ハ明治三十七年法律第一號ニ依リ國庫債券八千萬圓ヲ發行ス

第二條　國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第三條　國庫債券ハ無記名利札附トシ其種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條　國庫債券ノ元金ハ明治三十八年ヨリ七箇年以內ニ償還スルモノトス

第五條　國庫債券ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ仕拂フモノトス

第六條　國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ九拾貳圓トス

第七條　國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年十月三十一日ヨリ十一月七日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ十月三十一日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條　應募申込人ハ應募高、應募價格及住所姓名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金貳圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ付セス

前項ノ應募價格ニハ拾錢未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條　國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス

第十條　申込ハ明治三十七年十一月十八日マテニ確定スルモノトス

第十一條　前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期　明治三十七年十一月十八日　貳圓（額面百圓ニ付）

第二期　同年十二月十六日ヨリ同月二十六日マテ　拾圓同

第三期　四十三年一月十六日ヨリ同月二十五日マテ　五圓同

第四期　同年二月十六日ヨリ同月二十五日マテ　拾圓同

第五期　同年三月十六日ヨリ同月二十五日マテ　拾五圓同

第六期　同年四月十七日ヨリ同月二十六日マテ　貳拾圓同

第七期　同年五月十六日ヨリ同月二十五日マテ　貳拾圓同

第八期　同年六月十六日ヨリ同月二十六日マテ　拾圓同

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其差額ヲ拂込ムヘシ

第十二條　應募者ノ都合ニ依リ後ノ一期若クハ數期分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條　明治三十八年九月渡以前ノ利子ハ第二條ノ利率ニ拘ラス左ノ區別ニ依リ仕拂フモノトス

一　第四期以前ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年三月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓六拾參錢同年九月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

二　第五期以後ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年九月ニ於テ額面百圓ニ付金貳圓貳拾七錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

第十四條　國庫債券ノ拂込ヲ延滯シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過ギ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條　國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十六條　前條ノ假債券ハ賣買讓與及ヒ質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其拂込ヲ假債券ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十七條　第十四條第二項ノ場合ニ於テ無效ト爲リタル假債券ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第十八條　假債券ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假債券ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ共旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此場合ニ於テ既ニ代假債券ノ交付ヲ了リタルトキハ原假債券ヲ返還セシムル迄ハ共交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第十九條　國庫債券ノ紛失又ハ滅失ニ因リ代債券ノ交付アリタル後原債券ヲ發見シタル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ國庫債券ノ利札ニ付テモ之ニ準ス

第二十條　國庫債券ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノノ外明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ準據ス

○陸軍省令第二十六號

明治三十七年勅令第二百二十三號ニ依ル後備服役志願規程左ノ通定ム

陸軍大臣寺內正毅

明治三十七年十月十二日

第一條　陸軍退役將校同相當官ニシテ後備服役ヲ志願スル者ハ本籍地所管ノ聯隊區司令官（對馬ニ在リテハ警備隊司令官、沖繩ニ在リテハ警備隊區司令官、以下同シ）及師團長ヲ經テ陸軍大臣ニ出願スヘシ但シ將官同相當官ニ在リテハ聯隊區司令官ヲ經由スルヲ要セス

陸軍退役准士官ニシテ後備服役ヲ志願スル者ハ本籍地所管ノ聯隊區司令官ヲ經テ同所管ノ師團長ニ出願スヘシ

第二條　聯隊區司令官願書ヲ受理シタルトキハ志願者ノ履歷性行身體及精神ノ健否ニ關スル調書ヲ作リ願書ト共ニ師團長ニ進達スヘシ

師團長將官同相當官ノ願書ヲ受理シタルトキモ亦前項ニ準シ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條　願書ヲ進達スル場合ニ於テ准士官ニシテ後備服役ヲ志願スル者ハ本籍地所管ノ聯隊區司令官、將校同相當官ニシテハ聯隊區司令官、將校同相當官ニツキテハ師團長ニ於テ本人適當ノ勤務ニ關スル意見ヲ之ニ添付スヘシ

第四條　師團長ニ於テ准士官ノ後備服役ヲ許可シタルトキハ其ノ官氏名ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

○陸軍省令第二十七號

營內居住下士以下歸鄉用被服貸與及返納手續左ノ通リ定ム

陸軍大臣寺內正毅

明治三十七年十月十二日

營內居住下士以下歸鄉用被服貸與及返納手續

第一條　營內居住下士以下歸休ヲ命セラレ又ハ歸鄉療養、召集解除、免官、免役、退

徴兵令第二十七條ニ依リ歸郷ノ際貸與被服ノ返納手續

第一條　徴兵令第二十七條ニ依リ歸郷ノ際貸與被服ヲ所持セサルトキハ所屬部隊ニ於テ帽（第二種帽）衣袴軍靴襦袢袴下靴下中所要ノ被服ヲ貸與スト雖モ免官免役及退學ノ者ニ貸與スル被服ハ徽章及記號ヲ除去スヘシ

前項ノ被服ハ歸郷後其ノ地市町村長ヲ經テ返納スヘキモノトス

第二條　各部隊ニ於テ前條ニ依リ被服ヲ貸與スルトキハ現品ニ附表樣式ノ貸與證（乙）及領收證ヲ添ヘ之ヲ本人ニ交付シ且其ノ住所氏名ヲ當該市町村長ニ通知スヘシ

第三條　被服ノ貸與ヲ受ケタル者ハ歸郷後五日以內ニ該被服ニ返納部隊名及自己ノ氏名ヲ記シタル標記ヲ附シ貸與證及領收證ト共ニ市町村長ニ差出スヘシ

第四條　市町村長前條ノ被服ヲ受領シタルトキハ品目員數ヲ調査シ領收證ニ年月日ヲ記入捺印シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第五條　市町村長ハ受領シタル被服ヲ各部隊ニ區分シ貸與證ヲ添ヘ適當ノ方法ヲ以テ速ニ當該部隊ニ送付スヘシ但シ共ノ運賃ハ當該部隊ニ請求スルモノトス

第六條　各部隊ニ於テ返納被服ヲ受領シタルトキハ市町村長ニ宛テ適宜受領證ヲ發シ且其ノ運賃ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第七條　貸與被服ハ第三條ノ期間內ニ本人ヨリ自發ヲ以テ直接當該部隊ニ返納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テモ現品ニ貸與證及領收證ヲ添付スヘシ

第八條　各部隊ニ於テ前條ニ依リ貸與被服ヲ受領シタルトキハ領收證ニ年月日ヲ記入捺印シ本人ニ交付スルト共ニ其ノ官ヲ當該市町村長ニ通知スヘシ

第九條　遼灣駐箚部隊ニ屬スル者內地ニ歸郷スル場合ニ貸與シタル被服ハ內地ノ原部隊ニ返納セシムルヲ要ス

第十條　本手續中市町村長トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在リテハ區長、市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキモノニ該當ス

（注意）貸與證甲號ハ各部隊ニ於テ之ヲ備フヘシ

甲號

貸與證	何府縣何郡市區何町村 何之證
第二種帽	一個
〃	一組
〃	何個
貸與年月日	明治　年　月　日
返納スヘキ部隊	
返納年月日	明治　年　月　日

乙號

貸與證	何府縣何郡市區何町村 何之證
第二種帽	一個
〃	一組
〃	何個
〃	何個
貸與年月日	明治　年　月　日
返納スヘキ部隊	
返納年月日	明治　年　月　日

第　號	領收證	何之誰
第二種帽		一箇
何 々		一組
何 々		何箇

右領收ス
明治　年　月　日
何府縣何郡市區何町村長何之誰　印
（何　隊　官　氏　名）　印

○陸軍省令第二十八號
陸軍旅費規則中左ノ通改正ス
明治三十七年十月二十九日
陸軍大臣寺內正毅
第二十七條第一項中「召集」ノ下ニ「又ハ戰時事變ノ際就職」ヲ加フ
同條第五項ヲ左ノ如ク改ム
第一項ノ休職停職者ニシテ平時ニ復スルモ尚引續キ就職スルトキハ召集又ハ就職ノ際居住セシ地ヨリ新ニ就職セル地迄第十九條ノ規定ニ依リ第二表ノ移轉料ヲ其ノ際ニ給ス豫備役後備役下士以上ノ者復員ノ際常設官衙ニ就職スルトキ亦同シ
第三十六條　奏任官又ハ判任官待遇ノ者ヲ旅行セシムルトキハ奏任官待遇者ニハ士官ノ額判任官待遇者ニハ下士ノ額ヲ給ス但シ旅費額中官等ニ依リ給額ヲ區分シアルモノハ奏任官待遇者ハ高等官七等ノ額判任官待遇者ハ判任官五級ノ額ニ依ル

前項ノ者ニシテ官等相當ノ待遇區分アルモノハ該區分ニ對スル額ニ依ル

〔參照〕
陸軍省令第十六號陸軍旅費規則（明治三十二年六月七日）抄錄
第二十七條第一項第五項
休職、停職ノ者及豫備役、後備役准士官以上下士兵本籍歸休兵未入營現役兵補充兵國民兵役ニ在ル者並休職及豫備理事召集ノトキハ陸路里程ニ應シ第九表ノ旅費ヲ給ス其ノ歸郷セシムルトキ亦同シ但シ船舶ニアラサレハ旅行シ難キ地方ニ在テハ一海里以上ハ船賃ヲ給ス若シ該船賃ノ定額ニ依リ難キ場合ニ在テハ其ノ地方ニ限リ實費ヲ給スルコトヲ得
戰時若クハ事變ノ際召集セラレタル休職停職者ニシテ平時ニ復スルモ尚引續キ就職スルトキハ召集ノ際居住セシ地ヨリ就職地マテ第十九條ノ規定ニ依リ第二表ノ移轉料ヲ其ノ際ニ給ス豫備役後備役下士以上ノ者復員ノ際常設官衙ニ就職スルトキ亦同シ

○海軍省令第十三號
海軍豫備員志願ノ者ニシテ海軍豫備員條例第九條ノ體格檢査ヲ受ケントスルトキハ東京附近ニ在ル者ハ海軍省醫務局長ニ橫須賀吳佐世保舞鶴附近ニ在ル者ハ各其ノ鎭守府司令長官ニ體格檢査ヲ願ヒ出ツルコトヲ得
海軍省醫務局長又ハ鎭守府司令長官ハ海軍豫備員志願者體格檢査委員ヲシテ前項出願者ノ體格檢査ヲ爲サシメ合格ノ者ニハ其ノ證明書ヲ交付セシムヘシ
體格檢査合格ノ證明書ハ海軍豫備員志願書ニ添附スヘシ
明治三十七年十月十日
海軍大臣男爵山本權兵衞

○司法省令第二十一號
京都地方裁判所管內福知山區裁判所管轄丹波國天田郡金山村ヲ同區裁判所河守出張所ノ管轄ニ改

ノ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

本令ハ明治三十七年十一月一日ヨリ施行ス

明治三十七年十月二十八日

司法大臣波多野敬直

地方裁判所	區裁判所	出張所	管轄	
			郡	市區町村
京都	綾部	丹波	何鹿	天田郡ノ內
				綾部町 中六人部村 下六人部村 西中筋村 奥部村 庵我村
				睿我井村 上豆阪村 下豆阪村 上川口村 下川口村 三田村
		丹後	加佐郡ノ內	
	河守	丹波	何鹿	河守町 河守上村 有路上村 河東村 河西村
			天田郡ノ內	
			金山村	

○文部省令第十九號

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス

明治三十七年十月八日

文部大臣久保田讓

第四條第二項中「簡易ナル加減ヲ」「簡易ナル加減乘除」ニ改ム

同條第三項中「簡易ナル小數」以下ヲ「分數及歩合算ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ比例ヲ授ケ又土地ノ情況ニ依リテハ日用簿記ノ大要ヲ授クヘシ」ニ改ム

第四號表中第四學年算術ノ欄及加減ヲ「及簡易ナル加減乘除」ニ改ム

第五號表中第一學年及第二學年算術ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

第一學年	第二學年	
數	數	分
小數	歩合	算
諸等數		
（珠算加減）	（珠算加減乘除）	

第六號表中第一學年乃至第三學年算術ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

第一學年	第二學年	第三學年	
整	數	分	數
小	數	歩合	算
諸等	數		
（珠算加減）	（珠算加減乘除）	比例	

第七號表中第一學年乃至第四學年算術ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
整	數	分	數	比例
小	數	歩合	算	（日用簿記）
諸等	數	比例	（珠算加減乘除）	
（珠算加減）	（珠算加減乘除）			

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學セル兒童ニ就キテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

【參照】

文部省令第十四號小學校令施行規則（明治三十三年八月二十一日揭載）

第四條第二項第三項

尋常小學校ニ於テハ初ハ十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル數ヘ方書キ方及加減算ヲ授ケ漸ク其ノ範圍ヲ擴メテ百以下ノ數ニ及ホシ更ニ進ミテ通常ノ加減乘除ヲ授ケ漸ク其ノ範圍ヲ擴メテ百以下ノ數ヘ方書キ方及簡易ナル加減ヲ授ケ漸次本邦度量衡、貨幣及時ノ制ノ大要ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ尋常小學校ニ於テ授ケタル事項ヲ擴メ乘除ニ關シ更ニ稍〻複雜ナル比例及日常適切ノ百分算ニ及ホシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル求積若ハ又ハ之ヲ併セ授クヘシ

○遞信省令第六十三號

明治二十三年十一月遞信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則中左ノ通改正シ來十一月一日ヨリ施行ス

遞信大臣大浦兼武

明治三十七年十月十八日

第十八條ヲ左ノ通改ム

第十八條　貯金預ケ人貯金取扱局所ニ對シ正當本人タルコトヲ證明スルトキハ左ノ場合ニ於テ一日一回金三十圓以内、一箇月總額六十圓迄ヲ限リ卽時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得

一　預ケ金ヲ獨リタル局所ニ當該預入金額以内ノ幾部拂戻ヲ請求スル場合

二　再度通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ繰越金額以内ノ幾部拂戻ヲ請求スル場合

三　相續シタル貯金ノ哩記濟通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ當該哩記金額以内ノ幾部拂戻ヲ請求スル場合

第十九條第一項ニ左ノ但書ヲ追加ス

但第三項ニ依リ認可ヲ受ケタル預ケ人ハ前條各號ニ該當セサル場合ト雖モ認可申請以前ノ預入ニ係ル貯金ニ對シテハ其幾部拂戻ニ限リ本文ノ請求ヲ爲スコトヲ得

同條第三項中「此場合ニ於テハ手數料トシテ郵便切手ヲ以テ金五錢ヲ納付スヘシ」ノ二十九字ヲ削除ス

同條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

特別取扱ノ認可ヲ受ケタル貯金預ケ人其認可局所以外ノ局所ニ於テ再度通帳ノ交付ヲ受ケタルトキハ認可ノ效力ヲ失フ

【參照】

遞信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則（明治二十三年十一月二十六日抄錄）

第十八條　貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ一箇月二回一回金三十圓迄ヲ限リ卽時拂ノ取扱ヲ請求スル場合

一　預ケ金ヲ爲シタル局所ニ其預入金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合

二　再度通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ繰越金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合

三　相續シタル貯金ノ哩記濟通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ當該哩記金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合

第十九條　貯金預ケ人特ニ指定シタル貯金取扱局所ニ於テ第十八條ノ特別取扱ノ認可ヲ受クルトキハ前條各號ノ場合ニ限リ金額及回數ニ制限ナク卽時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得

貯金預ケ人最初預入ノ際特別取扱ノ認可ヲ受ケントスルトキハ預入申込書ノ副本ヲ差出スヘシ

既ニ通帳ヲ所持スル者特別取扱ノ認可ヲ受ケントスルトキハ通帳ヲ呈示シ且預入申込書ノ副本ヲ差出スヘシ此場合ニ於

ナハ郵銭料トシテ郵便切手ヲ以テ金五圓ヲ納付スヘシ

貯金取扱局ニ於テ特別取扱ヲ認可スルトキハ其旨ヲ貯金預ケ入ニ通知ス

○逓信省令第六十四號

明治三十五年七月逓信省令第二十九號特設電話加入規則中左ノ通追加ス

逓信大臣大浦兼武

第十條中電話料ヲノ下ニ「通貨ヲ以テ」ノ五字ヲ追加ス

第十二條中電話交換料ヲノ下ニ「通貨ヲ以テ」ノ五字ヲ追加ス

【參照】

逓信省令第二十九號特設電話加入規則（明治三十五年七月十六日）抄錄

第十條　加入者ハ一通話毎ニ明治三十年勅令第三十二號ニ定ムル所ノ電話料ヲ納ムヘシ但同一電話所ニ關スル加入者相互間ノ通話ハ此限ニアラス

第十二條　加入者ハ一加入毎ニ電話交換料ヲ納ムヘシ

○逓信省令第六十五號

明治三十三年八月逓信省令第四十號電話呼出規程中左ノ通改正追加ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十七年十月二十七日

第二條第二項ヲ左ノ通改ム

電話所ニ來ル者ハ前項ノ料金ヲ共電話所ニ前納スヘシ

電話加入者及特設電話加入者ハ一箇月分取纏メ翌月二十日迄ニ電話交換支局ニ納ムヘシ但シ電話加入者ハ通貨ヲ以テ其ノ料金ヲ納付スヘシ

第十三條第一項本文ヲ左ノ通改ム

左記各號ノ料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

切手通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

【參照】

逓信省令第四十號電話呼出規程（明治三十三年八月二十三日）抄錄

第二條第二項

電話所ニ來ル者ハ前項ノ料金ヲ其ノ電話所ニ前納シ電話加入者及特設電話加入者ハ一箇月分取纏メ翌月二十日迄ニ電話交換支局ニ納ムヘシ但シ電話加入者ハ通貨ヲ以テ其ノ料金ヲ納付スヘシ

第十三條　左記各號ノ料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

○逓信省令第六十六號

明治三十年十二月逓信省令第三十二號加入登記料及電話使用料ノ部中「福井」ノ次ニ左ノ通追加ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十七年十月二十九日

地名	加入登記料	電話使用料年額
筑前	金五圓	金四十八圓
松浦		

○逓信省令第六十七號

郵便局國庫債券取扱規則左ノ通相定ム

明治三十七年十月三十日

逓信大臣大浦兼武

郵便局國庫債券取扱規則

第一條　郵便局ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ國庫債券應募ノ申込應募金ノ拂込及假債券又ハ本債券ノ交付ニ關スル取扱ヲ爲ス但シ在外郵便局及交通不便ノ島嶼ニ在ル郵便局ニ在リテハ之カ取扱ヲ爲サス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ郵便局ニ於テ其取扱ヲ爲サス

一　一口額面金壱百圓ヲ超過スル債券ヲ應募ノ申込
二　一口額面金壱百圓ヲ超過スル債券ニ對スル應募金ノ拂込
三　一口額面金壱百圓ヲ超過スル債券ノ交付
四　延滯利子ノ納付ヲ要スル應募金ノ拂込

第三條　國庫債券應募ノ申込ヲ爲サントスル者ハ取扱銀行（日本銀行本店支店代理店及各其出張所又ハ派出所ヲ云フ以下同シ）ニ宛テタル規定ノ申込書ヲ郵便局ニ差出シ且保證金ニ對スル通常爲替振出ノ手續ヲ爲シ爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ但シ爲替料金ハ應募者ニ於テ之ヲ納付ヲ要セス

第四條　取扱銀行ニ於テ假債券ト引換ニ應募者ヨリ第二期拂込金及發行價格以上應募申込差金ノ取立ヲ郵便局ニ委託セントスルトキハ委託書ニ假債券ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其受領證ヲ受取ルヘシ

郵便局ニ於テ前項ノ委託ヲ受ケタルトキハ應募者所在地ノ郵便局ヨリ其旨ヲ應募者ニ通知ス

第五條　應募者ニ於テ前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其通知ヲ爲シタル郵便局ニ就キ第二期拂込期間内ニ第三條ノ例ニ依リ拂込金及差金ニ對スル通常爲替振出ノ手續ヲ爲シタル上假債券及爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第六條　應募者ニ於テ第三期以後ノ拂込ヲ爲サントスルトキハ其期間内ニ假債券ヲ郵便局ニ呈示シ且第三條ノ例ニ依リ拂込金ニ對スル通常爲替振出ノ手續ヲ爲シタル上假債券ニ拂込金受領證印ヲ受ケ且爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第七條　前二條ノ場合ニ於テ當該拂込期以後ニ屬スル拂込金ヲ繰上ケ拂込マントスルトキハ特ニ通常爲替振出請求書ニ其旨ヲ附記スヘシ

第八條　郵便局ニ於テ應募者ヨリ第二期以後ニ屬スル應募金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ其爲替證書ハ之ヲ當該取扱銀行ニ送遞ス

第九條　郵便局ニ於テ保證金及應募金ニ對スル通常爲替金ヲ取扱銀行ニ拂渡ス場合ニ於テハ尋問手續ヲ省略シ且通常爲替振出請求書ヲ取扱銀行ニ交付ス

第十條　取扱銀行ニ於テ本債券ト假債券トノ引換ヲ郵便局ニ委託セントスルトキハ豫メ應募者ニ對シ引換ヲ爲スヘキ郵便局名及引換豫定期日ヲ通知シタル上郵便局ニ對シ第四條ノ規定ニ準シ引換委託ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ委託書ノ餘白ニ引換郵便局名及引換豫定期日ヲ附記スヘシ

第十一條　取扱銀行ヨリ債券引換ノ通知ヲ受ケタル應募者ハ指定郵便局ニ假債券ヲ差出シ本債券ヲ受取ルヘシ

指定郵便局ハ豫定期日ヲ過キ應募者ヨリ債券引換ノ請求ナキトキハ更ニ應募者ニ對シ引換請求方ヲ通告スヘシ其通告ノ日ヨリ尚ホ一週間内ニ引換ノ請求ナキトキハ本債券ハ之ヲ取扱銀行ニ還付ス

第十二條　應募保證金及應募金ノ拂込竝ニ債券ノ引換ニ關シテハ左ノ料金ヲ徴收ス

一　保證金及應募金ノ拂込ニ對シテハ一般ノ規定ニ依ル通常爲替料金但シ一口ノ金額五圓以内ノモノナルトキハ共料金ヲ三錢トス

二　第四條ニ依ル假債券交付委託ニ對シテハ債券一通ニ付金五錢

三　第十條ニ依ル債券引換委託ニ對シテハ債券一通ニ付金十錢
前項第一號ノ料金ハ別ニ定ムル所ニ依リ日本銀行ニ於テ之ヲ納付シ第二號及第三號ノ料金ハ當該取扱銀行ニ於テ委託ノ際相當郵便切手ヲ委託書ニ貼付シ之ヲ納付スヘシ

○内務省令第十五號

有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試驗方法左ノ通定ム

明治三十七年十一月七日

内務大臣子爵芳川顯正

有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試驗方法

檢體五「グラム」ヲ磁製坩堝ニ取リ熱灼シテ炭化セシメ冷後硝子棒ヲ以テ搗碎シテ粉末トナシ稀硝酸約五立方「センチメートル」ヲ注加シテ溫浸シ「エルレンマイエル」硝子壜中ニ濾入シ濾紙上ノ殘留物ハ濾紙ト共ニ再ヒ前ノ磁製坩堝ニ致シ乾燥シ熾灼シテ全ク灰化セシメ此ノ殘灰ニ稀硝酸約二立方「センチメートル」ヲ加ヘ溫浸シ濾過シ洗滌シ前ノ濾液ニ合シ「アムモニア」水ヲ以テ中和シタル後鹽酸々性トナシ之ニ硫化水素ヲ通シテ充分飽和セシメ塲口ヲ寒ク栓塞シ約三時間溫所ニ放置シ全ク沈底セル硫化銅ヲ濾紙上ニ採取シ硫化水素水ヲ以テ善ク洗滌シタル後乾燥シ濾紙ト共ニ前ノ磁製坩堝内ニ於テ灰化シ殘灰ヲ撒溶ノ硝酸ニ溶解シ重湯煎上ニ溫メ「アムモニア」水ヲ注加シテ「アルカリ」性トナシ若シ必要アレハ濾過シ茲ニ得タル澄明ノ濾液ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ蒸發シテ過剩ノ「アムモニア」ヲ驅逐シ中性反應ヲ呈スルニ至リ其ノ中性液ヲ二百立方「センチメートル」ノ標線アル硝子壜ニ移シ硝酸「アムモニウム」溶液（硝酸「アムモニウム」百「グラム」ヲ蒸餾水一「リートル」ニ溶解シ其ノ反應全ク中性ノモノ）二十立方「センチメートル」ヲ注加シ水ヲ以テ全容量二百立方「センチメートル」トナシ善ク混和シテ其ノ二十立方「センチメートル」（原品〇、五「グラム」ニ相當ス）ヲ內徑約一、五「センチメートル」ノ無色試驗管ニ取リ又別ニ前ト同一ノ試驗管數箇ニ標準銅溶液（純結晶硫酸銅〇、三九二七「グラム」ヲ蒸餾水一「リートル」ニ溶解シタルモノニシテ其ノ一立方「センチメートル」中〇、一「ミリグラム」ノ純銅ヲ含有ス）若干立方「センチメートル」ヲ取リ之ニ硝酸「アムモニウム」溶液二立方「センチメートル」ヲ加ヘ水ヲ以テ全容量二十立方「センチメートル」トナシタル後各試驗管ニ新ニ製シタル黃色血滷鹽溶液（用ニ臨テ黃色血滷鹽一「グラム」ヲ蒸餾水一「リ

ートル」ニ溶解シタルモノ）○、五立方「センチメートル」ヲ加ヘ尚ク振和シ十分時内ニ白紙上ニ於テ上面ヨリ透視シ比色定量法ヲ行フヘシ

○大蔵省令第四十二號

京都煙草製造所伏見分工場ヲ明治三十七年十一月十日ヨリ煙草專賣局伏見分工場ト改ム

明治三十七年十一月十日

大蔵大臣男爵曾禰荒助

○大蔵省令第四十三號

煙草製造所分工場名稱位置左ノ通之ヲ定メ明治三十八年二月一日ヨリ施行ス

明治三十七年十一月二十四日

大蔵大臣男爵曾禰荒助

煙草製造所分工場名稱位置

煙草製造所名	分工場名稱	同上位置
東京第三煙草製造所	岩井分工場	茨城縣猿島郡岩井村
	坂野分工場	山梨縣中巨摩郡櫛形村
	神奈川分工場	神奈川縣橫濱市
水戸煙草製造所	太田分工場	茨城縣新田郡太田町
	潮來分工場	茨城縣新河郡潮來町
鳥山煙草製造所	烏山分工場	栃木縣那須郡烏山町
宇都宮煙草製造所	大田原分工場	栃木縣那須郡大田原町
郡山煙草製造所	三春分工場	福島縣田村郡三春町
	若松分工場	福島縣若松市
仙臺煙草製造所	一関分工場	岩手縣西磐井郡一関町
盛岡煙草製造所	大迫分工場	岩手縣稗貫郡大迫町
	三戸分工場	青森縣三戸郡三戸町
秋田煙草製造所	增田分工場	秋田縣平鹿郡增田町
山形煙草製造所	東根分工場	山形縣北村山郡東根町
	米澤分工場	山形縣米澤市
關東煙草製造所	新潟分工場	新潟縣新潟市
	新發田分工場	新潟縣北蒲原郡新發田町
小出張煙草製造所	松永分工場	愛媛縣越智郡松木町
	池田分工場	愛媛縣北宇和郡池田町村
靜岡煙草製造所	富士分工場	靜岡縣富士郡大宮町
見付煙草製造所	掛松分工場	靜岡縣磐名郡淺羽村
	豐橋分工場	愛知縣渥美郡花田村
名古屋煙草製造所	岡崎分工場	愛知縣額田郡岡崎町
	岐阜分工場	岐阜縣岐阜市
四日市煙草製造所	松坂分工場	三重縣飯南郡松坂町
	山田分工場	三重縣度會郡宇治山田町
金澤物産製造所	輪來分工場	石川縣鹿島郡輪來町
	富山分工場	富山縣上新川郡掛川村
彦根煙草製造所	八日市分工場	滋賀縣神崎郡八日市町
大阪第二煙草製造所	和歌山分工場	和歌山縣和歌山市
	高田分工場	奈良縣北葛城郡高田町
	高知分工場	高知縣高知市

樋詰分工場	兵庫縣飾磨郡國衙村	
高瀬分工場	岡山縣上房郡高瀬町	
岡山煙草製造所	久世分工場	岡山縣眞庭郡久世町
	中津井分工場	岡山縣上房郡中津井村
	非原分工場	岡山縣後月郡非原町
三原分工場	廣島縣御調郡三原町	
府中煙草製造所	廣島分工場	廣島縣安藝郡廣島市
非川分工場	德島縣三好郡非川村	
池田煙草製造所	貞光分工場	德島縣美馬郡貞光村
德島分工場	德島縣德島市	
高松分工場	香川縣高松市	
琴平煙草製造所	三島分工場	愛媛縣宇摩郡三島町
今治分工場	愛媛縣越智郡日吉村	
下關分工場	山口縣下關市	
山口煙草製造所	久留米分工場	福岡縣久留米市
福岡煙草製造所	志波分工場	福岡縣朝倉郡志波村
佐賀分工場	佐賀縣佐賀市	
島原分工場	長崎縣肥前高來郡島原町	
長崎煙草製造所	竹田分工場	大分縣直入郡豐岡村
白杵煙草製造所	宮崎分工場	宮崎縣宮崎郡中村町
都城分工場	宮崎縣北諸縣郡都城町	
川內分工場	鹿兒島縣薩摩郡東水引村	
國分分工場	鹿兒島縣姶良郡國分村	
鹿兒島煙草製造所	指宿分工場	鹿兒島縣揖宿郡指宿村

○陸軍省令第二十九號

軍馬輸送規則中左ノ通改正ス

明治三十七年十一月十四日

陸軍大臣寺內正毅

第十二條　軍馬ノ輸送ハ本規則ノ範圍內ニ於テ請負契約ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省令第十四號

海軍兵籍ニ在ル商船學校ノ航海科學生ハ海軍豫備生徒、機關科學生ハ海軍豫備機關生徒ト稱シ海軍生徒ニ准ス

海軍豫備生徒及海軍豫備機關生徒ハ海軍教育本部長之ヲ管ス

明治三十七年十一月十七日

海軍大臣男爵山本權兵衞

○司法省令第二十二號

新潟地方裁判所管內柏崎區裁判所中里出張所ヲ越後國刈羽郡千谷澁村ニ移シ千谷澁出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十七年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十七年十一月二十六日

司法大臣波多野敬直

○遞信省令第六十八號

明治三十六年十二月遞信省令第五十六號規約貯金特別取扱規則中左ノ通改正シ本月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年十一月一日

遞信大臣大浦兼武

第一條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ追加シ第三號ヲ第四號ニ改ム

二　据置規約貯金トシテ預入ヲ爲スコト但シ据置期間ハ最初預入ノ日ヨリ起算シ三箇年乃至十年ノ年限内ニ於テ各預入者任意之ヲ指定スヘシ

同條ニ左ノ一項ヲ追加ス

据置規約貯金ハ預入者ニ於テ規約ヲ脱退シタルトキ又ハ規約ヲ變更者クハ解除シタルトキ及其他何等ノ事由アルトキト雖モ其据置期間滿了ノ後ニ非ラサレハ郵便局所ニ於テ之カ拂戻ヲ爲ササルモノトス其貯金ヲ以テ購入シタル公債證書ノ下渡ニ付テモ亦同シ

第二條本文ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ特別取扱ヲ受ケントスル事項カ單ニ据置規約貯金ノミニ關スルモノナルトキハ其發企入ニ於テ本文ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ本條第二號第三號及第六號ノ指定ヲ要セス

第四條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

規約貯金ニ對スル特別貯金通帳ニハ預ケ入ヤ支拂徴號等ヲ印刷又ハ筆書スルコトヲ得

第十一條ノ次ニ左ノ三條ヲ追加ス

第十一條ノ二　据置規約貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金預入申込書ニ其据置期間及拂戻開始期日ヲ附記スヘシ

前項ノ据置期間ハ預入開始後之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十一條ノ三　通常貯金及他ノ規約貯金ヲ据置規約貯金ニ變更シ又ハ他ノ規約貯金ニ据置期間ヲ設定セントスル者ハ通帳ノ記號番號及据置期間竝ニ拂戻開始期日等ヲ記載シタル請求書ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第十一條ノ四　据置規約貯金ノ預入者ニ於テ規約ヲ脱退シ又ハ規約ヲ解除シタル後ト雖モ据置期

間滿了前ニ於テ其通帳ヲ以テ預入シタル貯金ハ之ヲ据置規約貯金ト看做ス

第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ第十五條ノ二ヲ第十五條ノ三ニ改ム

第十五條ノ二　前二條ノ規定ハ之ヲ据置規約貯金ニ適用セス

○逓信省令第六十九號

貯蓄債券購買及介郵便規則左ノ通相定ム本月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年十一月十日

逓信大臣大浦兼武

貯蓄債券購買及介郵便規則

第一條　郵便局所ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ明治三十七年法律第十八號貯蓄債券法ニ基キ發行スル貯蓄債券購買ノ媒介ヲ爲スヘシ但シ在外郵便局所及交通不便ノ島嶼ニ在ル郵便局所ニ在リテハ之カ取扱ヲ爲サス

第二條　郵便局所ニ於テ貯蓄債券購買ノ媒介ヲ爲ス期間ハ日本勸業銀行ニ於テ之カ發賣ヲ爲ス期間ニ同シ但シ發賣期間内ト雖モ必要上認メタルトキハ購買ノ媒介期間ヲ限定スルコトアルヘシ

第三條　貯蓄債券購買ノ媒介ヲ請求セントスル者ハ債券代金ニ對スル通常爲替振出請求書ヲ作製シ且其特殊取扱指定欄ニ貯蓄債券購買ノ旨ヲ附記シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ但シ爲替料金ハ購買者ニ於テ之カ納付ヲ要セス

前項ノ場合ニ於テ郵便局所ハ通常爲替貯金管理所ニ送付スヘキ爲替貯金受領證書ヲ作製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

第四條　郵便爲替貯金管理所ハ別ニ定ムル手續ニ依リ日本勸業銀行ヨリ債券ヲ受取リ之ニ爲替金ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第五條　郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ニ依リ受領シタル貯蓄債券ハ購買媒介引受郵便局所ニ於テ爲替金受領證書ト引換ニ之ヲ購買者ニ交付ス

第六條　債券買切レ又ハ其他ノ事由ニ依リ債券ノ交付ヲ爲ス能ハサルトキハ債券代金ハ之ヲ其ノ介請求人ニ還付ス

第七條　貯蓄債券購買代金ニ對スル爲替料金及貯蓄債券送達料金ハ左ノ割合ニ依リ總テ日本銀行ヨリ之ヲ徴收ス

一爲替金額五圓迄毎ニ　爲替料金三錢

一債券一通毎ニ　送達料金五錢

○逓信省令第七十號

明治三十三年九月逓信省令第四十二號郵便規則第四十九條第五十二條左ノ通改正明治三十七年十二月十五日ヨリ施行ス但本令施行以前ニ差出シタル代金引換郵便物ノ留置期間ハ尚舊規定ヲ適用ス

逓信大臣大浦兼武

第四十九條　代金引換郵便物ハ到著郵便局所ニ留置キ其旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭ヲ俟テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

前項留置ノ期間ハ第四十一條第二項第八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十二條　代金引換郵便物ノ差出人代金引換ノ取消ヲナサントスルトキハ第七十九條郵便物取戻ノ請求ニ關スル料金又代金引換金額ノ變更ヲナサントスルトキハ同條郵便物名宛變更ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ之ヲ請求スルコトヲ得

【參照】

逓信省令第四十二號郵便規則（明治三十三年九月一日）抄錄

第四十九條　代金引換郵便物ハ到著郵便局所ニ留置キ其ノ旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭ヲ俟テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

前項留置ニ關シテハ第四十一條第八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十二條　代金引換郵便物ノ差出人ハ第七十九條郵便物取戻ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ代金引換ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

○内務省令第十六號

明治三十六年九月内務省令第十號飲食物防腐劑取締規則中左ノ通改正ス

内務大臣子爵芳川顯正

明治三十七年十二月七日

第一條　本則ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ掲クル物質其ノ化合物及之ヲ含有スルモノヲ謂フ

安息香酸　硼酸「クロール」酸「フルオール」水素「フォルムアルデヒッド」昇汞　亞硫酸、次亞硫酸「サリチール」酸及其ノ化合物

「チモール」

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

「ベキサメチレンテトラアミン」（ウロトロピン）ヲ本令施行ノ日以前ニ使用シタル飲食物ハ明治三十八年九月三十日迄之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得

【參照】

内務省令第十號飲食物防腐劑取締規則（明治三十六年九月二十八日）抄錄

第一條　本則ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ掲クル物質又ハ之ヲ含有スルモノヲ謂フ

安息香酸

硼酸及其ノ鹽類

「クロール」酸鹽類

「フルオール」水素及其ノ鹽類

「フォルムアルデヒッド」

昇汞

亞硫酸及其ノ鹽類並次亞硫酸鹽類

「サリチール」酸及其ノ化合物

「チモール」

○大藏省令第四十四號

明治三十七年大藏省令第十九號煙草專賣法施行細則第四十條及第四十一條中「煙草製造所」ヲ「煙草專賣官署」ニ改ム

明治三十七年十二月二十三日　大藏大臣男爵曾禰荒助

（參照）

大藏省令第十九號煙草專賣法施行細則（明治三十七年五月二十八日）抄錄

第四十條 移出ノ爲ニ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ニ準シタル賣渡申請書ヲ煙草專賣局長ニ差出シ其ノ指定スル煙草製造所ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ

第四十一條 移出ノ爲ニ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ買受後相當ノ期間内ニ其ノ買受ヲ爲シタル煙草製造所ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタル數量カ買受ヲ爲シタル數量ヨリ少キトキハ移出者ヲシテ其ノ不足額ニ對スル煙草ノ定價ト其ノ買受價格トノ差額ニ相當スル金額ヲ其ノ買受ヲ爲シタル煙草製造所ニ納付セシム

○大藏省令第四十五號

煙草專賣法第六條ニ基キ東京葉煙草收納所外十九收納所管内ニ於ケル明治三十八年煙草耕作段別左ノ通之ヲ定ム

明治三十七年十二月二十三日　大藏大臣男爵曾禰荒助

葉煙草收納所	府縣	郡市	町村	葉煙草耕作段別
		東葛飾郡	二川村	九十七町歩以內
			木間ケ瀨町	九十六町歩以內
			川間村	八十九町歩以內
			關宿町	三十三町歩以內
			七福村	三十二町歩以內
			旭村	三十町歩以內
	千葉縣		梅郷村	十一町歩以內
			野田町	十三町歩以內
			福田村	十一町歩以內
		君津郡	中村	二町歩以內
			小糸村	七町歩以內
			秋元村	八町歩以內
			三島村	八町歩以內
		安房郡	九重村	三町歩以內
			館田村	十三町歩以內
			千歳村	五町歩以內
			豐田村	四町歩以內
	埼玉縣	北葛飾郡	豐岡村	二十二町歩以內
			寶珠花村	八町歩以內
			大宮町	十一町歩以內
			高篠村	七町歩以內
			原谷村	十九町歩以內
			皆野村	十二町歩以內
			三澤村	七町歩以內
東京葉煙草收納所		秩父郡	野上村	八町歩以內
			國神村	五町歩以內
			太田村	三十三町歩以內
			尾田蒔村	三十六町歩以內
			久那村	六町歩以內
			小鹿野町	十一町歩以內
			下吉田村	二十二町歩以內
			長若村	二十一町歩以內
	群馬縣	多野郡	吉井町	八町歩以內
			入野村	八十三町歩以內
			平井村	三十五町歩以內
			八幡村	八町歩以內
			美土里村	十一町歩以內
			多胡村	十七町歩以內
			藤岡町	七町歩以內
			美九里村	九町歩以內
		北甘樂郡	福島町	六町歩以內
			額部村	七町歩以內
			小幡村	十三町歩以內
			新屋村	三十三町歩以內
			岩平村	三十三町歩以內
			小野村	九町歩以內
		利根郡	桃野村	十四町歩以內
			川田村	二十七町歩以內
	茨城縣	猿島郡	岩井町	四十四町歩以內
			沓掛村	六十二町歩以內
			弓馬田村	三十六町歩以內
			神大實村	四十一町歩以內
			七郷村	三十五町歩以內
			中川村	九十六町歩以內
			七重村	六十九町歩以內
			長須村	五十八町歩以內
			飯島村	十七町歩以內
			境町	二十一町歩以內
			長田村	七十七町歩以內
			逆井山村	四十町歩以內
			靜村	二十六町歩以內
			猿島村	九十一町歩以內
			生子菅村	八十三町歩以內
			森戸村	九十七町歩以內
			幸島村	十二町歩以內
			八俣村	五十町歩以內
			櫻井村	二十四町歩以內
		結城郡	豐岡村	九町歩以內
			菅原村	十四町歩以內
			飯沼村	七町歩以內
			下結城村	十一町歩以內
			名崎村	九町歩以內
			安靜村	十三町歩以內
		北相馬郡	菅生村	三十町歩以內
			內守谷村	十五町歩以內
			坂手村	十町歩以內
	山梨縣	中巨摩郡	飯野村	三十五町歩以內
			在家塚村	二十九町歩以內
			西野村	四十二町歩以內
			今諏訪村	二十町歩以內
			御影村	十一町歩以內
			田ノ岡村	十五町歩以內
			百田村	五十七町歩以內
			榊村	三十五町歩以內
			大井村	七町歩以內
			三恩村	十五町歩以內
			明穗村	六十八町歩以內
			豐村	五十五町歩以內
			鏡中條村	十四町歩以內
			玉幡村	八町歩以內
			龍王村	三町歩以內
	神奈川縣	三浦郡	長井村	十七町歩以內
			初聲村	五十一町歩以內
			北下浦村	四町歩以內
			南下浦村	四町歩以內
			芳野村	二十五町歩以內
			國田村	三十三町歩以內
			戸多村	三十三町歩以內
			長倉村	六十八町歩以內
水戸葉煙草收納所	茨城縣	那珂郡	小幡村	百十一町歩以內
			野口村	四十七町歩以內
			八里村	百四十二町歩以內
			大宮町	二十二町歩以內
			上野村	二十八町歩以內
			水崎村	十八町歩以內
			靜村	六十七町歩以內
			山方村	四十六町歩以內
			大賀村	四十六町歩以內
			鷲田村	三十五町歩以內
			瓜連村	三十九町歩以內
			大場村	七十七町歩以內
			檜澤村	五十六町歩以內
			玉川村	五十五町歩以內
		東茨城郡	渡里村	十九町歩以內
			山根村	二十二町歩以內
			石塚村	三十九町歩以內
			西郷村	八十三町歩以內
			圷村	五十町歩以內
			岩船村	八十八町歩以內
			澤山村	三十九町歩以內
			飯富村	二十六町歩以內
			小松村	五十六町歩以內
			伊勢畑村	四十四町歩以內
		西茨城郡	西那珂村	十八町歩以內
			北那珂村	六十四町歩以內
			北山內村	二十九町歩以內
			大池田村	四十四町歩以內
			七會村	六十一町歩以內
		多賀郡	坂上村	十二町歩以內
			國分村	三十六町歩以內
			鮎川村	八町歩以內
			高鈴村	十四町歩以內
			日立村	八町歩以內
			日高村	七町歩以內
			豐浦町	六町歩以內
			河原子町	四町歩以內

葉煙草收納所	府縣	郡	町村	距離
		久慈郡	太田町	四町步以内
			機初村	三十一町步以内
			世矢村	四十二町步以内
			佐竹村	三十町步以内
			久米村	五十町步以内
			金鄉村	九十二町步以内
			金砂村	百四十五町步以内
			天下野村	百五町步以内
			高倉村	三十九町步以内
			染和田村	百七十一町步以内
			山田村	百二十五町步以内
			譽田村	九十四町步以内
			佐都村	四十六町步以内
			河内村	八十八町步以内
			中里村	七十三町步以内
			賀美村	五十三町步以内
			小里村	四十二町步以内
			諸富野村	六十三町步以内
			大子町	六十三町步以内
			佐原村	二十九町步以内
			依上村	六十七町步以内
			世喜村	七十五町步以内
			[illegible]戶村	三十六町步以内
		芳賀郡	茂木町	八十八町步以内
			須藤村	百三十四町步以内
			中川村	二百二十町步以内
			逆川村	百十六町步以内
			七井村	百十六町步以内
			市羽村	百七十六町步以内
			小貝村	百四十町步以内
			祖母井村	八十八町步以内
			南高根澤村	百二十七町步以内
			眞岡町	百十町步以内
			大内村	六十二町步以内
			水橋村	六十四町步以内
			清原村	八十町步以内
			益子町	八十八町步以内
			田野村	九十九町步以内

葉煙草收納所	府縣	郡	町村	距離
栃木葉煙草收納所	栃木縣		山前村	七十二町步以内
			物部村	四十五町步以内
			中村	三十五町步以内
		那須郡	烏山町	十九町步以内
			荒川村	百二十五町步以内
			上江川村	三十三町步以内
			下江川村	百五十二町步以内
			七合村	百五十七町步以内
			境村	百八十五町步以内
			向田村	九十町步以内
			馬頭町	百三十二町步以内
			武茂村	六十六町步以内
			大内村	九十五町步以内
			須賀川村	六十六町步以内
			大山田村	百八十町步以内
			那珂村	八十八町步以内
		河内郡	平石村	二十五町步以内
			瑞穗野村	二十二町步以内
		鹽谷郡	北高根澤村	百十町步以内
			喜連川町	八十六町步以内
			熟田村	二十六町步以内
			氏家町	二十六町步以内
			阿久津村	四十六町步以内
			玉生村	十町步以内
			大宮村	二十町步以内
			片岡村	十八町步以内
			矢板町	二十一町步以内
			船生村	十町步以内
	茨城縣	那珂郡	鹽鄉村	百二十一町步以内
			大田原町	十四町步以内
			親園村	十四町步以内
			野崎村	二十一町步以内
			佐久山町	十四町步以内
			湯津上村	六十四町步以内
			黑羽町	六十六町步以内
			川西町	四十六町步以内

葉煙草收納所	府縣	郡	町村	距離
大田原葉煙草收納所	栃木縣	那須郡	金田村	百九十五町步以内
			狩野村	九十九町步以内
			東那須野村	二百六十四町以内
			兩鄉村	六十五町步以内
			伊王野村	五十七町步以内
			蘆野町	十二町步以内
			那須村	八十九町步以内
			鍋掛村	五十町步以内
			高林村	九十四町步以内
		鹽谷郡	泉村	十二町步以内
			箒根村	五十九町步以内
		田村郡	御舘村	百〇三町步以内
			二瀨村	二十四町步以内
			御木澤村	五十一町步以内
			高野村	三十六町步以内
			逢隈村	四十七町步以内
			岩江村	三十五町步以内
			中妻村	三十一町步以内
			宮城村	十八町步以内
			廣瀨村	九十五町步以内
			中鄉村	五十五町步以内
			七鄉村	百六十七町步以内
			大越村	百二十四町步以内
			山根村	三十九町步以内
			常葉町	五十八町步以内
			片曾根村	百十三町步以内
			美山村	十七町步以内
			[illegible]川村	八町步以内
			移村	十町步以内
			澤石村	十三町步以内
			文珠村	六十五町步以内
			要田村	六十八町步以内
			三春町	十町步以内
			小野新町	六十六町步以内
			夏井村	六十五町步以内
			瀧根村	百三十五町步以内
			飯豐村	八十四町步以内

葉煙草收納所	府縣	郡	町村	距離
三春葉煙草收納所	福島縣	石川郡	須釜村	十三町步以内
			中谷村	三十七町步以内
			母畑村	二十四町步以内
			野木澤村	七町步以内
			山橋村	三十町步以内
			小平村	四十五町步以内
			山白石村	十四町步以内
			蓬田村	五十三町步以内
		東白川郡	竹貫村	十七町步以内
			宮本村	二十八町步以内
			鮫川村	十九町步以内
		北會津郡	門田村	十六町步以内
			大戶村	十四町步以内
			川南村	一町步以内
		大沼郡	川路村	十二町步以内
			永井野村	二町步以内
			新鶴村	三町步以内
		河沼郡	若宮村	三町步以内
			坂本村	五町步以内
			柳津村	十町步以内
			飯谷村	三町步以内
			千咲村	四町步以内
			新鄉村	三町步以内
			高寺村	三町步以内
			東松村	一町步以内
		南會津郡	楢原村	三十二町步以内
			長江村	十五町步以内
			旭田村	三十四町步以内
			二川村	三町步以内
			田島町	九町步以内
			荒海村	二町步以内
		安達郡	白岩村	六十一町步以内
			新殿村	五町步以内
			和木澤村	二町步以内
		石城郡	三坂村	十五町步以内
		稗貫郡	内川目村	百八十八町步以内
			外川目村	九十町步以内

葉煙草收納所	府縣	郡	町村	距離
	岩手縣	上閉伊郡	達曾部村	五十二町步以内
			宮守村	二十九町步以内
		東磐井郡	黃海村	三十四町步以内
			藤澤村	五十八町步以内
			大津保村	六十六町步以内
			八澤村	四十五町步以内
			小梨村	四十七町步以内
			矢越村	三十二町步以内
			奥玉村	四十町步以内
			澁民村	四十四町步以内
			薄衣村	二十二町步以内
			千厩町	二十八町步以内
		二戶郡	金田一村	三十五町步以内
	宮城縣	登米郡	米川村	三十四町步以内
	青森縣	三戶郡	留崎村	六十七町步以内
			平良崎村	四十二町步以内
			向村	四十一町步以内
			三戶町	九町步以内
	北海道	幌別郡	幌別村	七町步以内
東根葉煙草收納所	秋田縣	雄勝郡	東成瀨村	百一町步以内
			西成瀨村	二十八町步以内
			皆瀨村	二十五町步以内
			三梨村	十町步以内
	山形縣	北村山郡	東根町	九十一町步以内
			東鄉村	百二十八町步以内
			高崎村	七十二町步以内
			山口村	四十二町步以内
			大富村	十町步以内
			小田島村	十一町步以内
		米澤市		二十一町步以内
		南置賜郡	南原村	七十九町步以内
			萬世村	八町步以内
			上長井村	三町步以内
			山上村	十二町步以内

葉煙草收納所	府縣	郡	町村	距離
		東田川郡	[illegible]川村	十二町步以内
			[illegible]村	十六町步以内
			泉村	三町步以内
小出葉煙草收納所	新潟縣	中頸城郡	新井町	七町步以内
			鳥坂村	十五町步以内
			矢代村	十二町步以内
			名香山村	三十二町步以内
			關山村	五十二町步以内
			大鹿村	七十町步以内
			[illegible]村	五町步以内
			原通村	百七十四町步以内
			中鄉村	百六十七町步以内
			上鄉村	二十二町步以内
			泉村	二十一町步以内
		三島郡	關原村	四十八町步以内
			日越村	二十一町步以内
			深才村	六十五町步以内
			宮本村	四町步以内
		中蒲原郡	五泉町	九町步以内
			橫越村	四町步以内
		北蒲原郡	京ケ瀨村	十五町步以内
		西蒲原郡	赤塚村	九十四町步以内
			松野尾村	六十四町步以内
			內野村	十八町步以内
			峰岡村	三町步以内
			角田村	十町步以内
	長野縣	東筑摩郡	錦部村	八町步以内
			中川村	二十町步以内
			會田村	二十二町步以内
			五常村	二十五町步以内
			東川手村	四十町步以内
			本城村	十三町步以内
			坂北村	四十一町步以内
			生坂村	五十一町步以内

煙草收納所	府縣	郡	町村	町歩
		北安曇郡	陸郷村	十三町歩以内
			廣津村	五十七町歩以内
			八坂村	六十四町歩以内
秦野煙草收納所	神奈川縣	中郡	秦野町	九十五町歩以内
			東秦野村	百九十六町歩以内
			北秦野村	百四十三町歩以内
			西秦野村	二百十三町歩以内
			南秦野村	百五十四町歩以内
			大根村	八十五町歩以内
			金目村	三十五町歩以内
			土澤村	七十三町歩以内
			國府村	五十町歩以内
			吾妻村	四十一町歩以内
			伊勢原町	十八町歩以内
			比比多村	五十五町歩以内
			高部屋村	四十四町歩以内
			大山町	十町歩以内
			成瀬村	二十町歩以内
			岡崎村	十二町歩以内
			小中村	八町歩以内
			山背村	十一町歩以内
			大磯町	八町歩以内
		足柄上郡	上秦野村	百六町歩以内
			寄村	六十三町歩以内
			井ノ口村	五十四町歩以内
			中村	百十二町歩以内
			上中村	五十五町歩以内
			松田村	十七町歩以内
			山田村	二十五町歩以内
			金田村	八町歩以内
			曾我村	九町歩以内
			福澤村	十二町歩以内
			南足柄村	二十三町歩以内
			岡本村	二十六町歩以内
		足柄下郡	下中村	四十三町歩以内
			久野村	八町歩以内
			富水村	七町歩以内
			前羽村	三町歩以内
		愛甲郡	玉川村	十四町歩以内
	靜岡縣	富士郡	大宮町	十九町歩以内
			富丘村	五十九町歩以内
			柚野村	十七町歩以内
			上野村	二十五町歩以内
			白糸村	八町歩以内
			北山村	六十六町歩以内
			富士根村	二十五町歩以内
		磐田郡	見付町	十二町歩以内
			御厨村	九町歩以内
			中泉町	十七町歩以内
			梅原村	三町歩以内
			天龍村	三十五町歩以内
			西貝村	十町歩以内
			南御厨村	十一町歩以内
			西淺羽村	十一町歩以内
			幸浦村	四町歩以内
			豐濱村	四町歩以内
			長野村	五十五町歩以内
			於保村	二十八町歩以内
			福島村	十町歩以内
			和田村	三十一町歩以内
			掛塚町	二十一町歩以内
			十束村	三十三町歩以内
			井通村	六十三町歩以内
			富岡村	二十二町歩以内
			池田村	七町歩以内
			岩田村	十三町歩以内
			廣瀬村	二十四町歩以内
			大藤村	七町歩以内
			向笠村	四町歩以内
			田原村	五町歩以内
			今井村	三町歩以内
			東淺羽村	四町歩以内
			上淺羽村	五町歩以内
			三川村	三町歩以内
	靜岡縣	濱名郡	中郷村	三十九町歩以内
			龍池村	二十四町歩以内
			美島村	五十六町歩以内
			平設村	十四町歩以内
			豐西村	三十町歩以内
			笠井町	九町歩以内
			中郡村	二十二町歩以内
			小野田村	十七町歩以内
			有玉村	七町歩以内
			市野村	七町歩以内
			中ノ町村	十町歩以内
			和田村	十五町歩以内
			蒲村	六町歩以内
			曳馬村	十五町歩以内
			天王村	七町歩以内
			飯田村	二十八町歩以内
			天神町村	十町歩以内
			芳川村	三十六町歩以内
			河輪村	十五町歩以内
			白脇村	二十四町歩以内
			神久呂村	六町歩以内
			伊佐見村	十四町歩以内
			赤佐村	六町歩以内
			入野村	三町歩以内
			新津村	三町歩以内
			淡出村	三町歩以内
			雄踏村	三町歩以内
			五島村	三町歩以内
			濱松町	三町歩以内
		小笠郡	池新田村	六町歩以内
			新野村	六町歩以内
			大須賀村	九町歩以内
			猪子石村	四十町歩以内
			岩作村	三十九町歩以内
			上郷村	三十一町歩以内
			白山村	三十三町歩以内
			幡野村	二十九町歩以内
			高社村	四十町歩以内

煙草收納所	府縣	郡	町村	町歩
名古屋煙草收納所	愛知縣	愛知郡	長湫村	四十一町歩以内
			岩崎村	三十二町歩以内
			鍋屋上野村	八町歩以内
			香久山村	三十九町歩以内
			豐明村	三十四町歩以内
			島田村	十五町歩以内
			沓掛村	十四町歩以内
			彌富村	五町歩以内
			諸和村	八町歩以内
			鳴海町	九町歩以内
			植田村	五町歩以内
		東春日井郡	八白村	五十一町歩以内
			新居村	四十四町歩以内
			印場村	二十二町歩以内
			大森村	二十二町歩以内
			二城村	十四町歩以内
			志談村	四町歩以内
			小幡村	十二町歩以内
			池林村	十八町歩以内
			大野村	十一町歩以内
			小木田村	十町歩以内
			神坂村	八町歩以内
			下原村	七町歩以内
			陶村	五町歩以内
			大草村	十一町歩以内
			不二村	五町歩以内
			田樂村	六町歩以内
			片山村	三町歩以内
			内津村	四町歩以内
			雛五村	三町歩以内
			八幡村	四町歩以内
			和爾良村	三町歩以内
			小牧町	三町歩以内
			玉川村	四町歩以内
			味岡村	四町歩以内
			外山村	四町歩以内
		西加茂郡	保見村	四町歩以内
			三好村	三町歩以内
			明生村	三町歩以内
		知多郡	大高町	三町歩以内
			吉田村	十七町歩以内
			森岡村	九町歩以内
			共和村	十町歩以内
			長草村	八町歩以内
			富木島村	八町歩以内
			北崎村	六町歩以内
			荒尾村	十町歩以内
			大府村	六町歩以内
			名和村	五町歩以内
			横根村	三町歩以内
			大田村	三町歩以内
		碧海郡	知立町	三町歩以内
			半高村	三町歩以内
			境村	七町歩以内
			小山村	八町歩以内
			逢見村	十三町歩以内
			小垣江村	十七町歩以内
			東境村	四町歩以内
			上重原村	三町歩以内
			重原村	五町歩以内
			駒場村	四町歩以内
			一ツ木村	六町歩以内
			長崎村	四町歩以内
		丹羽郡	池野村	五町歩以内
			岩田村	六町歩以内
			今井村	四町歩以内
			善師野村	四町歩以内
		寶飯郡	御津町	二十町歩以内
			鹽津町	二十四町歩以内
			形原村	二十五町歩以内
			豐岡村	八町歩以内
			鹿里村	十町歩以内
			神ノ郷村	六町歩以内
			三谷町	六町歩以内
			西浦村	七町歩以内
			天塚村	三町歩以内
			御沖村	三町歩以内
		額田郡	深溝村	九町歩以内
	岐阜縣	可兒郡	池田村	三町歩以内
			帷子村	十町歩以内
	三重縣	度會郡	城田村	五十一町歩以内
			下外城田村	三十九町歩以内
			小俣町	十一町歩以内
			田丸町	四町歩以内
			有田村	二町歩以内
			東外城田村	三町歩以内
		飯南郡	射和村	二町歩以内
			大石村	一町歩以内
		多氣郡	五ヶ谷村	一町歩以内
	長野縣	下伊那郡	清内路村	三十七町歩以内
鶴來煙草收納所	福井縣	大野郡	勝山町	十三町歩以内
			村岡村	四十四町歩以内
			荒土村	六十六町歩以内
			北郷村	二十三町歩以内
			猪野瀬村	二十八町歩以内
			平泉寺村	十町歩以内
			野向村	二十五町歩以内
			坂谷村	十町歩以内
			富田村	四十一町歩以内
			下庄村	二十二町歩以内
			遲羽村	四町歩以内
			上庄村	七町歩以内
	石川縣	石川郡	鶴來町	六町歩以内
			河内村	五十三町歩以内
			吉野谷村	二十八町歩以内
			崎浦村	七町歩以内
		能美郡	河野村	三十三町歩以内
			別宮村	十七町歩以内
			吉原村	六十六町歩以内

府縣	郡	町村	面積
		尾口村	三町歩以內
富山縣	婦負郡	細入村	十四町歩以內
	上新川郡	大久保村	五町歩以內
		大澤野村	五町歩以內
		下夕村	十三町歩以內
	下新川郡	愛本村	二十町歩以內
		下立村	一町歩以內
滋賀縣	蒲生郡	中野村	六十七町歩以內
		市邊村	三十三町歩以內
		玉緒村	三十二町歩以內
		安土村	七町歩以內
	神崎郡	八日市町	二十町歩以內
		御園村	二十町歩以內
	愛知郡	角井村	十一町歩以內
		西小椋村	十二町歩以內
	野洲郡	兵主村	二町歩以內
		速野村	七町歩以內
		中洲村	八町歩以內
大阪府	南河內郡	狹山村（[illegible]東野ヲ除ク）	三町歩以內
		三郷村	十町歩以內
		大草村	二十四町歩以內
		日置莊村	四町歩以內
		野田村	十町歩以內
	泉北郡	深井村	二十町歩以內
		東百舌鳥村	八町歩以內
		久世村	十五町歩以內
		東陶器村	三十三町歩以內
		西陶器村	十四町歩以內
	吉野郡	下市町	五町歩以內
		秋野村	五町歩以內
		南芳野村	六町歩以內
		白銀村	十八町歩以內
		賀名生村	三町歩以內
		[illegible]	

大阪大林區署收納所

府縣	郡	町村	面積
奈良縣		宗檜村	三十三町歩以內
		上龍門村	五町歩以內
	宇陀郡	神戸村	十一町歩以內
		政始村	十四町歩以內
		宇太村	七町歩以內
		宇賀志村	二十二町歩以內
		伊那佐村	四町歩以內
		曾爾村	七町歩以內
	高市郡	高市村	十町歩以內
		飛鳥村	五町歩以內
		眞菅村	四町歩以內
		阪合村	六町歩以內
		白橿村	九町歩以內
		越智岡村	四町歩以內
	北葛城郡	浮孔村	六町歩以內
		磐城村	四町歩以內
		馬見村	四町歩以內
		百濟村	四町歩以內
		箸尾村	三町歩以內
	磯城郡	纒向村	三町歩以內
		城島村	三町歩以內
		[illegible]（[illegible]ヲ除ク）	
		香久山村	七町歩以內
		安倍村	九町歩以內
京都府	北桑田郡	大野村	四町歩以內
	船井郡	五ヶ莊村	三町歩以內
		世木村	三町歩以內
		上和知村	三町歩以內
		下和知村	八町歩以內
兵庫縣	明石郡	岩岡村	九十八町歩以內
		神出村	十七町歩以內
		大久保村	七町歩以內
		魚住村	二十四町歩以內
	氷上郡	葛野村	二十三町歩以內
		神樂村	十六町歩以內

府縣	郡	町村	面積
	揖保郡	西栗栖村	三町歩以內
	佐用郡	三日月村	三町歩以內
		大廣村	七町歩以內
		中安村	五町歩以內
	宍粟郡	萬澤村	二町歩以內
		千種村	三町歩以內
	上房郡	松山村	五町歩以內
		津川村	八町歩以內
		川面村	十九町歩以內
		巨瀬村	十一町歩以內
		上竹莊村	四町歩以內
		豐野村	七町歩以內
		下竹莊村	五町歩以內
		吉川村	六町歩以內
		中井村	六十六町歩以內
		中津井村	三十町歩以內
		呰部村	十五町歩以內
	川上郡	松原村	二十二町歩以內
		高倉村	二十町歩以內
		落合村	十九町歩以內
		成羽町	十八町歩以內
		成羽村	十三町歩以內
		富家村	四十八町歩以內
		平川村	五十七町歩以內
		湯野村	五十町歩以內
		吹屋町	十一町歩以內
		宇治村	二十五町歩以內
		玉川村	八町歩以內
		中村	四十四町歩以內
		日里村	二十九町歩以內
		手莊村	七十九町歩以內
		大賀村	七十九町歩以內
		高山村	三十六町歩以內
	吉備郡	富山村	五町歩以內
		大和村	七町歩以內
		[illegible]谷村	八町歩以內
		[illegible]谷村	八町歩以內
		水內村	七町歩以內

[illegible]大林區署收納所

府縣	郡	町村	面積
岡山縣	御津郡	加茂村	三町歩以內
		福山村	九町歩以內
		長田村	九町歩以內
		圓城寺村	十一町歩以內
		[illegible]（大字[illegible]ヲ除ク）	
		[illegible]村	九町歩以內
		新山村	七町歩以內
	阿哲郡	豐永村	百十三町歩以內
		刑部村	百六十三町歩以內
		熊谷村	七町歩以內
		石蟹郷村	三十五町歩以內
		本郷村	三十二町歩以內
		萬歳村	十四町歩以內
		新砥村	十七町歩以內
		野馳村	二十九町歩以內
	眞庭郡	二川村	八十三町歩以內
		湯原村	七十九町歩以內
		一宮村	五町歩以內
		新庄村	二十五町歩以內
		美甘村	四十町歩以內
		川上村	三百十八町歩以內
		八束村	百三十九町歩以內
		中和村	四十二町歩以內
	後月郡	井原町	三町歩以內
		山野上村	七町歩以內
		[illegible]村	十五町歩以內
		芳井村	二十四町歩以內
		明治村	四十町歩以內
		共和村	二十九町歩以內
		三原村	十五町歩以內
	小田郡	堺村	十一町歩以內
	[illegible]郡	岩谷村	二十五町歩以內
		吉金丸村	六町歩以內
		藤尾村	六町歩以內
		米野山村	八町歩以內
		明木村	四町歩以內
		行廣村	八町歩以內

大阪大林區署收納所

府縣	郡	町村	面積
		河佐村	七町歩以內
	御調郡	諸田村	七町歩以內
		下川邊村	三町歩以內
		山中村	八町歩以內
		西野村	十一町歩以內
	神石郡	光末村	四町歩以內
		高蓋村	十二町歩以內
		父木野村	十九町歩以內
		光信村	五町歩以內
		上村	十八町歩以內
		[illegible]村	十一町歩以內
		小畠村	十五町歩以內
		常光村	五町歩以內
		龜石村	六町歩以內
		來見村	二十町歩以內
		仙養村	六十一町歩以內
		小野村	二十六町歩以內
		豐松村	百二十七町歩以內
		油木村	百十一町歩以內
		新坂村	五十二町歩以內
		木津和村	十三町歩以內
		草木村	四十二町歩以內
		田頭村	十一町歩以內
		牧村	十一町歩以內
		階見村	三十九町歩以內
		花濟村	二十八町歩以內
		古川村	十八町歩以內
		永渡村	百七町歩以內
	甲奴郡	清[illegible]村	十一町歩以內
		矢野村	八町歩以內
		上下町	十町歩以內
		吉野村	三十六町歩以內
		階見村	十三町歩以內
		黒目村	十八町歩以內
		上領家村	十町歩以內
		五箇村	三十六町歩以內
		中領家村	十町歩以內
		下領家村	十九町歩以內

府縣	郡	町村	面積
		[illegible]谷村	十九町歩以內
		敷名村	十四町歩以內
		太郎丸村	十五町歩以內
		提湯村	七町歩以內
		有田村	八町歩以內
		甲奴村	十三町歩以內
		安田村	五町歩以內
		米見村	六町歩以內
		知和村	二町歩以內
	比婆郡	東城町	十四町歩以內
		帝釋村	七十四町歩以內
		高村	七町歩以內
		本村	三十四町歩以內
		久代村	三十町歩以內
		峰田村	二十九町歩以內
		敷信村	十七町歩以內
	雙三郡	吉舍村	九町歩以內
		萩原村	七町歩以內
	豐田郡	忠海町	四十六町歩以內
		長谷村	十三町歩以內
		小坂村	十四町歩以內
		沼田西村	五町歩以內
		沼田東村	五町歩以內
		田野浦村	二十三町歩以內
		須波村	二十一町歩以內
		佐江崎村	二十六町歩以內
		南方村	七十四町歩以內
		大乘村	八町歩以內
		吉名村	十三町歩以內
		木谷村	五十三町歩以內
		[illegible]	二十三町歩以內
	賀茂郡	三津町	十一町歩以內
		竹原町	十町歩以內
		早田原村	八町歩以內
		下野村	三十町歩以內
		東野村	四町歩以內
	高田郡	本村	三町歩以內
		志屋村	十町歩以內

米子葉煙草收納所	鳥取縣	西伯郡	彥名村	二町步以內
			崎津村	二町步以內
			渡村	十五町步以內
			外江村	十七町步以內
			中濱村	十三町步以內
			富益村	二町步以內
			手間村	三町步以內
			縣村	三町步以內
			光德村	五町步以內
			賀野村	四町步以內
			幡鄉村	二町步以內
			大幡村	五町步以內
			大山村	三町步以內
			福米村	二町步以內
		日野郡	日吉村	四町步以內
			吉岡村	三町步以內
			溝口村	十九町步以內
			金岩村	五町步以內
			榮村	四町步以內
			旭村	八町步以內
			余深村	三十五町步以內
			江尾村	十二町步以內
			米原村	五十八町步以內
			米澤村	六十四町步以內
			神奈川村	二十五町步以內
			根雨村	十二町步以內
			武住村	八町步以內
			安井村	四町步以內
			波村	四町步以內
			黑坂村	四町步以內
		八頭郡	赤松村	八町步以內
		八束郡	波入村	二町步以內
			二子村	四町步以內
		大原郡	佐世村	八町步以內
			日登村	十一町步以內
		仁多郡	三澤村	六町步以內
			布勢村	五町步以內

			溫泉村	三町步以內
	島根縣	飯石郡	三刀屋村	四町步以內
			一宮村	七町步以內
			飯石村	六町步以內
			鍋山村	十町步以內
			田井村	十町步以內
			中野村	二十町步以內
			多根村	十七町六步以內
			松笠村	六町步以內
			掛合村	二町步以內
池田葉煙草收納所	德島縣	三好郡	池田村	十二町步以內
			箸藏村	九十九町步以內
			晝間村	百四十一町步以內
			足代村	二十八町步以內
			加茂村	十九町步以內
			井川村	十七町步以內
			井內谷村	百十七町步以內
			三繩村	百二十町步以內
			佐馬地村	百二十三町步以內
			山城谷村	二百三十二町步以內
			三名村	二十九町步以內
			三野村	百二十一町步以內
			三庄村	八十九町步以內
		美馬郡	西祖谷山村	百二十一町步以內
			東祖谷山村	百五十七町步以內
			重清村	九十二町步以內
			郡里村	九十九町步以內
			岩倉村	七十七町步以內
			半田村	四十八町步以內
			半田奥山村	五十五町步以內
			貞光村	十四町步以內
			端山村	五十三町步以內
			半平山村	三十七町步以內
			口山村	二十五町步以內
			一宇村	二百九町步以內
		麻植郡	木屋平村	四十町步以內
		名西郡	上分上山村	九町步以內

			下分上山村	三町步以內
[illegible]平葉煙草收納所	高知縣	長岡郡	東豐永村	九十二町步以內
			西豐永村	二十町步以內
			東本山村	二町步以內
	香川縣	綾歌郡	染合村	百五十四町步以內
			粉所村	四町步以內
		仲多度郡	七箇村	六町步以內
		香川郡	安原村	九町步以內
			安原上東村	二十六町步以內
			安原上西村	五十八町步以內
	愛媛縣	宇摩郡	川瀧村	十町步以內
			金砂村	一町步以內
			富郷村	七町步以內
			新立村	七十二町步以內
			上山村	百七町步以內
		溫泉郡	川上村	三町步以內
			三內村	五町步以內
		伊豫郡	出淵村	七町步以內
			廣田村	二十五町步以內
		周桑郡	櫻樹村	三十七町步以內
		上浮穴郡	田渡村	十町步以內
		喜多郡	滿穗村	二町步以內
			柳澤村	九町步以內
			喜多山村	二町步以內
			田所村	十町步以內
		朝倉郡	寶珠山村	五町步以內
			松末村	二十六町步以內
			杷木村	三十七町步以內
			久喜宮村	七十六町步以內
			志波村	三十四町步以內
			高木村	七町步以內
			朝倉村	五十四町步以內
			宮野村	四十二町步以內
			福成村	二十一町步以內

熊本葉煙草收納所	福岡縣		大鶴村	十九町步以內
			三奈木村	三十二町步以內
			金川村	十二町步以內
			福田村	五町步以內
			立石村	九町步以內
			上秋月村	五町步以內
		浮羽郡	山春村	四町步以內
			大石村	十一町步以內
			椿子村	三町步以內
			千年村	十町步以內
			江南村	六町步以內
	大分縣	日田郡	五和村	四町步以內
			高瀨村	四町步以內
			三芳村	四町步以內
			日田町	十二町步以內
			三花村	三町步以內
			光岡村	十九町步以內
			朝日村	十一町步以內
			大鶴村	八町步以內
			夜明村	十一町步以內
	長崎縣	南高來郡	安中村	九町步以內
			深江村	十二町步以內
			南串山村	十五町步以內
			小濱村	五町步以內
		北松浦郡	御厨村	一町步以內
			星鹿村	十五町步以內
	佐賀縣	藤津郡	能古見村	十五町步以內
		飽託郡	黑髮村	六町步以內
			清水村	二十町步以內
			川上村	十一町步以內
			龍田村	四十七町步以內
			供合村	六十五町步以內
			廣畑村	六十三町步以內

	熊本縣		小山戶島村	九十八町步以內
			健軍村	三十一町步以內
			大江村	七町步以內
		上益城郡	廣安村	二十三町步以內
			木山町	十町步以內
			福田村	六町步以內
			津森村	百町步以內
			白水村	百四十九町步以內
		菊池郡	津田村	九十町步以內
			西合志村	二十六町步以內
			合志村	九十六町步以內
			大津町	二十町步以內
			原水村	六十四町步以內
			護川村	六十一町步以內
			平眞城村	三十町步以內
			瀨田村	二十町步以內
			隈內村	八町步以內
		球磨郡	藍田村	九町步以內
			西村	六町步以內
			川村	五町步以內
			中原村	九町步以內
		阿蘇郡	高森町	三十町步以內
			白水村	十三町步以內
			色見村	十三町步以內
			野尻村	六十九町步以內
			菅尾村	十五町步以內
			馬見原町	五町步以內
			柏村	百三十九町步以內
			草部村	百三十六町步以內
			波野村	百二町步以內
			錦野村	三十五町步以內
			山西村	五十町步以內
			產山村	十七町步以內

臼杵葉煙草收納所	大分縣	北海部郡	上南津留村	五町步以內
		大野郡	野津市村	十一町步以內
			田野村	十三町步以內
			川登村	六町步以內
			南野津村	四十町步以內
			戶上村	六十六町步以內
			犬飼町	十四町步以內
			柴原村	二十九町步以內
			井田村	三十一町步以內
			中井田村	六十七町步以內
			田中村	二十一町步以內
			長谷村	二十二町步以內
			菅尾村	二十八町步以內
			百枝村	五十町步以內
			三重町	七十八町步以內
			新田村	二十五町步以內
			牧口村	二十九町步以內
			大野村	九十八町步以內
			小宮士村	三十二町步以內
			篠老村	二十五町步以內
			今市村	二十六町步以內
			上緒方村	十三町步以內
		直入郡	嫗嶽村	二十五町步以內
			宮砥村	三十一町步以內
			荻村	二百四十八町步以內
			柏原村	百四十町步以內
			菅生村	百三十八町步以內
			宮城村	十三町步以內
			長湯村	二十四町步以內
			下竹田村	五十一町步以內
	宮崎縣	西臼杵郡	高千穗村	八十五町步以內
			上野村	八十六町步以內
			田原村	九十二町步以內

收納所	府縣	郡	村	面積
			三ヶ所村	五十七町歩以内
			岩戸村	四十八町歩以内
出水稅關監視署收納所	鹿兒島縣	出水郡	上出水村	三百九十一町歩以内
			中出水村	二百五十二町歩以内
			高尾野村	三百四十二町歩以内
			下出水村	百四十一町歩以内
			野田村	百四十町歩以内
			大川内村	六十五町歩以内
			阿久根村	二百町歩以内
		薩摩郡	隈之城村	三十五町歩以内
			永利村	四十二町歩以内
			平佐村	四十三町歩以内
			東水引村	十町歩以内
			下東郷村	三十町歩以内
			高城村	七十三町歩以内
			樋脇村	四十六町歩以内
			入来村	二十四町歩以内
			上東郷村	四十八町歩以内
			山崎村	四十一町歩以内
			鶴田村	十五町歩以内
			宮之城村	二十町歩以内
	熊本縣	葦北郡	水俣村	三十一町歩以内
		鹿兒島郡	西櫻島村	二百三十町歩以内
			東櫻島村	百二十二町歩以内
			谷山村	百二町歩以内
			中郡宇村	五町歩以内
			西武田村	八町歩以内
			吉田村	八町歩以内
			上伊集院村	十一町歩以内
			中伊集院村	九町歩以内
			下伊集院村	十三町歩以内
鹿兒島稅關收納所	鹿兒島縣	日置郡	日置村	二十九町歩以内
			吉利村	二十三町歩以内
			永吉村	三十三町歩以内
			郡山村	四町歩以内
			東市來村	五十町歩以内
			西市來村	三十一町歩以内
			串木野村	三十九町歩以内
			阿多村	五町歩以内
			田布施村	五町歩以内
			伊作村	六十六町歩以内
		姶良郡	蒲生村	十七町歩以内
			帖佐村	二十九町歩以内
			重富村	十九町歩以内
			國分村	七十三町歩以内
			東國分村	六十九町歩以内
			西國分村	九十二町歩以内
			西襲山村	十八町歩以内
			東襲山村	三十四町歩以内
			清水村	八十一町歩以内
			敷根村	十九町歩以内
			福山村	十町歩以内
		肝屬郡	垂水村	三百六十七町歩以内
			新城村	六十六町歩以内
			花岡村	三十六町歩以内
			牛根村	二十八町歩以内
			大姶良村	十二町歩以内
			鹿屋村	十一町歩以内
			高山村	五町歩以内
			小根占村	七十五町歩以内
			大根占村	四町歩以内
		囎唹郡	大崎村	八町歩以内
		揖宿郡	指宿村	三百六十一町歩以内
			山川村	二百二十四町歩以内
			頴娃村	四十一町歩以内
			今和泉村	百二十四町歩以内
			喜入村	百三十三町歩以内
		川邊郡	加世田村	七町歩以内
			東加世田村	十四町歩以内
			勝目村	十町歩以内
			川邊村	六十一町歩以内
			知覽村	十九町歩以内
	宮崎縣	宮崎郡	瓜生野村	四町歩以内
			生目村	二十町歩以内
		東諸縣郡	本庄村	二町歩以内
			倉岡村	二十一町歩以内
			高岡村	十四町歩以内
			穆佐村	九町歩以内
		兒湯郡	上穗北村	三十四町歩以内
			下穗北村	三十四町歩以内
			都於郡村	四町歩以内
	沖繩縣	那覇區		一町歩以内
		首里區		三町歩以内
		中頭郡		一町歩以内
		島尻郡		六町歩以内
		國頭郡		十三町歩以内
		八重山郡		五十六町歩以内

○大藏省令第四十六號

大日本帝國政府五分利公債證書ノ額面種類ハ五千圓、千圓、五百圓、百圓及五拾圓ノ五種トシ臺灣事業公債證書ノ額面種類ハ五千圓、千圓、五百圓、百圓、五拾圓、拾五圓及拾圓ノ七種トス

明治三十七年十二月二十四日　大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第四十七號

明治三十二年大藏省令第三十五號收容貨物敷料定率表左ノ通改メ明治三十八年一月一日ヨリ施行ス但シ施行ノ際現存スル收容貨物ニ付テハ收容當時ニ行ハルル率ニ依ル

明治三十七年十二月二十八日　大藏大臣男爵曾禰荒助

收容貨物敷料定率表

番號	品名	每十立方尺一日間敷料
	第一類　布帛	
一	「ブランケット」	〇一五
二	旗布	〇二五
三	吳呂	〇二五
四	地氈類	〇一五
五	絹繻子	〇四五
六	蚊帳布	〇二五
七	綿帆布	〇二五
八	綿「イタリアンス」	〇一五
九	更紗類	〇二五
一〇	綿繻子	〇一五
一一	綿天鵞絨	〇一五
一二	柳條布	〇二五
一三	靴裏類布	〇一五
一四	「フランネル」	〇一五
一五	毛綿「フランネル」	〇二五
一六	「ゴンニー」布	〇一五
一七	綿製手巾	〇一五
一八	「イタリアン、クローツ」	〇二五
一九	綾吳呂	〇三〇
二〇	麻帆布	〇二五
二一	麻布類	〇二五
二二	縮緬吳呂	〇二五
二三	「セルヂス」	〇三〇
二四	金巾類	〇二五
二五	絹綿布	〇三〇
二六	絹綿繻子	〇四五
二七	絹綿天鵞絨	〇一五
二八	支那絹紬	〇六〇
二九	繻子	〇一五
三〇	支那絹繻子	〇三〇
三一	唐棧	〇二五
三二	浴巾	〇一五
三三	毛綿羅紗	〇一五
三四	毛綿製旅毯	〇一五
三五	毛製旅毯	〇一五
三六	寒冷紗	〇一五
三七	羅紗	〇三〇
三八	毛製外套	〇一五
	第二類　絲縷	
三九	綿縫絲	〇三〇
四〇	綿撚絲	〇二五
四一	屑綿絲	〇一五
四二	麻撚絲	〇二五

四三	坐繰	一一五		
四四	麻繊維	○二五		
四五	紐繊維	○二五		
四六	毛繊	○二五		
	第三類　衣服及附属品			
四七	帽子	○二五		
四八	洋衣	○二五		
四九	綿製「メリヤス」編粋股引	○二五		
五〇	毛製「メリヤス」編粋股引	○二五		
五一	毛繊製「メリヤス」編粋股引	○三〇		
	第四類　食物			
五二	乾酪	○一五		
五三	珈琲	○一五		
五四	生卵	○一五		
五五	乳蓉	○一五		
五六	調味	○一五		
五七				
	第五類　酒類			
五八	麥酒	○一五		
五九	「ブランデー」	○一五		
六〇	「レヤンパン」	○一五		
六一	杜松子酒	○一五		
六二	「ボルト」	○一五		
六三	「ウヰスキー」	○一五		
六四	雑酒	○一五		
	第六類　煙草			
六五	巻煙草	○一五		
六六	紙巻煙草	○一五		
六七	刻煙草	○一五		
六八	同（機入ノモノ）	○一五		
六九	葉煙草			
	第七類　砂糖			
七〇	砂糖	○二五		
七一	精糖	○二五		
七二	氷砂糖	○二五		
七三	糖蜜及糖水	○二五		
	第八類　薬品及図			
七四	石炭酸	○一五		
七五	撒里矢爾酸	○一五		
七六	明礬	○一五		
七七	安知欧税林	○一五		
七八	安知必林	○一五		
七九	樟腦子	○一五		
八〇	次硝酸蒼鉛	○一五		
八一	柱皮			
八二	柱皮油	○一五		
八三	丁香	○一五		
八四	阿仙薬及檳榔青	○一五		
八五	西里酸林	○一五		
八六	亜拉比亜膠	○一五		
八七	沃度	○一五		
八八	硝酸銀（鉛筆）	○一五		
八九	硫酸銅（鉛筆）	○一五		
九〇	規尼涅	○二五		
九一	大黄	○一五		
九二	泊英爾	○一五		
九三	曹達灰	○一五		
九四	瓦斯酸曹達	○一五		
九五	苛性曹達	○一五		
	第九類　染料、彩料及塗料			
九六	「アニリン」染料	○二五		
九七	「アリザリン」染料	○一五		
九八	青銅粉	○三〇		
九九	乾藍	○三〇		
一〇〇	「ログウード」蓋幾斯	○一五		
一〇一	梔皮	○一五		
一〇二	色油	○一五		
一〇三	同（機入ノモノ）	○四五		
一〇四	紅花	○一五		
一〇五	蘇木	○一五		
一〇六	洋漆	○一五		
一〇七	支那漆	○一五		
一〇八	朱	○一五		
	第十類　金属及金属製品			
一〇九	試錬管	○一五		
一一〇	「ホヤブシユール」（燈ノ口ニ用ユル金具）	○一五		
一一一	時計類器	○一五		
一一二	電燈線	○一五		
一一三	線（機入ノモノ）	○一五		
一一四	同（機入ノモノ）	○二五		
一一五	日用雑器	○一五		
一一六	鉄金雑器	○一五		
一一七	鍛釘	○一五		
一一八	鉄線（機入ノモノ）	○一五		
一一九	鉛管	○一五		
一二〇	板鉛（巻キタルモノ）	○二五		
一二一	荒鉛	○一五		
一二二	機製其ノ他建築用材	○一五		
一二三	水鉛	○三〇		
一二四	歴青爾	○三〇		
一二五	鉄線索	○一五		
一二六	鋼線索	○二五		
一二七	鉄管	○一五		
一二八	非輸出軸及環	○一五		
一二九	鉄網板	○一五		
一三〇	鉄網板	○一五		
一三一	鉄亜鉛	○一五		
	第二類　鉄鋼及鋼	毎百斤十日間數料		
一三二	鉄鋼及鋼條	○一五		
一三三	塊	○一〇		
一三四	竿	○一五		
一三五	管及筒	○一五		
一三六	板	○一五		
一三七	軌條	○一五		
一三八	線（ハンカチ）	○一五		
一三九	鉄線	○一五		
一四〇	鉛（機）	○一五		
一四一	鉛（塊）	○一五		
一四二				
	第十一類　時計学術器具及機械			
一四三	手風琴	○一五		
一四四	掛時計	○一五		
一四五	置時計	○一五		
一四六	電燈器械	○一五		
一四七	消防器及噴筒器	○三〇		
一四八	農具及工匠具	○三〇		
一四九	発電器	○一五		
一五〇	蒸気器	○一五		
一五一	旋盤	○一五		
一五二	鉄道機関車	○一五		
一五三	鋼山機	○一五		
一五四	製紙機	○一五		
一五五	紡織機	○一五		
一五六	顕微鏡	○一五		
一五七	「オルゴール」	○一五		
一五八	寫眞機（寫眞器ト同ジク）	○一五		
一五九	「ピヤノ」	○一五		
一六〇	縫衣機	○一五		
一六一	猟銃	○一五		
一六二	汽鑵及汽機	○一五		
一六三	電話器	○一五		
一六四	梁鏡	○一五		
	第十二類　角牙皮革	毎立方尺十日間數料		
一六五	獣骨	○一五		
一六六	鹿濶毛皮	○一五		
一六七	生牛皮	○四五		
一六八	獣跡	○一五		
一六九	牛角及水牛角	○一五		
一七〇	鹿角	○一五		
一七一	熟皮	○一五		
一七二	海馬牙	○一五		
一七三	象牙	○一五		
一七四	染革	○一五		
一七五	粗底皮	○一五		
	第十三類　玻璃及玻製品			
一七六	空瓶	○一五		
一七七	玻璃鏡	○一五		
一七八	「プレート」玻璃片（「メルトナシ」ノ附ナシ）	○一五		
一七九	玻璃器	○一五		
一八〇	硬玻璃片	○一五		
	第十四類　油蠟			
一八一	獣脂	○一五		
一八二	機械用油	○一五		
一八三	阿列布油	○一五		
一八四	無味香蠟	○一五		
	第十五類　紙及文具			
一八五	製紙（活版用ノモノ）	○一五		

一八六	唐紙類		○一五
一八七	壁飾紙		○一五
一八八	「マッチ」用紙		○一五
一八九	包裝用紙		○一五
一九○	壁紙		○一五
一九一	印刷料紙		○一五
一九二	鉛筆		○二五
一九三	寫眞用紙		一九五
一九四	封蠟		○一五
一九五	濾紙		○一五
	第十六類　雜品		
一九六	石鹸		○一五
一九七	豆類		○一五
一九八	醋酸製品		○一五
一九九	鐵道客車		○一五
二○○	(セリユロイド)		○一五
二○一	石炭		○一五
二○二	[illegible]		○一五
二○三	乾酪		○一五
二○四	索條(機械用ノモノ)		○二五
二○五	自轉車		○一五
二○六	帆布管		○一五
二○七	「ポルトランド、セメント」		○一五
二○八	麻繩類(船用ノモノ)		○一五
二○九	鋼		○一五
二一○	椰子		○一五
二一一	故綿		○一五
二一二	綿絲		○一五
二一三	生綿		○一五
二一四	屑綿		○一五
二一五	棉種子		○一五
二一六	護謨紐		○二五
二一七	電燈用「ランプ」		○一五
二一八	金剛砂布		○一五
二一九	阿膠		○一五
二二○	石膏		○一五
二二一	骨油		○一五
二二二	護謨板		○二五
二二三	麥芽		○一五
二二四	獸皮蓆		○一五
二二五	簾		○一五
二二六	香水		○一五
二二七	陶器		○一五
二二八	「バッテリー」		○一五
二二九	油精		○一五
二三○	臘		○一五
二三一	米麥		○一五
二三二	白糖		○一五
二三三	靴墨		○一五
二三四	化粧石鹸		○一五
二三五	洗濯石鹸(流動石鹸ヲ除ク)		○一五
二三六	黑檀		○一五
二三七	「ポルプ」		○一五
二三八	海底電線及地下電線		○一五
二三九	木材及板		○一五
二四○	紫檀		○一五
二四一	礦石燐		○一五
二四二	小麥		○一五
二四三	羊毛		○一五
二四四	毛打紐		○三○
	第十七類　貴重品	十日間數料從價千分ノ五	
二四五	「アルミニューム」	同	
二四六	珊瑚	同	
二四七	金銀箔	同	
二四八	金液及銀液	同	
二四九	金銀細貨類	同	
二五○	麝香	同	
二五一	「プラチナ」	同	
二五二	貴石及眞珠	同	
二五三	金銀線	同	
二五四	懷中時計	同	
二五五	其他ノ貴重品	同	
	第十八類　危險品	每立方尺十日間數料	
二五六	酒精(「アルコール」)		○四五
二五七	樟腦		○四五
二五八	古倫賓謨及意撒兒		○四五
二五九	「ダイナマイト」		○四五
二六○	煙火		○四五
二六一	氣油		○四五
二六二	綿火藥		○四五
二六三	火藥		○四五
二六四	「マッチ」		○四五
二六五	石油		○四五
二六六	揮發油		○四五
二六七	格魯兒酸加里亞斯		○四五
二六八	赤燐		○四五
二六九	黄燐		○四五
二七○	硝石		○四五
二七一	其他危險品		○四五

本表ニ掲ケサル物品ハ類似物品ノ定率ヲ準用ス其類似物品ナキトキハ每立方尺十日間金錢五厘ノ數料ヲ徵收ス

數料ハ十日每ニ計算ス其十日未滿ノトキモ仍ホ十日分ヲ徵收ス

數料ノ總額ニ厘位ヲ生スルトキハ切捨トス

○陸軍省令第三十號

明治二十九年陸軍省令第二十五號中左ノ通改正ス

明治三十七年十二月六日　　陸軍大臣寺內正毅

「國民軍條例第四條」ヲ「明治三十七年勅令第二百三十三號」ニ改ム

第一項中「看護手」ヲ「竝上等兵ト同等階級ノ者」ニ改ム

第三項中「看護手」ヲ「上等兵ト同等階級ノ者」ニ改ム

第四項中「看護手」ヲ「及上等兵ト同等階級ノ者」ニ改ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第二十五號(明治二十九年十二月五日)抄錄

國民軍條例第四條ニ依リ國民軍編入志願者ノ願出ニ關スル規程左ノ通定ム

一　國民兵役ニ在ラサル退役陸軍將校同相當官准士官及元陸軍下士上等兵看護手ニシテ國民軍編入志願ノ者ハ編入年數ヲ定メテ九月三十日迄ニ願出ヘシ又數次此ノ願出ヲ爲スコトヲ得

三　元陸軍下士上等兵及看護手ニ在テハ町村長郡長又ハ市長ヲ經テ本籍地所管聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ願出ヘシ

四　前二項ノ願書ニハ住所生年月日及將校同相當官ニ在テハ元職、元下士ニ在テハ元官元職、元上等兵看護手ニ在テハ各其ノ等級ヲ記スヘシ

○陸軍省令第三十一號

明治二十五年陸軍省令第四號中「千住製絨所長」ノ次ニ「陸地測量部長」ヲ加フ

陸軍大臣寺内正毅

【參照】

明治三十五年二月五日陸軍省令第四號ハ不動產登記ノ囑託ニ付キ官吏指定ノ件ナリ

○司法省令第二十三號

大阪地方裁判所管内池田區裁判所東鄉出張所ヲ攝津國豐能郡東鄉村大字地黃ニ移シ地黃出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十七年十二月二十六日ヨリ施行ス

司法大臣波多野敬直

○司法省令第二十四號

岡山地方裁判所管内岡山區裁判所上田出張所ヲ圓城出張所、高梁區裁判所東成羽出張所ヲ成羽出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十八年一月一日ヨリ施行ス

明治三十七年十二月二十二日

司法大臣波多野敬直

○文部省令第二十號

明治二十五年文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則中左ノ通改正ス

明治三十七年十二月一日

文部大臣久保田讓

第十五條第一號第三號及第十六條第一號第二號中「確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日」ヲ「裁判確定ノ日」ニ改ム

【參照】

文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則（明治二十五年二月十日）抄錄

第十五條　退隱料ヲ受クヘキ權利消滅レ若クハ停止セラルヘキ場合ノ外左ノ場合ニ於テハ退隱料ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ停止ス

一　重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヨリ以テ支給ヲ終ル

二　公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヨリ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

第十六條　扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル

一　日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヨリ以テ支給ヲ終ル

二　公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヨリ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

○文部省令第二十一號

明治二十五年文部省令第二號市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料支給規則中左ノ通改正ス

明治三十七年十二月一日

文部大臣久保田讓

第十三條第一號第四號及第十四條第一號第二號中「確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日」ヲ「裁判確定ノ日」ニ改ム

【參照】

文部省令第二號市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料支給規則（明治二十五年二月十日）抄錄

第十三條　退隱料ヲ受クヘキ權利消滅シ若クハ停止セラルヘキ場合ノ外左ノ場合ニ於テハ退隱料ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ停止ス

三　二箇月ノ期ニ過セサルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タル人分限ヲ失ヒタルトキハ其ヲ失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

四　公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ停ム刑期滿限ノ日ヲ經日ヨリ支給ヲ復ス

第十四條　扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其ヲ失ヒタル日當即ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二　公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ停ム刑期滿限ノ日ヨリ支給ヲ復ス

○文部省令第二十二號

小學校令施行規則第百十四條ノ證明書ヲ有スルモ戰時事變ニ際シ召集セラレタル爲同條ノ期間內ニ於ケル最終試驗ニ應スルコト能ハサル者ニシテ其ノ事故止ミタル後一個年間ニ於テ試驗檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ缺ク

本令ハ明治三十七年二月以後ニ於テ召集セラレタル者ニ之ヲ適用ス

明治三十七年十二月二十一日

文部大臣久保田鼎

〔參照〕

文部省令第十四號小學校令施行規則（明治三十三年八月二十一日）抄錄

第百十四條　試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試驗ニ合格セサル科目ニ關シ或種佳良ナルトキハ府縣知事ハ其ノ科目ノ試驗ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ三箇年以內ニ更ニ試驗檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ免ス

○文部省令第二十三號

明治三十二年文部省令第二十九號文部大臣ノ主管ニ關スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治三十七年十二月二十九日

文部大臣久保田鼎

第四條ヲ左ノ如ク改メ第五條及第六條ヲ削除ス

教育會ヲ除ク外法人ハ每年三月末ノ調査ニ依リ翌月中ニ財產目錄ヲ添付シ左ニ揭ク事項ヲ文部大臣ニ報告スヘシ但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度末ノ調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以內ニ之ヲ報告スヘシ

一　法人ノ目的ヲ達スル事業ノ狀況

二　前年中ノ處務ノ要件

三　前年ノ經費、收入支出金額及其ノ費目

社團法人ハ前項ニ揭ケタル事項ノ外社員ノ員數ヲ報告スヘシ

法人ヲ學校ニ於テハ第一項第一號及第二號ノ事項ハ之ヲ報告スルヲ要セス

〔參照〕

文部省令第三十九號（明治三十二年八月十六日）抄錄

第四條　法人ハ每年四月三十日マテニ社團法人ニ在リテハ財產目錄及社員ノ員數、財團法人ニ在リテハ財產目錄ヲ地方長官ニ提出スヘシ但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以內ニ之ヲ提出スヘシ

第五條　地方長官ハ法人ノ業務ヲ監督スヘシ

第六條　地方長官ハ法人ヨリ監督上必要ナル報告ヲ徵シ又ハ實地ニ就キ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ得

○農商務省令第十三號

明治三十七年農商務省令第十二號生絲檢查所法施行細則丙號雛形（共四）ヲ左ノ通改正シ明治三十八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年十二月十二日

農商務大臣男爵清浦奎吾

EMPIRE DU JAPON

CONDITION DES SOIES

ESSAI

No.....

Yokohama le.....190..

Marque

No.....

Présenté par M......

Soies grèges.....

Vitesse de la tavelle : 50 tours par minute.

5 flottes ont cassé.....*fois en 2 heures*

pour une ouvrière.....*à*.....*tavelles*

Netteté :

Duvets :

Bouchons :

Ténacité	Elasticité
Gmes	*%*
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
Moyen	

Numéro (*Nombre de 1000m aru Kilog*)

TITRE sur 450 mètres en ¼ poigr.

Pesée d' Ensemble : (*en 1/2 décigr*)

Addition des 20 pesées.

Titre moyen.

Le Directeur de l'Etablissement (*Signature*)

Le titre moyen est calculé sur la pesée d' Ensemble.

○農商務省令第十四號

繭絲繰糸工免許試驗規則左ノ通相定ム

明治三十七年十二月二十七日

農商務大臣男爵清浦奎吾

帝國日本生絲檢查所

品位檢定證

第　號

檢繰　明治　年　月　日

第　號　生絲　請求者.....

一分時間繰回轉數	50
五水繰返二時間切斷數	
工女一人受持繰數	乃至
節節	
小節	
大節	

強力 グラム	伸度 %
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
平均	

番手（一本ヨリグラム二對スルヤードトレン數）

纖度 四百五十メートルニ對スルヨリグラム

總量（中デシグラム）

二十ロ合計

平均纖度

EMPIRE DU JAPON 帝國日本 生絲檢查所 CONDITION DES SOIES

平均纖度ハ總量ヲ以テ計算スルモノトス

獣醫蹄鐵工免許試驗規則

第一條　獣醫蹄鐵工免許試驗ハ本則ニ依リ之ヲ行フ

第二條　獣醫免許試驗ノ科目左ノ如シ

一　家畜解剖學
二　家畜生理學
三　家畜藥物學
四　家畜内科學（繁殖病ヲ含ム）
五　家畜外科學（眼科學及産科學ヲ含ム）
六　獣醫衛生學（家畜傳染病ヲ含ム）
七　畜産學
八　臨床診斷及外科手術
九　蹄鐵學及其實地應用

蹄鐵工免許試驗ノ科目左ノ如シ

一　蹄鐵學
二　裝蹄到斷
三　遣鐵、裝蹄及削蹄

第三條　獣醫免許試驗ハ前條第一號乃至第七號ニ付テハ筆記試驗、第八號ニ付テハ實地試驗、第九號ニ付テハ筆記試驗及實地試驗ヲ行フ　蹄鐵工免許試驗ハ前條第二項第一號ニ付テハ筆記試驗、第二號ニ付テハ口述試驗及實地試驗、第三號ニ付テハ實地試驗ヲ行フ

獣醫免許試驗ニ在リテハ筆記試驗ニ、蹄鐵工免許試驗ニ在リテハ筆記試驗及口述試驗ニ合格セサル者ハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　試驗ハ毎年一回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ豫メ之ヲ告示ス

第五條　農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ選任シテ試驗ヲ行ハシム

第六條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ左記ノ書式ニ依リ願書ヲ作リ履歴書ヲ添ヘ試驗期日三十日前迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條　獣醫免許試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金二圓ヲ、蹄鐵工免許試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

前項手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ納付スヘシ

願書ヲ收受シタルトキハ當該官吏ハ其ノ適法ナルコトヲ認メタル後願書ノ紙面ト貼付印紙ノ彩紋トニ掛ケ墨肉ヲ用ヒテ消印ヲ押捺スヘシ但シ納付者ニ於テ消印ヲ押捺シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

既納ノ手數料及其ノ過剩額ハ之ヲ還付セス

第八條　受驗者ハ試驗期日ノ一日前迄ニ受驗地ニ到達シ其ノ宿所ヲ東京ニ在リテハ農商務省ニ他ノ地方ニ在リテハ其ノ地方廳ニ届出ツヘシ

第九條　試驗ニ合格シタル者ニハ試驗主事ヨリ合格證書ヲ附與ス

第十條　不正ノ方法ヲ以テ合格シタルトキハ合格ノ效ナキモノトス

附　則

明治二十三年農商務省令第六號蹄鐵工免許試驗規則及同年農商務省令第十一號獣醫免許試驗規則

獸醫踏鐵工免許試驗規則

第一條　獸醫踏鐵工免許試驗ハ本則ニ依リ之ヲ行フ

第二條　獸醫免許試驗ノ科目左ノ如シ

一　家畜解剖學
二　家畜生理學
三　家畜藥物學（獸醫藥物學ヲ含ム）
四　家畜內科學（獸醫內科學及ビ家畜內科學ヲ含ム）
五　家畜外科學（獸醫外科學及ビ家畜外科學ヲ含ム）
六　獸醫產科學（家畜產科學ヲ含ム）
七　畜產學
八　臨床診斷及外科手術
九　踏鐵學及其實地應用

踏鐵工免許試驗ノ科目左ノ如シ

一　蹄病學
二　裝蹄判斷
三　造鐵裝鐵及削蹄

第三條　獸醫免許試驗ハ前條第一號乃至第七號ニ付テハ筆記試驗、第八號ニ付テハ實地試驗、第九號ニ付テハ筆記試驗及實地試驗ヲ行フ　踏鐵工免許試驗ハ前條第二項第一號ニ付テハ筆記試驗、第二號ニ付テハ實地試驗ヲ行フ

獸醫免許試驗ニ在リテハ筆記試驗ニ、踏鐵工免許試驗ニ在リテハ筆記試驗及口述試驗ニ合格セサル者ハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　試驗ハ毎年一回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ豫メ之ヲ告示ス

第五條　農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ選任シテ試驗ヲ行ハシム

第六條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ左記ノ書式ニ依リ願書ヲ作リ履歷書ヲ添ヘ試驗期日三十日前迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條　獸醫免許試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金二圓ヲ、踏鐵工免許試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

前項手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ納付スヘシ

願書ヲ收受レタルトキハ當該官吏ハ其ノ適法ナルコトヲ認メタル後願書ノ紙面ト貼付印紙ノ彩紋トニ掛ケ墨肉ヲ用ヒテ消印ヲ押捺スヘシ但シ納付者ニ於テ消印ヲ押捺シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

既納ノ手數料及其ノ過剩額ハ之ヲ還付セス

第八條　受驗者ハ試驗期日ノ一日前迄ニ受驗地ニ到達シ其ノ宿所ヲ東京ニ在リテハ農商務省ニ、他ノ地方ニ在リテハ其ノ地方廳ニ屆出ツヘシ

第九條　試驗ニ合格シタル者ニハ試驗主事ヨリ合格證書ヲ附與スヘシ

第十條　不正ノ方法ヲ以テ合格シタルトキハ合格ノ效ナキモノトス

附　則

明治二十三年農商務省令第六號踏鐵工免許試驗規則及同年農商務省令第十一號獸醫免許試驗規則

ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

願書式

鐵道（軌道鐵工）免許試驗願

私儀第何回何地鐵道（軌道工）免許試驗相受度別紙履歴書ヲ添（此段相願候也

年　月　日

住所（寄留者ハ本籍ヲ併記ス（シ）
身分（職業
氏　名
年　月　生

右
氏　名印

農商務大臣宛

○逓信省令第七十一號

明治三十年十二逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加シ本月六日ヨリ施行ス

明治三十七年十二月五日

逓信大臣大浦兼武

「錦倉集山間金二十錢金十錢ノ次ニ

浦和大宮間　金二十錢　金十錢

「長岡新津間金二十五錢金十五錢ノ次ニ

東京大宮間	金二十五錢	金十五錢
川越大宮間	金二十五錢	金十五錢
熊谷大宮間	金二十五錢	金十五錢
千葉大宮間	金二十五錢	金十五錢
八王子大宮間	金二十五錢	金十五錢

川口大宮間　金二十錢　金十錢

羽田大宮間	金二十五錢	金十五錢
池上大宮間	金二十五錢	金十五錢
川崎大宮間	金二十五錢	金十五錢
横濱大宮間	金二十五錢	金十五錢

○逓信省令第七十二號

郵便為替貯金管理所受持區域内ノ郵便局所ニ於テ通帳ヲ受領シメル郵便貯金預ケ人ハ逓信省構内郵便局ニ於テ貯金ノ全部又ハ幾部ノ直接拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該郵便局ニ於テ拂戻證書ヲ請求人ニ交付シ直ニ現金ノ拂渡ヲ爲ス

明治三十七年十二月二十日

逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第七十三號

明治三十年十二逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ明治三十七年十二月二十六日ヨリ施行ス

明治三十七年十二月二十四日

逓信大臣大浦兼武

「川口大宮間ノ次ニ左ノ通追加

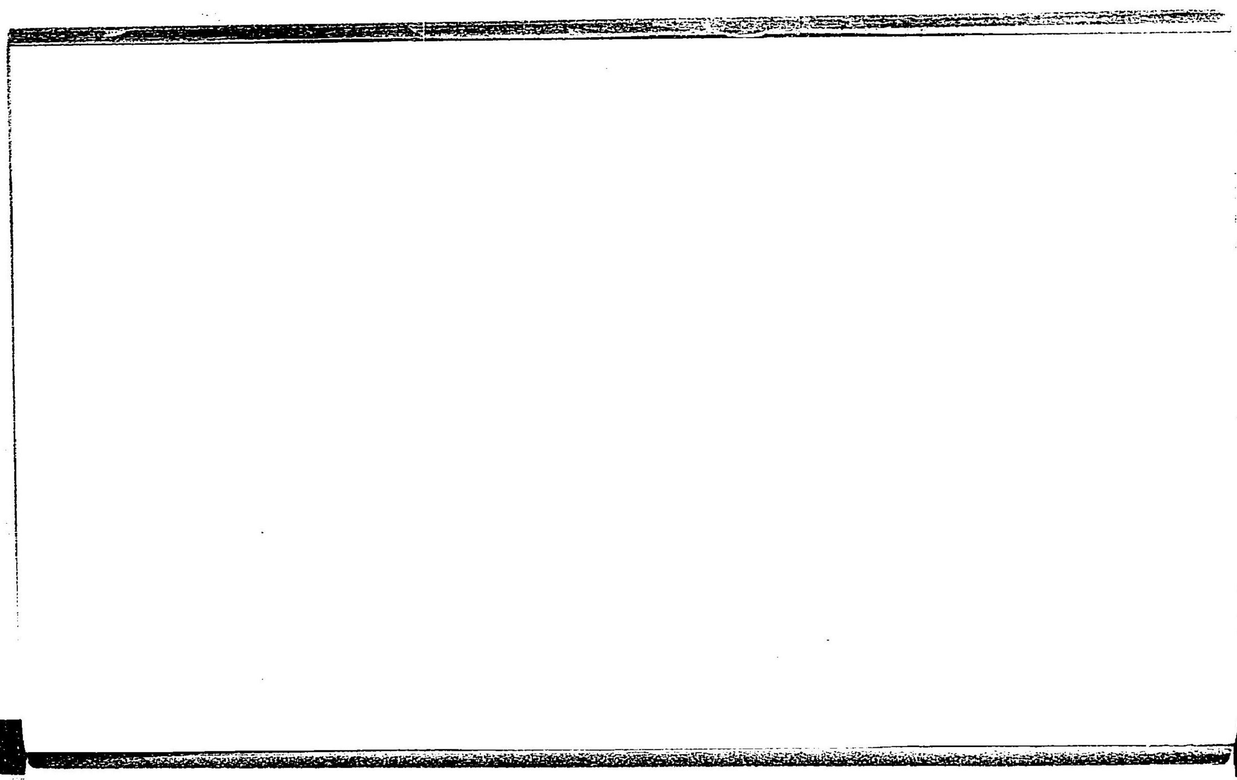
横須賀逗子間	金二十錢	金十錢
鎌倉逗子間	金二十錢	金十錢

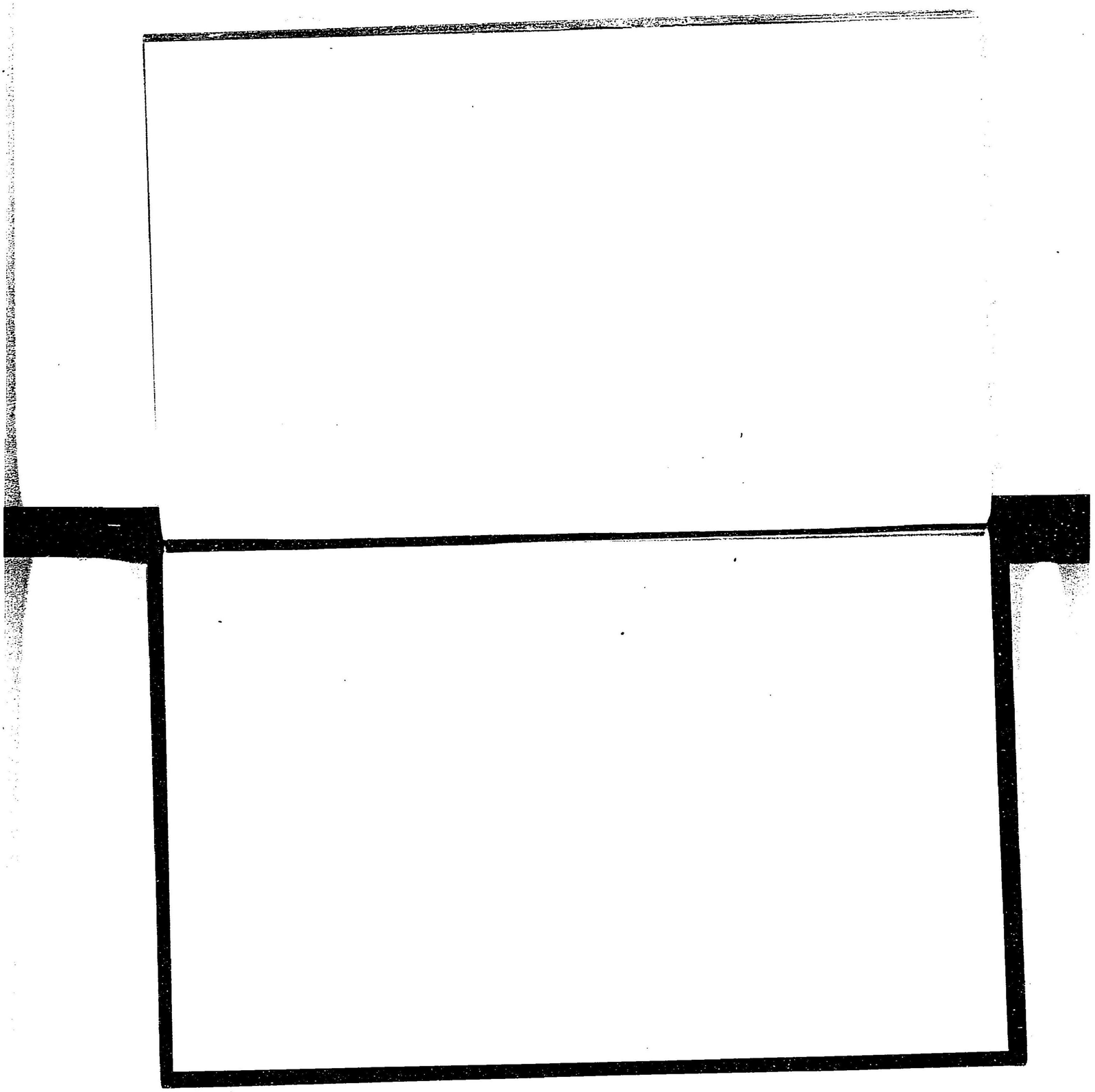
「横濱大宮間」ノ次ニ左ノ通追加

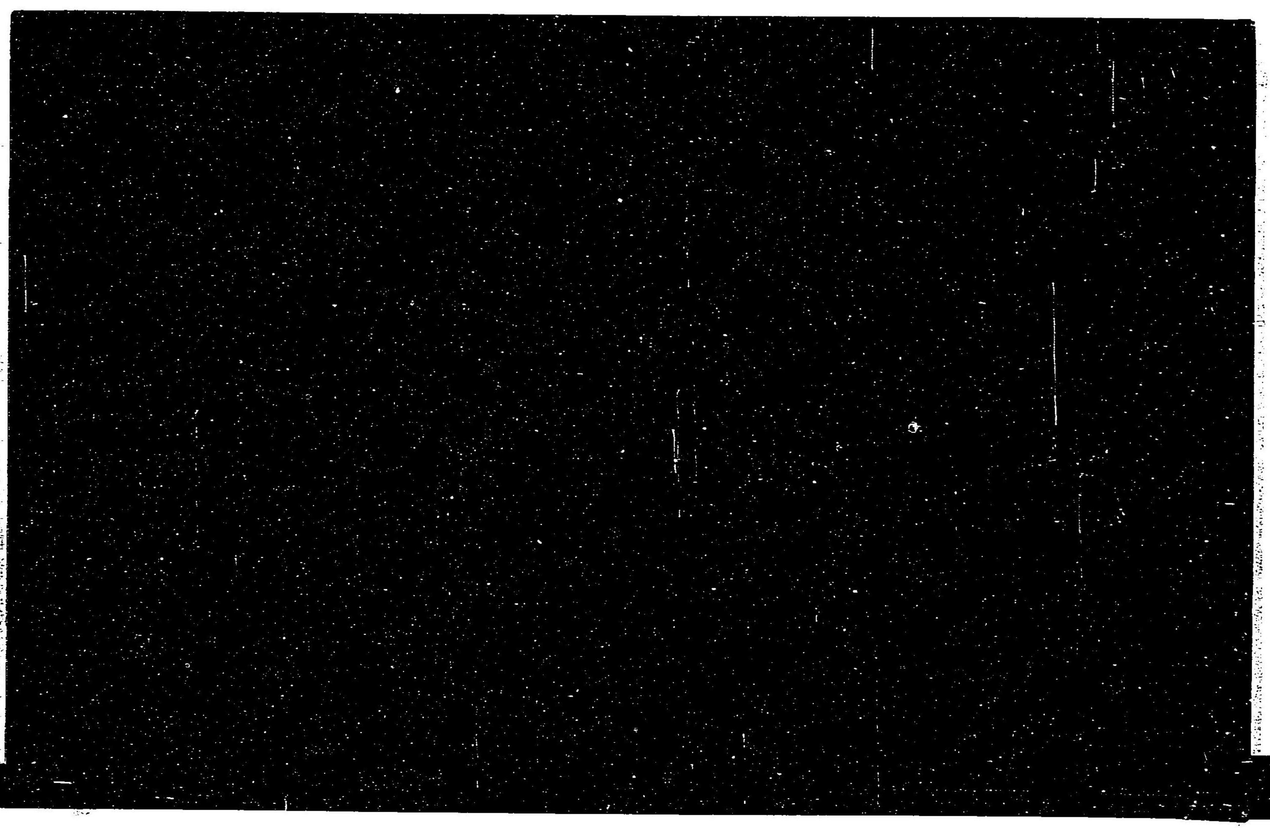
横濱逗子間	金二十五錢	金十五錢
東京逗子間	金二十五錢	金十五錢

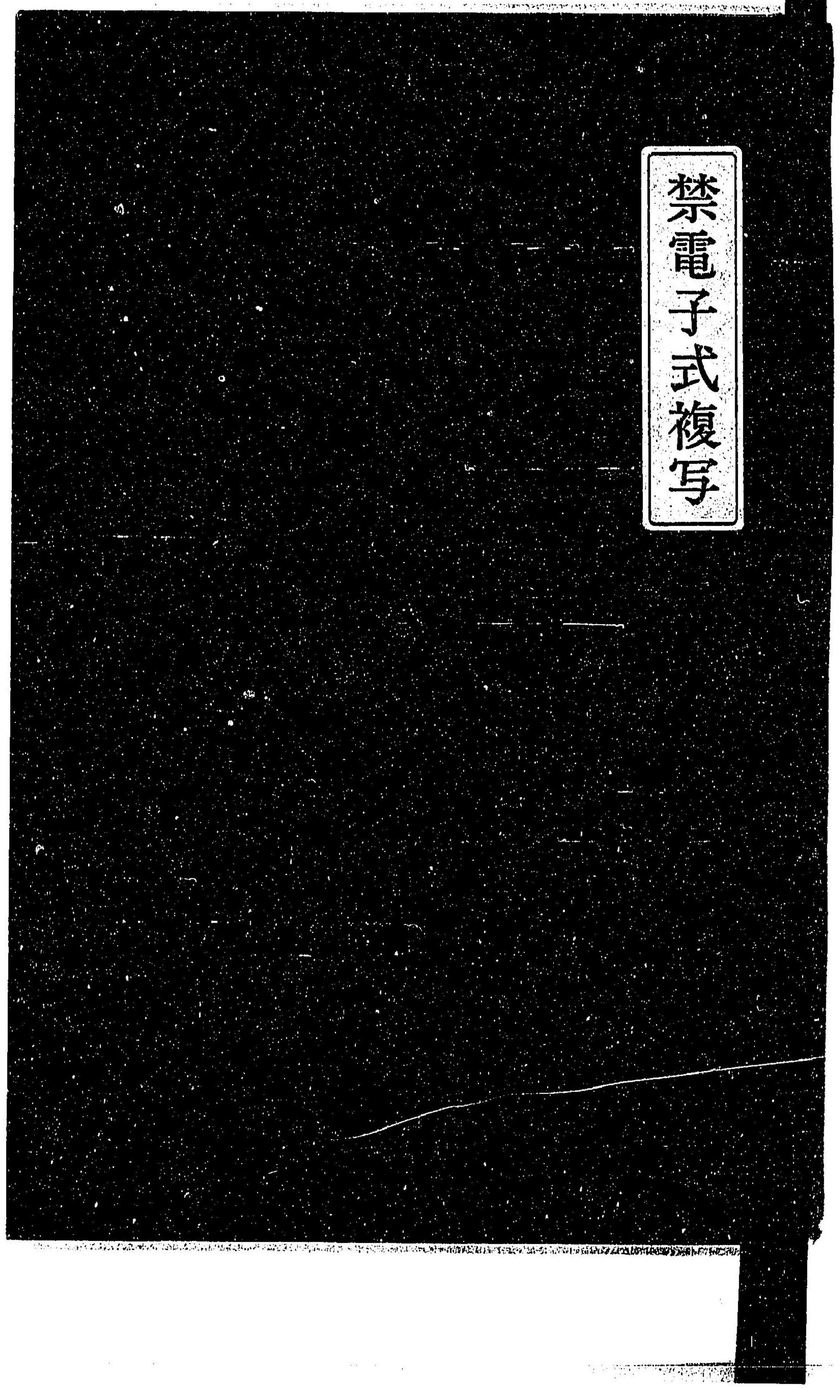
左記各項削除

明石鹽子間	金二十錢	金十錢
鹽屋鹽屋間	金二十錢	







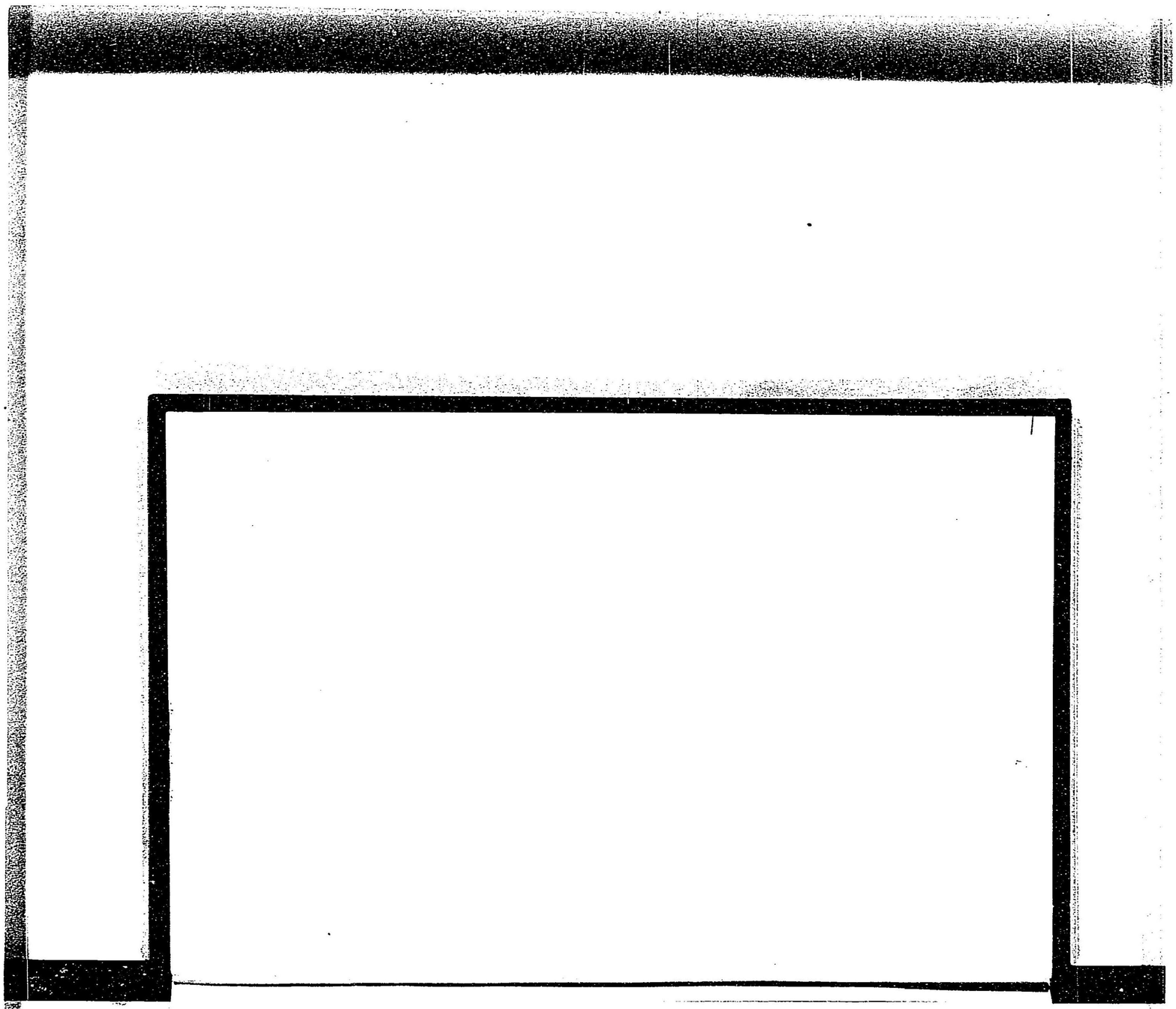


031130-090-9

CZ-4-1

法令全書 慶応3年10月-明治45年7月

内閣官報局

M20-45

BBC-1049